

アルゼンティン国における農牧林業の
生産流通実績
(1985～1989)

<平成3年>

JICA LIBRARY



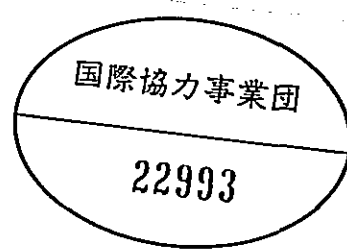
1093927(0)

22993

国際協力事業団サン・パウロ事務所
農業情報室

目 次

1.	一般概況	13
1.1.	自然環境	13
1.1.1.	アルゼンチン国の位置, 国土面積, 人口	13
1.1.2.	地 勢	14
1.1.3.	気 象	16
1.2.	経済概況(統計)	17
1.2.1.	一般経済指標	17
1.2.2.	農業部内の概況	26
2.	主要農産物の生産流通実績	29
2.1.	穀 類	29
2.1.1.	小 麦	29
2.1.2.	トウモロコシ	41
2.1.3.	ソルガム	53
2.1.4.	からし麦	62
2.1.5.	大 麦	66
2.1.6.	ライ麦	72
2.1.7.	き ね	75
2.1.8.	アルピステ	79
2.1.9.	米	83
2.2.	油脂原料作物	88
2.2.1.	大 豆	88
2.2.2.	ふまわり	101
2.2.3.	亞 麻	109
2.2.4.	落花生	114
2.2.5.	油 桐	118
2.2.6.	オリブ	119
2.3.	工業原料作物	120
2.3.1.	砂糖キビ	120
2.3.2.	綿	121



2.3.3	フォルミオ	123
2.3.4	ぶどう	123
2.3.5	ホップ	123
2.3.6	煙草葉	124
2.3.7	茶	124
2.4	果実	125
2.4.1	リンゴ	125
2.4.2	梨	127
2.4.3	柑橘類	128
2.5	野菜類	131
2.5.1	じゃがいも	131
2.5.2	トマト	131
2.5.3	えんどう豆	132
2.5.4	玉ねぎ	133
2.5.5	ポロト豆	134
2.6	畜産物	135
2.6.1	牛	135
2.6.2	羊	138
2.6.3	その他	139
2.7	林業部内	141

＜ 図表索引 ＞

表	A - 1	アルゼンチンの人口推移	13
・	・	2 州別面積・人口及び人口密度 (1980年時点)	14
・	・	3 標高別面積比率	14
・	・	4 気温及び降雨量 (1978年)	16
・	・	5 ラテン・アメリカ統合市場 (ALADI) におけるアルゼンチンの位置; 経済指標 (1989)	17

表

A - 6	ラテンアメリカ統合市場(ALADI)に加盟するアルゼンチンの位置：1人当り所得	17
" 7	国内総生産高と1人当り所得	17
" 8	国内総生産・構成率	18
" 9	国内総生産推移 1980=100の指数	18
" 10	工業部門の年間成長率	18
" 11	最近の工業生産：87年 90年対比	19
" 12	石油の生産、輸出入及び消費	19
" 13	自動車保有台数(正規の登録数)	19
" 14	物価指数	20
" 15	年間平均為替レート及び金回率	20
" 16	最近の為替レート(1990)	20
" 17	貿易収支	21
" 18	アルゼンチンの対外債務と外債保有高	21
" 19	アルゼンチンの輸出構造	22
" 20	アルゼンチンの輸入構造(主要品目)	23
" 21	輸出先市場	24
" 22	輸入先市場	24
" 23	アルゼンチンの国際収支	25
" 24	国エの利用状況(1969年のデータ)	26
" 25	農場数と農村人口及び単荘面積(1969)	26
" 26	農地の所有形態(1969) A	27
" 27	(") B	27
" 28	農業部門の経済人口推移	27
" 29	穀類の生産、輸出、価格	27
" 30	農業部門の輸出	28
" 31	アグロインダストリー製品輸出の内訳	28

表	B - 1	小	表	: 20年次の生産推移	29
"	"	2	"	: 州別生産推移	30
"	"	3	"	: 88/89年の生産状況	30
"	"	4	"	: 世界の世界生産推移	32
"	"	5	"	: 世界の世界栽培面積と生産量	32
"	"	6	"	: 世界の世界単収(主要国と平均)	33
"	"	7	"	: 世界の世界供給状況	35
"	"	8	"	: 世界の世界輸出入	36
"	"	9	"	: 輸出推移	37
"	"	10	"	: 国別・年度別・輸出実績	38
"	"	11	"	: フエノス・アリス港渡し価格	39
"	"	12	"	: 国内価格推移	40
"	"	13	とらち3ニレ	: 生産推移	41
"	"	14	"	: 州別生産実績(88/89)	42
"	"	15	"	: 州別生産推移	43
"	"	16	"	: 州別単収	43
"	"	17	"	: 世界の世界鋼材生産量	44
"	"	18	"	: 鋼材作物-世界の世界生産消費	44
"	"	19	"	: " - 世界の世界輸出入	45
"	"	20	"	: 世界の世界栽培面積と生産量	46
"	"	21	"	: 世界の世界単収	47
"	"	22	"	: 世界の世界供給	48
"	"	23	"	: 世界の世界輸出入	49
"	"	24	"	: 輸出推移	50
"	"	25	"	: 輸出先国別実績	50
"	"	26	"	: 輸出価格(FCB. BUENOS AIRES)	51

表

B - 27	とうもろこし	: 国内市場価格	52
"	ソルガム	: 生産推移	53
"	"	: 88/89農年の生産状況	55
"	"	: 州別生産推移	55
"	"	: 世界の生産推移	56
"	"	: 世界の栽培面積と生産量	56
"	"	: 世界の単収	57
"	"	: 世界の需給	58
"	"	: 世界の輸出入	59
"	"	: 国別・年度別輸出実績	59
"	"	: 輸出実績	60
"	"	: 輸出価格 (FOB BUENOS AIRES)	60
"	"	: 国内価格推移	61
"	からすま	: 生産推移	62
"	"	: 州別生産実績 (88/89)	63
"	"	: 州別生産推移	64
"	"	: 世界の栽培面積と生産量	64
"	"	: 世界の単収	65
"	"	: 世界の輸出入	65
"	"	: 輸出推移	66
"	"	: 国別・年度別輸出実績	66
"	大麦	: 生産推移	67
"	"	: ビール原料用大麦 - 州別生産推移	68
"	"	: ビール用大麦 - 州別生産実績 (88/89)	68
"	"	: 飼料用大麦 - 州別生産推移	69
"	"	: " - 州別単収	69
"	"	: 世界の生産推移	70

表

B - 54	大 麦	: 世界の輸出入	71
55	"	: 世界の産額	71
56	"	: 国別、年度別輸出入表	71
57	シ イ 麦	: 過去10年間の生産推移	72
58	"	: 州別生産推移	73
59	"	: 州別単収の推移	73
60	"	: 世界の栽培面積と生産量	73
61	"	: 世界の単収	74
62	"	: 世界の輸出入	74
63	之 以	: 生産推移	75
64	"	: 州別生産推移	76
65	"	: 州別単収	76
66	"	: 世界の栽培面積と生産量	77
67	"	: 世界の単収	77
68	"	: 輸出推移	78
69	"	: 輸出先国別表	78
70	"	: 国内市場価格	79
71	ア ル ヒ オ ス テ	: 生産推移	79
72	"	: 州別生産推移	80
73	"	: 州別単収	80
74	"	: 輸出推移	80
75	"	: 輸出先中核	80
76	"	: 国内市場価格	80
77	米	: 生産推移	83
78	"	: 州別生産推移	83
79	"	: 州別単収	83
80	"	: 国内の生産水準 (87/89)	84

表	B-	81	米	: 世界の栽培面積と生産量	25
"	"	82	"	: 世界の単収	25
"	"	83	"	: 世界の輸出入	26
"	"	84	"	: 輸出推移	26
"	"	85	"	: 輸出先国	27
"	"	86	大豆	: 生産推移	28
"	"	87	"	: 州別生産推移	29
"	"	88	"	: 州別単収	29
"	"	89	"	: 州別生産実績(88/89)	90
"	"	90	"	: 世界の栽培面積と生産量	90
"	"	91	"	: 世界の単収	91
"	"	92	"	: 世界の貿易	92
"	"	93	"	: 世界の輸出入	93
"	"	94	大豆粕	: 世界の生産消費及び在庫	94
"	"	95	"	: 世界の輸出入	95
"	"	96	大豆油	: 世界の生産消費及び在庫	96
"	"	97	"	: 世界の輸出入	96
"	"	98	大豆	: 輸出先国別実績	97
"	"	99	大豆粕	: 国別・年度別輸出実績	97
"	"	100	大豆油	: 輸出先国別実績	98
"	"	101	大豆	: 国内市場価格	99
"	"	102	大豆油	: "	99
"	"	103	大豆粕	: "	100
"	"	104	大豆	: 輸出価格	100
"	"	105	大豆	: 80年代の生産推移	101
"	"	106	"	: 州別生産推移	102
"	"	107	"	: 州別単収	102

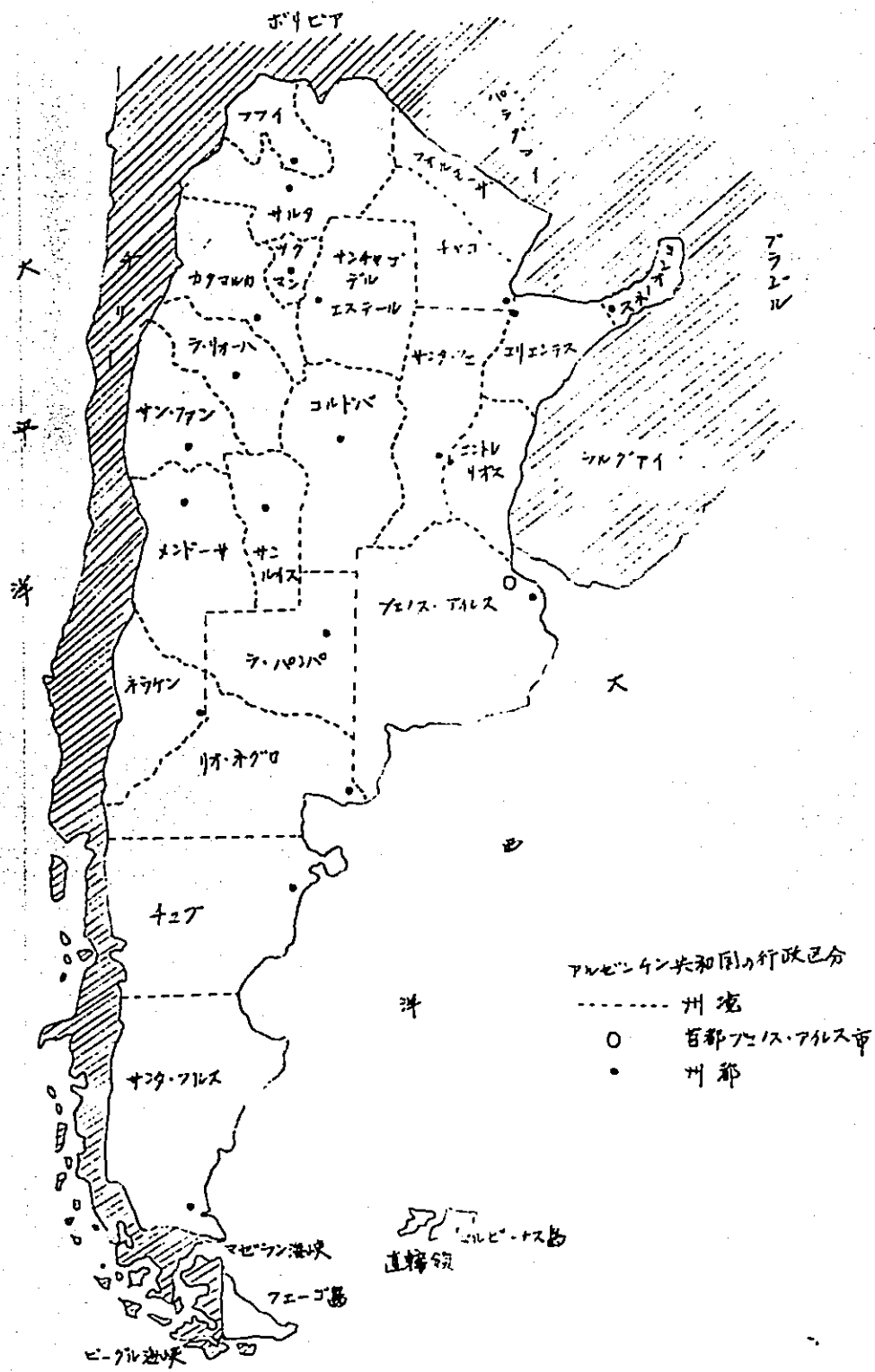
表	B	108	大豆	州別生産実績(88/89)	103
"	"	109	"	世界の栽培面積と生産量	103
"	"	110	"	世界の単収	104
"	"	111	"	世界の専作	106
"	"	112	"(種子)	輸出実績	106
"	"	113	"	輸出先市場	107
"	"	114	大豆油	"	107
"	"	115	大豆粕	"	107
"	"	116	大豆種子	国内市場価格	108
"	"	117	大豆油	"	108
"	"	118	大豆粕	"	108
"	"	119	亚麻	過去10年間の生産推移	109
"	"	120	"	州別生産状況(88/89)	110
"	"	121	"	州別生産推移	110
"	"	122	"	州別単収	111
"	"	123	"	亚麻80%副産物の価格	112
"	"	124	亚麻(種子)	輸出実績	112
"	"	125	亚麻油	"	113
"	"	126	亚麻粕	"	113
"	"	127	亚麻	国内価格推移	113
"	"	128	亚麻油	"	113
"	"	129	亚麻粕	"	114
"	"	130	落花生	過去10年間の生産推移	114
"	"	131	"	州別生産状況(88/89)	115
"	"	132	"	生産推移	115
"	"	133	"	単収推移	115
"	"	134	"	世界の栽培面積と生産量	116

表	B - 135	落花生	: 世界の単収	116
"	" 136	"	: 輸出実績	117
"	" 137	落花生油	: 輸出実績	117
"	" 138	落花生(工業原料)	: 国内価格推移	117
"	" 139	落花生油	: "	117
"	" 140	油 桐	: 生産状況	118
"	" 141	"	: 州別生産状況	118
"	" 142	"	: 油桐油の輸出実績	118
"	" 143	オリーブ	: 生産推移	119
"	" 144	砂糖キビ	: "	120
"	" 145	郎	: 砂糖の生産、消費、貯蔵 生産推移	120 121
"	" 146	"	: 州別生産状況(87/88)	122
"	" 147	"	: 戦後の輸出	122
"	" 148	フォルミオ	: 生産推移	123
"	" 149	ふとら	: "	123
"	" 150	ホップ	: "	123
"	" 151	煙草葉	: "	124
"	" 152	"	: 州別生産状況(87/88)	124
"	" 153	茶	: 生産推移	124
"	" 154	リンゴ	: "	125
"	" 155	"	: 州別生産状況	125
"	" 156	"	: 国別輸出実績(重量)	126
"	" 157	"	: " (金額)	126
"	" 158	梨	: 生産推移	127
"	" 159	"	: 州別生産状況	127
"	" 160	"	: 国別輸出実績(重量)	127
"	" 161	"	: " (金額)	128

表	B - 162	かんきつ類	レモンの生産推移	128
"	163	"	レモンの州別生産状況	128
"	164	"	マンダリンの生産推移	128
"	165	"	マンダリンの州別生産状況	129
"	166	"	オレンジの生産推移	129
"	167	"	オレンジの州別生産状況	129
"	168	"	グレープフルーツの生産推移	130
"	169	"	グレープフルーツの州別生産状況	130
"	170	"	国別輸出実績(重量)	130
"	171	"	(金額)	130
"	172	じゃがいも	生産推移	131
"	173	トマト	"	131
"	174	"	州別生産状況(87/88農年)	132
"	175	えんどう豆	乾燥用えんどう生産推移	132
"	176	"	青えんどう生産推移	132
"	177	"	国別輸出実績	133
"	178	玉ねぎ	生産推移	133
"	179	"	州別生産状況(87/88)	133
"	180	ポロポ豆	生産推移	134
"	181	"	州別生産状況(87/88)	134
"	182	"	国別輸出実績	134
"	183	牛	アルゼンチン牛肉生産に因付コクター(A)	136
"	184	"	(B)	136
"	185	"	アルゼンチンに因付牛肉消費量(牛肉)	136
"	186	"	牛肉の輸出実績(重量)	137
"	187	"	(金額)	137
"	188	"	価格	137

表

B-189	羊	： 羊肉に關するもの	138
190	”	： 羊毛に關するもの	139
191	豚	： 豚肉に關するもの	139
192	鶏	： 鶏肉の生産推定	139
193	”	： 鶏肉の卸売量	140
194	木材	： 木材の輸出入	141
195	”	： 国内の植林状況	141



1. 一般概況

1.1. 自然環境

1.1.1. アルゼンチン国の位置、国土面積、人口

1) 位置 : 南米大陸の最南端に位置し、北部をパラグアイ及びボリビア、西部をチリ、東北部をウルグアイ及びブラジルと接し、東部に大西洋に面する海岸線を有する。地理上の位置は次の通りである。

北端	南緯	21° 46' 50"	(フレイ州)
南端(大陸内)	-"-	55° 58' 35"	(フエーコ島)
東端	西経	53° 38' 52"	(ミシオンネス州)
西端	-"-	73° 34' 32"	(サントクルス州)

2) 面積

南米大陸内	2,258,829 Km ²
フエーコ島	21,263 "
マルビナス島	11,718 "
南極大陸内	964,250 "
周辺諸島	5,214 "
計	3,761,274 "

注) 南米大陸内ではブラジルに次いで大陸面積の15.5%を占める。

3) 行政区分と人口

行政上の区分は22州、1直轄領(首都ブエノスアイレス市)に分けられる。人口センサスが開始された1869年以降、1980年センサスまでの人口推移、各州別の面積及び1980年センサスにもとづく人口は、次表の通りである。なお、1990年センサスの結果は、調査時点にかんじたいに発表されていない。

表 1-1 アルゼンチンの人口推移

人口センサス年度	人口	1,000人
1869	1737.1	
1895	3,954.9	
1914	7,885.2	
1947	15,877.1	
1960	20,013.8	
1970	23,364.4	
1980	27,947.4	

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1983-1986

表 月-2 州別面積、人口、人口密度 (1970年12月1日)

州 別	首 都	面積 1,000km ²	1970年人口 1,000人	密度 1/km ²
フ ジ イ	J U J U Y	53.2	410.0	7.7
フォルモサ	FORMOSA	72.1	295.9	4.1
サルタ	SALTA	154.8	662.9	4.3
レジスタ	RESISTENCIA	99.6	701.4	7.0
ミゼオネス	POSADAS	29.8	589.0	19.8
カタマルカ	CATAMARCA	101.0	207.7	2.1
トゥクuman	TUCUMAN	22.5	472.7	21.0
サゴデルエステロ	SGO. DEL ESTERO	135.3	594.9	4.4
コリエンテス	CORRIENTES	88.2	661.5	7.5
ラリオハ	LA RIOJA	89.7	164.2	1.8
サンフェ	SANTA FÉ	133.0	2,465.5	18.5
サンファン	SAN JUAN	87.6	466.0	5.2
コルドバ	CÓRDOBA	168.8	2,407.8	14.3
エントレリアス	PARANA	78.8	902.3	11.5
サンルイス	SAN LUIZ	76.8	214.4	2.8
メントサ	MENDOZA	150.8	1,196.2	8.0
プラタ	LA PLATA	307.6	10,865.4	35.9
連邦首都圏	BUENOS AIRES	0.2	2,922.8	14,650.8
サンタローザ	SANTA ROSA	143.4	202.3	1.5
ネウケン	NEUQUÉN	94.1	243.9	2.6
リエグマ	VIEDMA	203.0	383.4	1.9
ラソン	RAWSON	224.7	263.1	1.2
リオガレゴス	RIO GALLEGOS	243.9	114.9	0.5
小計		2,758.9	27,920.0	
南極圏と近海諸島		1,002.4	27.4	1.3
合計		3,761.3	27,947.4	10.1

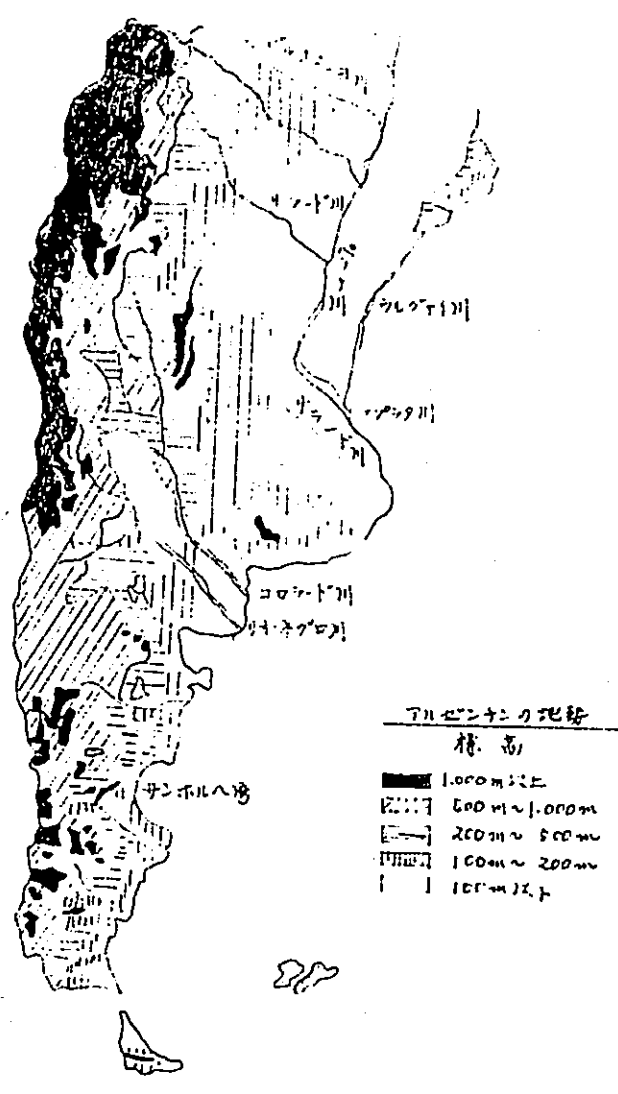
出所: ANUARIO ESTADISTICO 1986

1.1.2 地勢

表 月-3 標高別面積比率

標高 区 分	面積 1,000km ²	比率 (%)
0m ~ 100m	659.4	23.70
101 " ~ 200 "	579.9	21.02
201 " ~ 500 "	533.8	19.35
501 " ~ 2,000 "	702.1	25.45
2001 " ~ 5,000 以上	283.7	10.28
計	2,758.9	100.00

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1986



図上の標高別面積の割合は、パンパ平原を中心とする低地、アンデス山脈地帯の高地とその中間帯に3分される。中でも標高500m以下の低地の割合は面積の50%以上を占めており、この中国内農耕地帯の中心をなす通称パンパ地帯は、63百万ヘクタールの面積を占め、ブエノスアイレス州の大部分、サンタ・フェ及びコルドバ州の約半分、ラ・パンパ州及びサンルイス州の一部を含む。

アルゼンチンのアンデス地帯は、アンデス山脈の最南端を形成し南下するに従って高度を落していき、その中には南米大陸の最高峰アコンカグア山(6,959米)地標高6千を越す高山を多く含んでいる。

国内の河川は、その大半がアンデス地帯を源流するもので大西洋に注いでおり、その沿線に肥沃な農業地帯を形成している。主要河川としてはブラジルの中央高原とアンデスを源流とする河川が合流するリオ・パラナ(1,800km)、アルゼンチンとブラジル、ウルグアイの国境を形成するリオ・ウルグアイ(1,000km)、アンデス地帯よりパラナ川に合流する北サート(2,000km)ボリビアのアンデス中腹地帯よりパラグアイの国境を越えてパラナ川に合流するリオ・ピルコマテヨ(850km)これにほぼ平行する、パルメー

水(1,000 km), 南部平原地帯を横断するリオコロラト, リオパラナ, リオデラプラタ各河川, ブエノスアイレス州内を流れるリオサルト等を主要河川としている。これらの河川は全国的に広く行われる灌漑事業の水源地として重要な役割を果たしている。

1.1.3 気象

表 A-9 気温, 湿度, 降水量 (1978年)

気象台	所在地(州)	緯度	標高(m)	気温(°C)		年間降水量(mm)
				1月	6月	
ラキアカ	JUJUY	22°06'	3,457	12.1	3.6	492.5
サルタ	SALTA	24°51'	1,220	20.5	7.4	246.5
トゥクuman	TUCUMAN	26°50'	420	20.4	14.7	1,004.6
ミッシェン	MISSIONES	27°25'	153	21.9	11.7	1,031.4
コリエンテ	CORRIENTE	27°27'	62	22.2	14.2	1,014.8
サンタフェ	Sgo. DEL ESTERO	27°46'	177	25.0	11.6	517.4
カタマルカ	CATAMARCA	28°20'	434	25.3	12.1	554.2
ラリオハ	LA RIOJA	29°23'	430	24.8	10.7	326.6
コルドバ	CORDOBA	31°19'	474	22.3	10.8	964.9
メンドサ	MENDOZA	32°50'	702	22.2	7.4	423.5
ブエノスアイレス	BUENOS AIRES	34°35'	25	23.6	10.4	1,432.1
サンタフェ		36°24'	187	22.1	7.8	620.5
バリャータ		41°09'	845	14.3	2.2	371.7
リオガリネゴ		51°40'	7			

* 1975年データ

1.2 経済概況 (統計)

1.2.1 一般経済指標

表 A-5 ラテンアメリカ統合市場 (ALADI) に加盟するアルゼンチン加盟国: 経済指標 (1989)

国 別	G. D. P. 100万ドル	インフレ率 年対前年増減率 (%)	外貨保有高 100万ドル	輸出入額 100万ドル	
				輸出額	輸入額
ブラジル	245,000	1,765.0	5,000	24,400	12,300
ペルー	168,000	19.7	2,000	22,765	22,411
アルゼンチン	60,000	3,079.5	2,419	7,573	4,202
パナマ	42,000	81.0	7,411	9,500	8,000
コロンビア	35,000	26.0	3,820	5,000	5,000
チリ	26,000	21.4	2,943	8,580	6,500
エクアドル	20,000	2,775.0	357	3,540	2,140
エクアドル	11,000	54.2	200	2,254	1,860
ウルグアイ	6,700	89.2	1,920	1,577	1,196
パラグアイ (*)	6,100	53.0	500	400	480
ボリビア (*)	3,200	12.0	450	720	615
ALADI 計	623,000	294.5	29,751	111,000	81,300

出所: INTERNATIONAL DEVELOPMENT BANK

*: パラグアイ と ボリビア の 外貨保有高 と 輸出入金額は 1987年度データ

表 A-6 ラテンアメリカ統合市場 (ALADI) に加盟するアルゼンチン加盟国: 人別所得

国 別	人別所得 US\$				実質成長率		
	1960	1970	1980	1989	1961-70	1971-80	1981-89
パナマ	2,723	3,569	3,851	3,035	2.7	0.8	-2.6
ウルグアイ	2,224	2,357	3,054	2,908	0.5	2.6	-0.6
アルゼンチン	2,491	3,342	3,617	2,695	2.0	0.8	-3.3
チリ	1,651	1,988	2,212	2,254	1.7	1.1	1.2
ブラジル	981	1,358	2,291	2,280	2.5	6.2	-0.1
パラグアイ	741	874	1,497	1,473	1.7	0.5	-0.0
コロンビア	747	922	1,273	1,432	2.1	3.3	1.0
エクアドル	1,293	1,456	1,788	1,343	2.5	0.8	-0.1
エクアドル	626	758	1,350	1,272	1.9	5.9	-0.7
ボリビア	459	849	1,052	760	2.6	2.2	-3.5
1961-1989平均	1,234	1,578	2,188	1,989	2.6	3.3	-1.1

出所: INTERAMERICAN DEVELOPMENT BANK

表 A-7 国内総生産高と人別所得

年 度	国内総生産高 100万ドル		人 口 100万人	1人当り所得 US\$	
	公定レートに基き換算	市場レートに基き換算		公定レート	市場レート
1981	86,777	84,219	27.5	3,053	2,955
82	54,328	68,846	29.0	1,773	2,374
83	72,677	81,761	29.0	2,465	2,772
84	65,765	74,320	30.0	2,190	2,475
85	57,923	71,290	30.6	1,875	2,332
86	71,738	80,800	31.2	2,301	2,591
87	71,577	86,859	31.7	2,260	2,742
88	79,870	79,608	32.3	2,476	2,462
89	44,516	74,336	32.8	1,356	2,264
90	76,527	96,526	33.4	2,287	2,887

出所: BCR, INDEC

表 A-8

国内総生産 構成率

%

内 訳	1981	82	83	84	85	86	87	88	89	90
農林水産	13.7	15.4	15.3	15.4	15.8	14.5	14.6	14.9	15.3	15.0
鉱 業	2.7	2.8	2.7	2.6	2.7	2.4	2.4	2.7	2.9	3.0
製造業	22.2	22.2	23.7	24.0	22.5	24.1	23.4	22.5	21.8	20.4
建 築	6.1	4.7	4.2	3.2	3.2	3.3	3.7	3.2	2.3	2.1
電気、ガス、火	3.7	4.0	4.2	4.4	4.6	4.7	4.9	5.3	5.5	5.5
商 業	15.7	14.2	14.4	14.6	14.0	14.5	14.3	13.8	13.3	12.0
輸送・通信	10.9	11.2	11.3	11.6	11.7	11.6	11.7	11.6	11.2	12.2
金融・保険	9.1	8.4	7.6	7.5	7.8	7.9	7.9	8.1	8.3	8.5
サ - ビ - ス	16.0	16.9	16.6	16.7	17.7	17.0	17.1	17.9	18.2	19.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-

出所: INDEC

表 A-9

国内総生産 推移 1980 = 100 上 L.C. 指数

内 訳	1981	82	83	84	85	86	87	88	89	90
農林水産	102	109	112	115	113	109	113	112	110	110
鉱 業	101	101	101	101	98	94	95	104	107	106
製造業	84	80	88	92	82	93	92	86	80	72
建 築	87	67	58	47	44	48	55	47	32	22
電気、ガス、水	79	102	110	117	117	128	135	143	140	133
商 業	90	78	81	85	78	85	86	80	74	70
輸送・通信	76	94	97	103	77	104	106	103	110	101
金融・保険	95	84	78	79	78	73	86	85	73	83
サ - ビ - ス	102	102	104	107	107	111	113	115	116	116
平均	93	87	95	94	90	95	97	94	90	87

出所: INDEC

表 A-10

工業部内の年間成長率

%

部 門 別	1985	1986	1987	1988	1989	1990
食品、飲料、煙草	0	7.0	-3.9	-9.4	0.8	-2.5
繊維、衣料、皮革	-22.3	22.0	-7.7	-2.4	-0.6	-3.6
木材 & 加工品	-14.4	20.7	-5.7	-15.8	-1.4	-10.9
紙、印刷	-3.3	4.9	-4.6	4.1	-4.2	5.9
化学	-5.7	9.2	-2.4	0.1	-5.6	-2.5
非金属鉱業	-22.3	22.5	9.1	-7.3	-16.5	-5.0
基礎金属	-6.6	12.6	12.2	2.9	6.0	-9.0
機械器具	-18.2	16.6	3.0	-13.4	-22.2	10.3
工業部内平均	-10.3	12.9	-0.5	-6.2	-7.0	-5.4

出所: BCRB

表 A-11 最近の工業生産：89年90年対比

品目	単位	1989	1990
7 人 2 ト	人	114,153	165,607
電力	1000 Kwh	4,448.6	3,662.8
石油	1000 t	46,461	47,367
製紙	1000 t	26,623	27,777
紙	1000 t	672.2	674.2
紙	1000 t	920.7	842.4
工機	t	278,780	281,250
合成	t	48,628	56,727
小機	t	223,533	225,153
P. V. C.	t	97,543	105,722
硫酸	t	204,091	201,874
硝酸	t	114,827	111,217
製鉄 (PIG IRON)	1000 t	3,324.6	2,701.2
鉄	1000 t	3,974.7	3,624.7
人工	t	3,491.0	2,417.0
合成	t	45,228.0	43,935.0
消費	t	131,478.0	138,356.0
ト	台	4,295	4,862
個人消費			
電気冷蔵庫	1000台	127.7	115.6
電気洗濯機	1000台	96.0	114.9
自動車			
乗用車	台	111,109	26,937
軽自動車	台	9,459	8,649
重量車	台	6,259	4,653
一般消費			
食油	t	1,491,042	1,259,628
小麦粉	t	2,240,508	2,818,170

出所：TENDENCIAS ECONOMICAS

表 A-12 石油の生産、輸出入と消費

年度	原油生産量	輸 入		石油加工	国内消費	対比増減率 (%)
		石油	副産物			
1981	25,524	1,281	546	2,827	24,466	104
82	25,196	228	114	2,219	23,219	106
83	25,203	-	72	1,561	23,734	106
84	24,715	-	111	1,306	23,500	105
85	23,624	-	53	3,092	20,645	115
86	22,358	-	31	1,046	21,343	105
87	22,045	-	1,761	751	23,058	96
88	23,107	-	1,517	1,761	21,919	101
89	23,666	-	442	2,665	21,443	110
90	23,832	-	21	4,327	17,466	122

出所：SECRETARIA DE ENERGIA

表 A-13 自動車保有台数 (正規自動車)

年度	乗用車	トラック	バス	計
1981	3,319.2	1,240.8	51.7	4,611.9
82	3,516.7	1,302.5	54.7	4,873.9
83	3,620.2	1,321.5	55.1	4,996.8
84	3,759.3	1,352.6	56.7	5,168.6
85	3,872.2	1,374.2	57.8	5,310.2
86	4,036.5	1,398.3	60.4	5,495.2
87	4,136.1	1,420.7	61.9	5,618.7
88	4,070.5	1,410.6	60.2	5,541.3
89	4,116.0	1,470.0	62.0	5,650.0
90	-	-	-	-

出所：ADEFA

表 A-14

物価指数

月別	卸物価指数				消費者物価指数			
	1987	88	89	90	1987	88	89	90
1	5.3	12.1	6.9	61.7	7.6	9.1	8.9	77.2
2	6.9	13.4	8.4	22.7	6.5	10.4	9.6	61.6
3	7.7	16.3	12.9	71.3	4.2	14.7	17.0	95.5
4	1.9	16.2	58.0	7.4	3.4	17.2	2.4	11.4
5	4.9	23.3	114.5	7.9	4.2	15.7	78.5	13.6
6	6.7	24.0	133.5	8.3	2.0	13.0	114.5	13.9
7	9.4	25.0	209.1	3.7	10.1	25.6	196.6	11.8
8	14.6	31.9	2.5	17.2	13.7	27.6	87.9	15.3
9	16.6	6.4	2.5	9.1	11.7	11.7	9.4	15.7
10	30.5	4.6	1.5	2.4	19.5	9.0	5.6	7.7
11	4.3	3.9	1.8	1.3	10.3	5.7	6.5	6.2
12	2.3	5.7	42.6	0.1	3.4	6.9	40.1	4.7

出所: INDEC

表 7-15

年間平均為替レートとA/U.S.金価格

年度	為替レート			為替レート (%)	金価格 U.S./円
	商業レート	金融レート	平均レート		
1983	0.01	0.01	0.015	50	381.5
1984	0.07	0.067	0.07	22.57	302.3
1985	0.6	0.6	0.7	16.67	327
1986	0.94	0.94	1.06	12.77	390.9
1987	2.15	2.31	2.7	25.52	442.6
1988	8.77	10.81	10.2	23.15	410.1
1989	396.2	407.4	461.4	16.5	400.1
1990	4,807.	4,807.	4,888.	1.7	380.

表 A-16

最近の為替レート(1990)

A/U.S.

月別	商業レート	自由レート	輸出レート		輸入レート
			農林水産	工業製品	
1	1.880	1.880	1.337	1.540	2.244
2	5.970	5.900	4.312	5.350	7.124
3	4.660	4.650	3.732	4.180	5.592
4	5.010	4.950	4.075	4.674	6.112
5	5.010	5.005	4.134	4.749	6.112
6	5.270	5.290	4.322	5.054	6.429
7	5.450	5.460	4.564	5.227	6.649
8	6.200	6.210	5.211	6.014	7.564
9	5.615	5.650	4.735	5.447	6.570
10	5.570	5.570	4.710	5.403	6.517
11	5.130	5.150	4.470	4.976	6.002
12	5.590	5.640	4.749	5.422	6.540

出所:

表 17-17 貿易収支 100万ドル

年度	輸出	輸入	収支
1981	11.207	11.559	-352
82	9.161	6.419	2.742
83	9.298	5.345	3.953
84	9.377	5.314	4.063
85	9.780	4.443	5.337
86	8.221	5.667	2.554
87	7.306	6.684	622
88	9.812	5.840	3.972
89	10.195	4.475	5.720
90	12.000	4.000	8.000

出所: BCRA * 90年は予備推定値

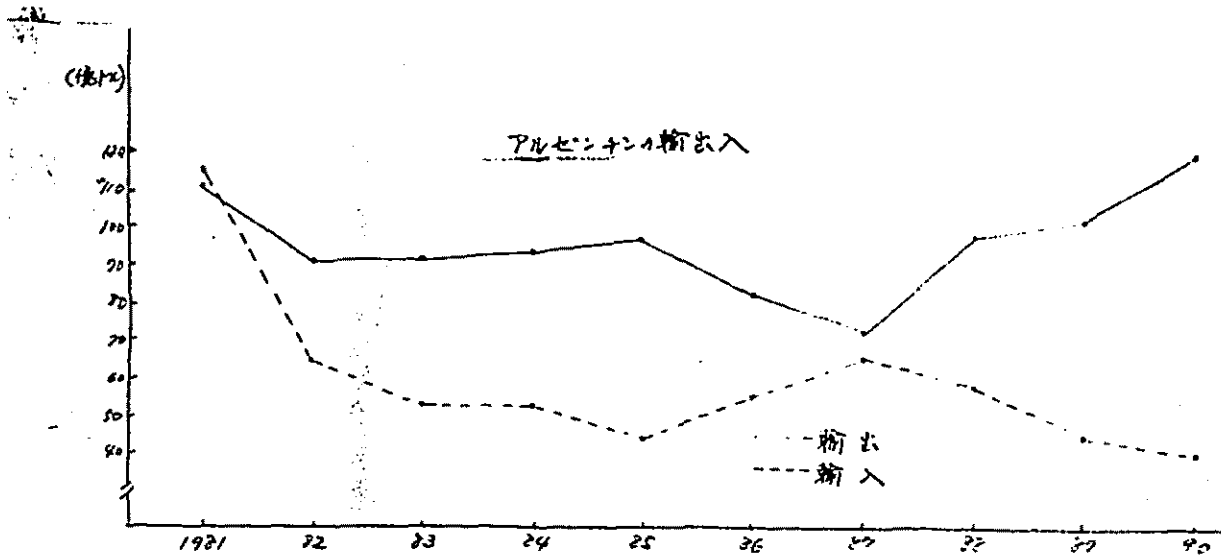


表 17-18 アルゼンチンの対外債務と外資保有高 100万ドル

年度	対外債務			外資保有高
	公共	民間	計	
1981	20,024	15,647	35,671	3,220.0
82	26,694	14,009	40,703	2,507.0
83	31,709	13,360	45,069	2,671.0
84	35,527	10,644	46,171	2,632.0
85	40,868	2,458	49,326	4,801.0
86	44,726	6,696	51,422	4,257.0
87	51,793	6,531	58,324	3,018.0
88	53,265	5,039	58,303	4,918.7
89*	58,397	4,917	63,314	3,419.4
90*	45,500	6,500	52,000	5,900.0

出所: B.C.R.A

表 A-19

1970年2月1日輸出協定

100%

分類	1985	86	87	88	89
才次産品					
穀類	2,262	1,245	744	921	1,016
油脂原料作物	735	647	334	634	211
豆类	144	202	242	251	152
果実類	123	174	153	159	259
綿織維	25	4	11	133	86
野菜類	94	126	81	23	96
羊毛(原毛)	67	65	63	90	66
皮革	56	39	38	46	56
蹄	26	24	27	29	23
生皮動物	5	5	6	7	8
その他	90	38	41	68	108
小計	3,677	2,525	1,746	2,421	3,081
農牧加工品					
食品工業類	515	822	277	1,443	1,335
動植物油	993	654	546	921	876
肉類	398	484	617	621	742
皮革	294	351	371	383	374
乳製品	16	23	16	57	137
羊毛(精製品)	129	114	127	153	106
野菜加工品	47	48	83	105	134
砂糖&副産物	34	35	29	67	63
茶類	38	33	30	34	42
飲料類	23	18	12	27	41
白木材料・染料	41	41	43	38	39
粉類	25	14	12	14	33
臭肉加工品	5	8	10	12	22
乾燥品・冷凍果実	14	14	15	18	16
その他	24	28	32	50	58
小計	2,596	2,687	2,826	3,943	4,618
工業加工品					
金属加工品	508	474	532	912	1,236
化学製品	279	228	291	458	487
機械器具	268	220	270	384	430
燃料&副産物	566	146	87	137	296
繊維加工品	50	63	113	134	192
輸送機器	236	212	135	171	190
プラスチック製品	49	63	83	179	170
紙&製品	27	28	49	93	116
ゴム&製品	43	31	38	65	92
皮革製品	22	30	47	60	65
その他	59	79	131	168	212
小計	2,107	1,634	1,776	2,763	3,466
その他	15	6	12	6	1
合計	8,395	6,852	6,360	9,133	9,567

出所: INDEC

表 甲-20

主要品目

100%

分類	1985	86	87	88	89
A. 資本財					
纖維及皮革機械	53.9	45.9	78.5	84.8	75.4
情報機械	122.5	91.3	59.7	72.7	87.9
船舶	10.7	6.5	-	1.5	52.1
その他項目に分類される機械	48.9	66.1	91.0	99.9	50.8
ポンプ・タービン	52.3	54.4	63.2	66.4	47.7
機械及電気工具	57.1	28.2	50.8	61.3	38.5
計量器具	26.8	30.8	46.4	52.1	35.4
気温増減機	13.2	18.4	24.2	49.7	27.0
土木用器具	18.8	30.0	57.1	19.3	19.9
食品工業用機械	11.6	13.7	21.7	29.0	18.9
製紙印刷機械	22.7	20.7	25.9	27.5	17.8
発電機	9.8	6.5	13.4	10.1	15.1
資材部品等運搬装置	10.3	10.9	28.2	23.1	14.5
農業機械	3.2	1.3	5.1	8.3	13.8
医療機器	8.8	12.1	18.0	23.2	13.3
内燃機関	12.8	9.5	13.8	14.9	13.0
金属加工機械	7.8	9.2	66.2	37.9	11.0
自動車	25.6	28.3	23.5	8.7	10.6
トラック	9.9	4.4	13.2	4.4	9.8
TV音響機器	31.4	13.7	10.9	8.5	9.2
事務所用器具	13.4	15.0	11.0	7.3	5.8
茶植用器具	2.5	1.1	3.9	4.3	4.2
その他	48.7	38.5	67.7	59.0	32.6
小計	604.2	553.5	855.6	772.1	624.3
B. 資本財の部品					
自動車	197.1	224.5	250.9	180.8	145.1
機械部品	25.2	93.5	112.3	111.6	85.7
内燃機関部品	35.6	49.5	72.3	53.8	38.3
ポンプ・タービン部品	20.0	23.5	21.8	27.4	24.2
繊維機械部品	17.3	17.7	25.0	24.8	17.6
気温増減機部品	11.9	11.2	16.6	24.8	15.7
TV音響機器部品	20.2	33.6	104.5	60.6	16.5
機械部品	7.0	12.8	12.9	20.8	12.3
土木器具部品	5.4	6.7	7.2	10.9	10.3
ボイラ-その他部品	7.1	3.1	21.9	23.2	7.7
食品工業機械部品	9.2	9.5	12.8	9.8	7.3
機械及電気工具部品	6.8	6.6	9.5	8.9	5.3
鉄道機器部品	5.1	5.4	4.5	7.7	3.9
運搬装置部品	4.9	4.2	5.4	5.6	3.4
その他	38.3	28.2	64.4	62.6	43.6
小計	470.6	530.0	742.1	628.3	436.9
合計	1,074.8	1,083.5	1,597.7	1,400.4	1,061.2

出所: INDEC

表 7-21

輸 出 先 市 場

100%W

国 別	1985	1986	1987	1988	1989
アメリカ大陸					
米 国	1,003.6	678.0	897.6	1,178.9	1,141.8
ブラジル	496.3	697.9	539.3	573.1	1,089.8
チリ	111.1	136.9	146.0	259.4	348.1
メキシコ	255.5	158.4	37.3	136.8	157.9
アルゼンチン	162.0	189.2	139.1	165.9	166.8
ウルグアイ	99.0	129.3	168.4	186.4	206.4
キューバ	-	181.8	133.6	187.3	186.9
その他	812.8	408.9	455.3	609.3	587.7
計	2,940.3	2,580.4	2,516.6	3,297.1	3,845.4
ヨーロッパ					
オランダ	856.3	97.1	617.9	1,080.0	976.7
英 国	358.6	1,166.4	337.1	506.7	509.0
西 独	289.2	351.9	282.9	484.7	443.4
イタリー	300.6	285.7	232.0	339.1	289.7
ベルギー	148.8	148.1	161.7	242.5	280.9
スペイン	213.1	170.6	154.8	187.1	187.0
フランス	122.2	103.6	128.1	146.3	145.6
その他	98.4	100.8	58.7	57.3	72.8
計	2,387.2	2,424.9	2,073.2	3,043.7	2,905.1
アジア					
イ ラ ン	313.4	256.3	191.8	172.9	296.7
日 本	360.9	391.1	223.9	329.5	270.0
中 国	311.0	252.1	265.6	325.2	293.8
その他	415.9	380.7	266.7	537.9	505.1
計	1,401.2	1,280.2	948.0	1,365.5	1,465.6
その他	1,212.7	258.8	640.8	836.0	827.6
その他	454.6	357.7	181.6	401.9	406.8
合 計	8,396.0	6,852.0	6,360.2	8,944.2	9,490.5

出所: INDEC

表 7-22

輸 入 先 市 場

100%W

国 別	1985	1986	1987	1988	1989
アメリカ大陸					
米 国	685.0	825.2	939.6	908.1	877.4
ブラジル	611.5	690.1	819.3	971.3	719.9
チリ	84.4	148.6	152.4	146.8	111.3
メキシコ	59.8	100.1	153.0	118.8	79.5
アルゼンチン	66.0	93.0	113.9	131.2	98.9
その他	544.7	659.1	624.0	503.3	415.7
計	2,051.4	2,516.1	2,802.2	2,779.5	2,322.7
ヨーロッパ					
西 独	404.0	523.6	765.6	605.5	393.9
イタリー	233.9	239.5	371.5	308.5	246.3
フランス	207.9	236.8	236.3	228.0	187.2
ベルギー	70.6	148.8	191.6	196.3	123.2
その他	402.2	455.1	602.9	398.3	405.9
計	1,318.6	1,603.8	2,167.9	1,836.6	1,356.5
アジア					
日 本	265.6	336.7	441.5	349.5	180.4
その他	67.8	116.6	126.2	205.2	176.6
計	333.4	453.3	627.7	554.7	357.0
その他	41.9	59.2	20.5	18.0	23.5
アメリカその他	66.8	91.8	150.5	131.7	140.3
合 計	3,814.1	4,724.2	5,818.8	5,321.1	4,199.9

出所: INDEC

表 A-23

1986-1990年经常收支

1000万

项 目	1986	1987	1988	1989	1990
A. 经常收支					
D. 贸易收支					
a. 输出					
生动物	5	6	7	8	12
肉及肉制品	286	337	378	464	1,000
矿产品	270	313	350	438	360
粮 食	1,245	744	816	1,012	1,350
油原料及饲料作物	647	334	634	209	800
砂 糖	35	29	67	62	140
果 实	138	168	178	163	300
肉、鱼、调整加工品	180	265	234	257	620
食品加工和粮	822	876	1,437	1,333	1,600
皮 羊	341	358	373	364	620
羊 毛	179	190	244	172	160
食 油	656	546	887	875	1,800
燃 料	165	97	156	326	880
其 他	1,883	2,097	3,374	3,564	2,358
小 计	6,852	6,360	9,135	9,573	12,000
b. 输入					
原料及中间品	2,433	2,627	2,558	2,146	1,790
燃料及油脂	423	665	479	554	510
消费品	217	245	204	181	165
资本品	1,651	2,282	2,061	1,319	1,290
小 计	4,724	5,819	5,322	4,199	4,000
贸易收支	2,128	541	3,813	5,374	8,000
司 十- 七 八 收 支	-4,989	-4,770	-5,425	-6,672	-6,800
其 他 收 支	2	-8	-	8	-
经常收支	-2,859	-4,237	-1,612	-1,290	1,200
B. 资本收支					
外国直接投资	574	-19	1,147	1,028	300
输出金融	-57	111	279	-717	2,000
输入金融	-483	-603	-1,564	-1,511	-1,000
外国借款	374	733	386	414	380
国 债	127	-195	-355	-686	-380
民间融资	-218	-24	-228	111	-
公共融资	19	412	103	40	-
其 他	333	-55	-43	-4,163	1,650
小 计	716	360	324	-5,484	-350
C. 误差抵消	68	-222	-90	-109	-
外债保有高增	-2,075	-4,100	-1,381	-6,285	850

出所: BCR, TENDENCIAS ECONOMICAS

1.2.2 農業部門の概況

表 A-24 州別の土地利用状況(1967年4月1日)

州別	農地計	耕作地(千ヘクタール)	天然林(千ヘクタール)	天然森林地帯	未利用農業地	農牧用地	1,000ha
アエノス・アリス	29,557	11,130	14,886	957	171	1,189	1,224
サント・フルス	22,254	1,688	18,357	628	113	1,415	-
チユブ	19,586	1,431	15,259	1,220	137	250	29
リオネグロ	15,327	1,101	6,583	7,027	144	763	8
コルトバ	14,207	5,740	4,822	2,425	200	472	548
サント・フェ	12,267	3,486	6,096	1,687	247	538	214
ラ・パシパ	11,585	2,017	3,914	5,217	28	377	33
メントーサ	10,152	389	3,901	2,929	628	1,885	420
サルタ	9,781	225	1,274	6,337	219	1,630	97
サン・ペドロ・デ・リス	7,732	376	1,489	4,538	313	171	1,005
コリエンテ	7,379	316	5,486	241	65	558	114
エントレ・リオス	7,257	1,837	3,027	1,535	44	430	336
サント・ルイス	6,452	589	2,845	2,483	109	366	40
タヤコ	6,084	918	2,045	2,439	88	334	259
フォルモサ	5,682	168	2,336	2,492	117	458	113
ネウケン	5,468	86	4,027	649	174	511	-
ラ・リオハ	4,792	46	1,072	3,029	22	463	-
サン・ファン	3,574	157	874	889	630	1,016	7
カタルカ	3,518	51	1,614	992	270	144	148
ブアイ	3,055	107	1,721	707	25	439	56
ミエオネス	1,982	376	218	1,150	75	150	24
ツクマン	1,785	372	228	789	75	222	39
計	210,856	32,723	102,488	52,088	4,007	14,795	4,754
比率(%)	100.00	15.52	48.61	24.70	1.90	7.02	2.25

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1986

表 A-25 農場数と農村人口の単位面積(1967)

州別	農場数(1,000)	農村人口(1,000人)	1農場平均面積(ha)
アエノス・アリス	113.8	454.0	259.79
コルトバ	57.8	281.2	245.68
サント・フェ	56.4	252.4	217.61
コリエンテ	25.9	198.6	225.40
メントーサ	33.7	195.1	301.53
エントレ・リオス	37.9	187.8	171.67
サン・ペドロ・デ・リス	30.4	126.4	240.20
タヤコ	26.5	120.7	227.95
ツクマン	20.1	155.3	88.20
ミエオネス	27.1	152.0	68.17
サルタ	9.3	101.3	1,056.97
ブアイ	8.7	95.3	349.50
サン・ファン	14.5	85.2	246.09
フォルモサ	13.1	81.9	432.49
カタルカ	10.4	51.2	338.26
リオネグロ	10.2	50.0	1,496.53
ラ・リオハ	10.1	42.0	176.36
ラ・パシパ	10.7	40.2	1,083.71
サン・ルイス	8.4	38.2	265.17
ネウケン	4.6	26.3	1,182.52
チユブ	5.4	24.3	3,652.24
サント・フルス	1.5	2.2	15,123.65
大陸外	0.1	1.4	10,667.21
計	538.4	2,871.8	361.41

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1986

表 A-26 農地所有形態 (1967) A

規模別	農地数		農地面積	
	宗数	%	1,000ha	%
5ha以下	100,377	18.6	248	0.1
5ha ~ 25ha	125,686	23.3	1,752	0.8
25" ~ 100"	137,067	25.8	8,200	3.7
100" ~ 200"	63,438	11.8	9,394	4.5
200" ~ 1,000"	77,047	14.3	53,356	15.8
1,000" ~ 5,000"	25,829	4.8	57,472	27.3
5,000" ~ 10,000"	3,861	0.7	28,982	13.8
10,000"以上	3,123	0.7	71,502	33.8
計	538,430	100.0	210,856	100.0

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1986

表 A-27 農地所有形態 (1967) B

区分	面積 1,000ha	比率 (%)
独立農地	150,880	71.6
借地	20,840	9.7
歩合	2,649	1.3
占有者	4,750	2.2
国有地	18,667	8.8
貸地	13,081	6.2
計	210,856	100.0

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1986

表 A-28 農業部門の経済人口推移 100万人

年度	初次産業部門	アグロインダストリー	サービス	計
1980	1.20	0.92	1.02	3.14
81	1.22	0.93	1.03	3.18
82	1.24	0.95	1.05	3.24
83	1.26	0.96	1.07	3.29
84	1.28	0.98	1.08	3.34
85	1.30	0.99	1.10	3.39
86	1.32	1.01	1.12	3.45
87	1.34	1.02	1.14	3.50
88	1.36	1.04	1.15	3.55
89	1.38	1.06	1.17	3.61

出所: INDICADOR, BCRA, INDEC.

表 A-29 穀類の生産・輸出・価格

年度	生産量 (1,000t)	輸出品 (1,000t)	主要穀物の輸出価格 105 US\$/C		
			小麦	トウモロコシ	大豆
1983/84	41,116	23,594	137	134	245
84/85	44,009	20,770	135	138	254
85/86	38,289	24,070	106	110	103
86/87	32,389	16,650	77	66	176
87/88	36,340	10,436	96	85	218
88/89	25,010	12,077	154	117	280
89/90	34,178	7,550	148	104	211
90/91	35,569	12,815	75	128	214

出所: INDICADOR.

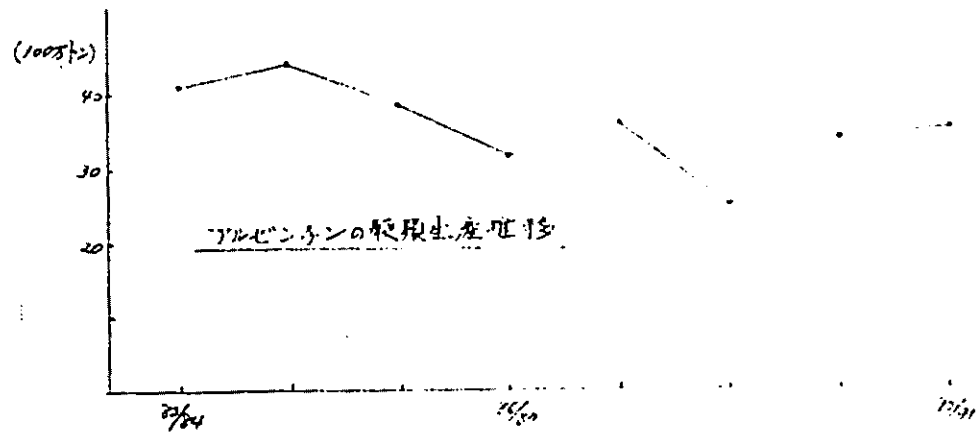


表 A-30 農業部門の輸出

年度	畜産部門	農業部門	アフリカ産品	計
1980	875.9	3,135.4	3,207.3	7,218.6
81	802.0	4,056.2	2,541.4	7,399.6
82	725.5	2,731.6	2,174.2	5,581.3
83	530.9	3,656.2	2,307.6	6,494.7
84	304.4	3,505.4	2,738.6	6,548.4
85	281.2	3,351.6	2,526.9	6,159.7
86	361.2	2,301.5	2,601.4	5,264.1
87	370.4	1,286.5	2,516.4	4,173.3
88	468.9	1,715.9	3,846.3	6,031.1

出所: INDEC

表 A-31 アフリカ産品輸出の内訳

年度	油脂	副産物	皮革	木材	鉄	繊維	その他
1980	611.0	1,369.9	647.9	0.9	20.7	545.6	11.2
81	421.5	1,158.1	523.6	1.3	12.3	417.1	2.5
82	449.0	925.0	980.7	1.2	12.7	347.7	2.7
83	555.8	1,186.3	309.9	0.8	21.6	228.2	6.4
84	938.6	1,123.9	333.9	4.4	26.7	304.2	6.9
85	1,006.4	266.9	278.1	7.4	38.6	302.4	2.1
86	685.3	1,219.7	598.2	6.4	32.1	450.2	2.9
87	511.6	1,252.2	392.4	2.9	53.6	288.9	2.8
88	864.2	1,296.5	431.2	39.2	109.1	492.1	12.2

出所: INDEC

2. 主要農産物の生産流通状況

2.1 穀類

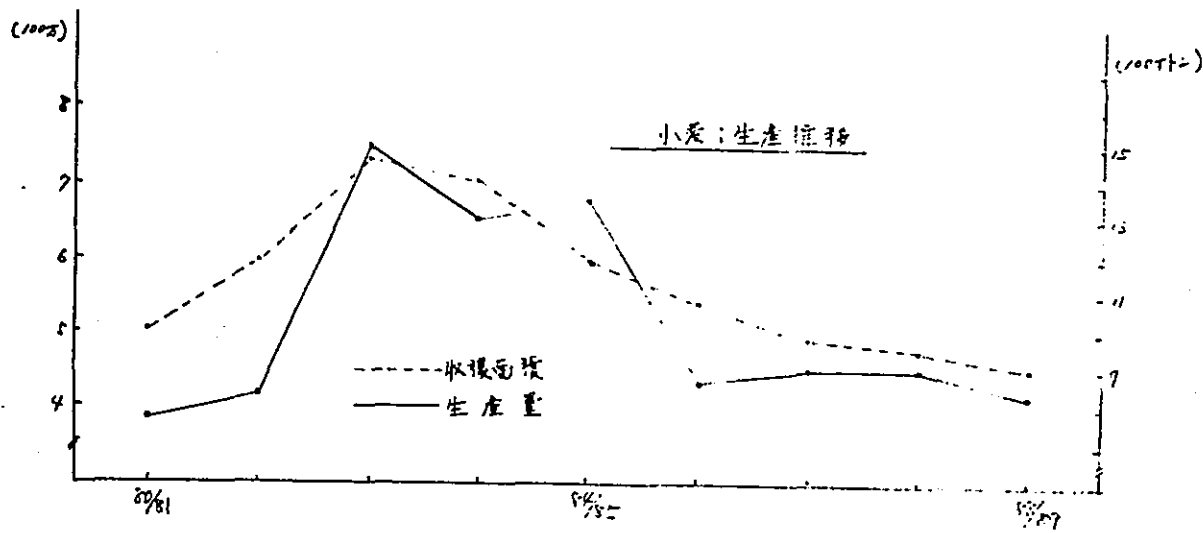
2.1.1 小麦

1) 生産

表 B-1 小麦：80年代の生産推移

年度	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 / kg/ha
1980/81	6.196	5.023	7.780	1.549
81/82	6.566	5.926	8.500	1.440
82/83	7.410	7.320	15.000	2.049
83/84	7.200	7.073	13.000	1.837
84/85	6.000	5.901	13.600	2.305
85/86	5.700	5.382	8.700	1.617
86/87	5.000	4.901	7.000	1.836
87/88	4.850	4.789	7.000	1.870
88/89	4.660	4.544	8.500	1.830

出所：BOLSA DE CEREALES.



小麦は、アルゼンチンの代表的な穀物の一つであり、作物の中で最大の栽培規模を有している。

その栽培面積は今世紀の始めにすでに500万ヘクタールを越し、1983/84年には215万ヘクタールに達したが、これが現在にいたるまで最大の記録として残っており、同年にはすでに14万トンの生産が確認されている。その後500万ヘクタール前後の栽培が続き今日にいたるまでこの間、栽培技術の向上による単収の増加から1982/83農年には15万トンの生産量に達し、これは史上最大の記録となっている。

80年代の生産状況をみると83-85年の3年間に大規模な生産の増加があり、単収も14万トンを越す大型の収穫であった。85/86年以降は減産傾向に入り、88/89年度に於いては面積が450万ヘクタール、生産量は836万トンに止まっている。この間1ヘクタール当りの単収は84/85年に達した2.305kg/haを最高記録としており、単収が1ヘクタール当り2トンを越したことはこの82/83年のことである。

アルゼンチンで栽培される小麦は、パン用小麦と飼料用小麦の二種類があり、前者においては、ブエノス・アイレス、サンタ・フェ、コルトバ及びラ・パンプア州が主要生産地であり、中でもブエノス・アイレス州が全体の65%を占めて大きく、又飼料小麦の場合はブエノス・アイレス州以外で他州での生産は行われていない。この二種類の小麦の生産比率が圧倒的に高く、過去10年間の平均は、99%であった。パン用小麦及び飼料小麦の過去10年間の平均収量及び87/88年、88/89年の生産状況は、次表の通りである。

表 B-2 小麦：州別生産推移 (単位：1,000t)

州別	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	88/89
(パン用小麦)				
ブエノス・アイレス	6,886.9	6,315.0	5,057.1	5,235.0
サンタ・フェ	1,729.0	1,757.9	1,810.0	1,560.0
コルトバ	929.2	922.6	1,067.0	770.0
ラ・パンプア	697.6	612.0	700.0	457.7
その他	214.2	262.9	173.0	260.3
計	10,556.9	9,924.4	8,827.1	8,285.0
(飼料小麦)				
ブエノス・アイレス	104.1	153.7	142.9	75.0
合計	10,661.0	10,078.1	8,970.0	8,360.0

出所：JICA

作付面積に対する収穫面積の比率、すなわち、収穫率は気象条件が悪く、収穫を放棄する年が多い年(80/81農年)で81.0%気象条件に悪く大半の収穫を可能とした年で98.8%(87/88農年)である。平均して95%以上の収穫率である。

もっとも最近の88/89農年についてみると栽培面積は両種類を合せて、466万haでその97.5%が収穫され、836万tの生産をあげている。1ha当たりの単収はパン用小麦に比べて1,837kg/ha、飼料小麦では、2,199kg/haであった。

表 B-3 小麦：88/89年の生産状況

州別	作付面積 1000ha	収穫面積 1000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
(パン用小麦)				
ブエノス・アイレス	2,855.9	2,795.9	5,235.0	1,872
サンタ・フェ	785.0	765.0	1,560.0	1,999
コルトバ	440.0	437.0	770.0	1,765
ラ・パンプア	376.6	347.7	457.7	1,322
その他	168.4	162.3	260.3	1,584
計	4,625.9	4,510.2	8,285.0	1,827
(飼料小麦)				
ブエノス・アイレス	34.1	34.1	75.0	2,199
合計	4,660.0	4,544.3	8,360.0	

出所：BOLEA DE CEREALES

88/89 農年の生産規模は、20年次と並し、もとも小さく、これに付け生産量も最低レベルに落ちている。これは主に栽培期間中の天候不順に影響されたところが大きく、とくに植付時期の7月から8月にかけて続いた長期乾燥が植付作業面積の減少を招いたこと及び11月と12月に昼夜の高温が続き暑さをさう小麦の生育に悪影響を与え、その結果単収を落した大きな原因であった。

作付は栽培周期の長い品種ではラ・パンパ、ブエノス・アイレス南部、サンタ・フェ北部においてすでに5月から開始され、6月も整地と植付が続けられた。土地の湿度が減少するに従いそのリズムを落した。そのあと7月にサシれた乾燥と暑さは、多くの地方において植付作業を中断させ、降雨が少くエントレ・リオス、サンタ・フェ北部、ブエノス・アイレス州の大部分が作付作業を可能とした地域であった。7月には、又、降雨もあり、水分不足が病害の発生を招き生育に大きな被害を与えた。7月の乾燥は、相当にひどいものでサンタ・フェ州の中央部や東北部では乾燥のために作付作業が出来ず放棄された地域もあった。8月に入っても乾燥と高温は続き事態は更に悪化して広範囲の地域に被害を与えており、パンプ地方の南部に位置するブエノス・アイレス州の南部及び中央部の大部分、この被害を免れられた唯一の地域であった。

7月の中旬には、長周期及び中周期の品種の植付作業が終了、早生種の植付時期に入った。このため土地の湿りるのが遅れたため、乾燥のため植付作業は非常に遅れることとなった。

降雨は、9月に入ってから始り、各地の植付作業を可能とし、又すでに植付作業された地域の生育を促した。もっとも重要な開花期にあたる10月の天候はサンタ・フェとブエノス・アイレス州において良好、コルトバ、ラ・パンパ、エントレ・リオス各地では乾燥と強風が支配する悪天候であった。

11月中には、ブエノス・アイレス州とサンタ・フェ州において順調な降雨があり、又害虫も減少したため作物の生育条件が改良され、月末には、エントレ・リオス、コルトバ、サンタ・フェ及びブエノス・アイレス北部において早期植付作業の収穫が開始され12月に終了、その地の地方(チヤコ、ラ・パンパ州)は、1月に収穫を終了している。

州別の生産状況は、ブエノス・アイレス州の全体の61.7%を占めて圧倒的に大きく、サンタ・フェ州がこれに続いた。しかしこれも生産の減少傾向が続いた。

作付面積に対する収穫面積の比率は、97.5%で天候不順であったことを考えると高い比率であり、中でもブエノス・アイレス州の収穫率は97.9%であった。畑用小麦の単収は、パン用小麦

麦の上廻り量を常としており、88/87年度の減少は例年より大きい。川上と上廻り 2.199 kg/ha である。ただし前年と比較すると (-) 15% 低下している。

表 B-4 小麦：世界の生産推移

年度	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1979-81	235.1	443.6	1.887
1982	239.0	425.2	2.030
83	230.7	474.4	2.143
84	231.3	516.4	2.233
85	230.6	505.7	2.193
86	228.5	537.6	2.393
87	221.6	515.6	2.327
88	219.7	508.1	2.313

出所: FAO

ロ. 世界の生産状況

FAOの統計によると80年代における世界の小麦生産は、面積に於いて219.7百万ha～239.0百万ha程度、生産量では443.6百トン～537.6百トンの範囲にあり、86年度の生産を最大の記録としている。この間世界の平均単収は1.887kg/haより2.313kg/haへ向上しており、86年に達した2.393kg/haが最高の記録となっている。

大陸別の生産量では、アジアが最も大きく、88年を例にとると世界生産量の37%を占める。これに続いてソ連、米国、ヨーロッパの順となる。南米の生産量は世界生産の3%にすぎない。国別では、中国の生産が最大で86年には90百トンを生産しており88年における世界生産の17%近くを占める生産国であった。これに続き米国(8.7%)、インド(8.8%)、フランス(5.7%)、トルコ(4%)、カナダ(3%)、オーストラリア(2.8%)等が大型の生産国である。アルゼンチンの生産国は1.5%で世界中14位の生産国となっている。

表 B-5 小麦：世界の栽培面積と単収

大陸別・国別	栽培面積 1000ha				生産量 1000t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
アジア								
中国	29.2	27.6	28.8	29.0	25.8	90.0	87.1	87.5
インド	23.6	23.0	22.2	22.1	14.1	47.1	45.6	44.6
トルコ	9.3	9.4	9.4	9.5	12.0	19.0	18.7	20.5
パキスタン	7.3	7.4	7.7	7.3	11.7	13.7	12.0	12.7
イラン	7.0	6.4	6.7	6.7	6.6	7.6	7.0	8.1
その他	7.1	7.6	7.6	7.7	12.8	12.8	12.7	14.2
計	83.5	83.4	83.7	82.5	128.0	190.4	182.0	182.2
ソ連	50.3	48.7	46.7	42.0	28.1	92.3	85.1	84.5

北中米								
米 国	26.2	24.6	22.6	21.5	22.0	26.7	27.1	49.3
カナダ	13.7	14.2	13.4	12.9	14.3	31.4	25.7	15.6
メキシコ	1.2	1.2	1.0	0.9	0.2	4.8	4.4	3.7
その他	0.1	-	0.1	0.1	-	-	0.1	0.1
計	41.2	40.0	37.1	35.4	36.5	73.1	57.8	68.7
ヨーロッパ								
フランス	4.8	4.9	4.9	4.9	28.9	26.5	27.4	29.1
西 独	1.6	1.6	1.7	1.8	9.9	10.4	9.9	12.0
英 国	1.9	2.0	2.0	1.9	12.0	13.9	11.9	11.6
ルーマニア	2.4	2.4	2.4	1.5	0.9	7.3	6.9	7.0
イタリー	3.0	3.1	3.1	2.9	8.5	7.1	7.4	9.6
ポーランド	1.9	2.0	2.1	2.2	6.5	7.5	7.9	7.4
ハンガリー	1.4	1.3	1.3	1.3	6.6	5.8	5.7	7.0
スロバキア	2.0	2.1	2.2	2.3	5.3	4.4	5.2	6.9
チェコスロバキア	1.2	1.2	1.2	1.2	6.0	5.5	6.2	6.6
ユーゴスラビア	1.3	1.3	1.5	1.5	4.9	7.8	5.3	6.3
その他	4.9	5.1	4.9	4.6	18.2	21.1	20.0	18.2
計	26.4	27.0	27.3	27.1	112.5	116.1	116.4	123.7
南米								
アルゼンチン	5.4	4.9	4.9	4.6	8.7	8.9	9.0	7.8
ブラジル	2.7	3.9	3.5	3.4	4.3	5.7	6.1	5.5
その他	0.3	1.2	1.4	1.2	1.9	2.4	2.8	2.5
計	9.2	10.0	9.6	9.2	14.9	16.8	17.9	15.8
大洋州								
オーストラリア	11.7	11.3	9.1	9.5	16.2	16.8	12.4	14.1
その他	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.4	0.2
計	11.8	11.4	9.2	9.4	16.5	17.2	12.8	14.3
アフリカ								
エジプト	1.9	2.2	2.2	2.3	2.2	3.8	2.4	4.0
南アフリカ	1.9	1.9	1.9	2.0	1.7	2.2	3.1	3.4
その他	4.4	3.9	4.6	3.2	8.3	5.6	7.0	6.1
計	8.2	8.0	8.7	8.1	12.2	11.6	12.5	13.5
世界計	230.6	226.5	221.6	217.7	505.7	537.6	515.6	508.1

出所: FAO

表 B-6

小麦: 世界の単収 (1985年 - 平均)

大陸 & 国別	1985	86	87	88
ヨーロッパ				
オランダ	6 648	7 766	5 728	7 158
西 独	6 075	6 314	5 944	6 837
ドイツ	5 817	6 167	5 741	6 453
ベルギー	6 231	6 755	5 444	6 270
英 国	6 333	6 927	5 372	6 137

ソ連	6.012	5.449	5.557	5.767
ハンガリー	4.844	4.595	4.271	5.449
チエコスロバキア	4.872	4.403	5.078	5.371
スウェーデン	4.830	5.584	5.010	5.352
東独	5.290	5.601	5.401	5.118
オーストリー	4.824	4.567	4.534	4.540
ユーゴスラビア	3.605	3.548	2.623	4.185
アルgeria	2.875	3.837	2.824	4.091
平均	4.270	4.307	4.257	4.560
アラブ				
日本	3.735	2.561	3.182	3.670
中国	2.937	2.040	3.042	3.017
イスラエル	1.561	1.228	2.104	2.556
トルコ	1.836	2.034	3.066	2.158
平均	2.133	2.284	2.527	2.274
北中米				
メキシコ	4.254	3.772	4.467	4.111
米国	2.519	2.317	2.533	2.291
カナダ	1.766	2.204	1.731	1.221
平均	2.319	2.226	2.366	1.942
ノ連	1.553	1.894	1.785	1.760
南米				
チリー	2.302	2.858	2.768	3.005
アルゼンチン	1.616	1.778	1.846	1.683
ブラジル	1.614	1.473	1.765	1.579
平均	1.627	1.689	1.853	1.717
アフリカ				
エチオピア	3.120	3.215	4.537	4.725
ケニア	2.007	1.890	2.094	2.000
南アフリカ連邦	861	1.205	1.627	1.734
平均	1.223	1.438	1.439	1.623
大洋州				
オーストラリア	1.378	1.490	1.366	1.516
平均	1.375	1.511	1.370	1.532
世界平均	2.193	2.353	2.327	2.313

出所: FAO

ハ) 世界の需給.

過去5ヶ年間に於ける小麦の需給状況を示したのが次表である。これによると世界の生産量が消費量を上回ったのは、85/86, 86/87の2年間に於て以後3年間は消費量の方が大きく世界の在庫量を減少して来た。中でも87/88年及び88/89年の3ヶ年間は消費量が生産量

を30百万トン以上上廻るために在庫は87/88年の176百万トンより88/89年には116.8百万トンへと激減している。

表 B-7 小麦：世界の需給状況

区 分	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90
生産					
中国	85.0	70.0	85.8	86.4	91.0
ソ連	78.1	92.3	82.3	84.4	89.0
EC国	71.6	72.0	71.4	74.8	79.4
米国	66.0	56.9	57.4	49.3	55.6
インド	44.1	47.1	44.3	45.1	53.0
東欧	37.1	39.1	39.8	45.1	42.3
カナダ	24.3	31.4	26.0	16.0	24.0
オーストラリア	16.2	16.1	12.4	14.1	12.5
アムゼン	8.5	8.9	8.8	8.1	11.0
その他	68.4	76.7	72.5	77.5	74.4
計	500.1	530.7	501.7	500.8	532.2
消費					
中国	100.4	101.5	102.8	104.4	106.0
ソ連	91.6	102.2	101.5	100.4	99.0
米国	28.5	32.5	29.7	26.5	28.4
その他	225.7	285.8	297.3	299.2	302.8
計	476.2	522.7	531.3	530.5	536.2
世界在庫					
米国	51.8	49.6	34.3	19.0	12.1
その他	116.1	126.5	112.2	77.8	100.7
計	167.9	176.1	146.5	96.8	112.8

出所：USDA

87/88年及び88/89年にみられる世界生産の減少は主要生産国における天候不順に影響をうけたものであったが中でも88/89農年における米国及びカナダの長期乾燥による被害は大きく、米国の生産は57.4百万トンより49.3百万トンへと(-)14%、カナダの場合は26.0百万トンより16.0百万トンへと(-)38%に及び大きな減産であり、この二国が世界の主要供給国であることから世界の需給に大きな影響を与えた。米国とカナダにおけるこのような大減産にかかわらず世界の生産減少が前年並みに終わったのは、中国インド及びヨーロッパ諸国における生産が増加したため、二大生産国の減産が幾分なりともカバーされた。

上述の通り、このような需給関係の結果として世界在庫の減少を招くこととなるが、価格決定の重要な要素となる消費量に対する在庫量の比率は、88/89年において22%、89/90年において21%に落ちている。この指数は過去10年間最低のレベルであった。

表 B-8

小麦：世界の輸出入

100万トン

区 分	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90
輸出					
米 国	25.0	28.4	43.4	37.8	35.0
E C 国	15.6	16.4	14.8	21.0	21.0
カナダ	16.8	20.8	23.6	13.5	17.0
オーストラリア	16.0	14.8	12.2	10.7	9.9
アルゼンチン	6.1	4.3	3.7	3.6	6.4
ソ 連	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0
其 の 他	5.0	5.5	6.7	10.7	7.1
計	85.0	90.7	104.9	97.8	97.4
輸入					
中 国	6.6	8.5	15.0	15.5	15.0
ソ 連	15.7	16.0	21.5	15.5	12.0
日 本	5.5	5.8	5.7	5.4	5.3
東 欧	3.4	3.7	3.4	2.7	2.5
E C 国	2.8	2.4	2.2	2.5	2.5
其 の 他	51.0	54.3	57.1	56.2	60.1
計	85.0	90.7	104.9	97.8	97.4

世界の輸出入は、世界の消費量の年々増加とともに平行して、87/88農年の104.9百万トンと最高として以後減少しており、88/89年には、97.8百万トン、89/90農年が、97.4百万トンの取引に終っている。このような世界取引量の減少は、ソ連の買付けが、87/88年の21.5百万トンより88/89年には、15.6百万トン、89/90年にいって、12.0百万トンと減少したのが決定的な要因となっているほか、東ヨーロッパにおいても輸入需要の減少が大きな要因である。

ソ連の買付け減少とは逆に輸入を増加したのは中国で88/89年には、ソ連と同量の輸入量に達し、89/90年には、ソ連を上回り、最大の輸入国となった。中国とソ連の輸入量は、88/89年において31.0百万トン、89/90年が27.0百万トンでそれぞれ世界輸入の31.7%及び27.7%に相当する量である。

これらの輸入に対する供給は、米国、EC、カナダを三大供給国とし、これにオーストラリア及びアルゼンチンが加って世界の供給態勢を作っている。この中、米国、カナダの供給力が88/89年に極度に落ちたのは、上述の通り、長期乾燥の被害にもとづくものであった。

過去数年間と異なり、ソ連は、米国小麦の最大の輸入国としての立場を捨て、米国の輸出に対するシェアを87/88年の25%より12%に落ち、これに代って中国が米国小麦の最大の輸入国となっている。中国に対する米国の輸出は、88/89農年において20%を占めるにいられた。

国際市場における最近の動きとして注目されているのは、トルコの動向である。同国は、長期にわたる乾燥による国内生産を著しく不足分を海外に求めており、88/89年には250万トンの輸入を行っている。

二) アルゼンチンの輸出

アルゼンチンの小麦輸出は、84年から86年にかけてソ連を中心として最高1千トン(84年)に達した。その後、ソ連の買付中止と共に最近では年間400万トン前後の輸出水準となっている。輸出先市場は、ソ連、ブラジル、ペルーを中心とした80年代中期よりブラジル、イラク、ソ連、ペルー、中国の主要市場とする80年代後期へと移行している。

表 B-9 小麦：輸出推移

年度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価
1981	4,481	814.6	182
82	3,758	762.5	203
83	3,815	676.4	177
84	10,174	1,474.0	145
85	7,280	922.0	127
86	9,671	1,044.0	108
87	4,030	419.0	104
88	4,198	348.0	83
89	3,705	427.0	115
90	*	*	*

出所: JUNTA NACIONAL DE GRANOS * 7-7-86

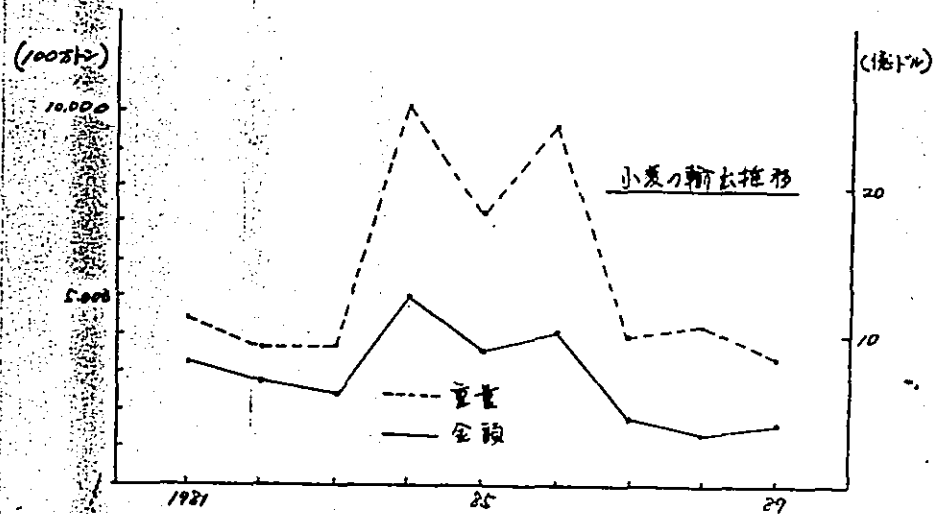


表 B-10 小麦：国別・年次別輸出実績

輸出先国	1985	1986	1987	1988
フランス	547.0	687.1	1,036.9	928.9
イタリヤ	548.2	512.7	496.6	772.6
ソ連	4612.7	15.3	541.1	633.4
コロンビア	-	75.5	26.2	67.4
ポルトガル	662.2	573.7	413.3	440.0
中国	877.3	402.5	808.7	304.1
インドネシア	187.6	164.1	240.7	170.2
パナマ	-	-	197.5	151.6
キューバ	407.2	66.0	135.8	90.8
ボリビア	87.1	20.5	23.7	23.5
韓国	-	64.3	63.2	21.3
リビア	328.2	144.7	64.0	-
トルコ	359.6	177.7	-	-
その他	682.6	1,105.2	87.5	48.1
計	9,603.7	4,029.7	4,197.4	3,671.7

出所：INDEC.

ホ) 販売状況

1988年の中期、異常な乾燥が米国の生産地帯に与える被害は、穀類の国際市場に大きな影響を与えた。88年度における世界の小麦輸出量が928百万トンであったのに対し、米国はその39%を占める378百万トンを占めていた。これに伴って小麦の国際市場も直接の影響を受け、アルゼンチンの先物市場にも一時反映した。

米国の大規模な減産予想による価格上昇への見通しと、輸出税の徹底というインセンティブによって生産者の作付意向を刺激したが、残念ばかり天候不順によってこれは実現することなく終わった。

88/89農年の販売面における問題点としては、当時ハイパーインフレを阻止しようとして採用されたフリーマーケット・プログラムと呼ばれる経済政策により、複数の為替レートが設定され、小麦の輸出がその影響を受けたこと、及び穀物序の減産予想の前に国内供給の不足を感ずることで輸出登録を中止したことが挙げられる。

このような状況は、堅調な国内市場の均衡を失わせ、有利な国際市場を利用することなく利益を逃す結果をもたらした。

88/89農年の小麦販売は、このような条件下で行われたため、生産者の資本を減少させることとなり、次年度の植付が危ぶまれていた。国際市場における高値と、需給増加から植付が刺激されたため、植付コストが歴史的にみて最も安いものだったことから作付けの減少率は僅

かに止す。

89/90 農年の販売開始にあたりみられたポロニヤは一面として、輸出登録の時期を早めることが行われる。輸出登録の遅延は国際市況の好機を逸して取引のチャンスを見逃すことから長期にわたって早期実施を要請してきたものであり、これに同年穀物庁が採用した早期登録の実施は生産部門、輸出部門の両方からも歓迎された。又当時国外貨保有高が事実上皆無に等しかったことから政府としては輸出登録を早めるを得たことには事情があった。この輸出登録の早期開始にかかわる分として250万トンの輸出が実現し375億ドルの外貨を得ることとなった。

89/90 農年に記録された前例のない地味の問題としては、政府の経済当局が穀物庁の小麦買付けに対する保証を行おうとしたこととあり、その代替措置として小麦粉やパンの国内消費に対する供給の保証すなわち国内製粉工場に保護を与える輸出割約を行おうことと、内外国への販売登録を全面的に解放する制度と検討した。

この措置に対する市場の最初の反応は輸出部門と製粉工場は原料確保のために買付け（注）国内価格を多少は上昇させる結果をもたらし、このため収穫時期における価格の下落（注）が避けられ、更に生産者に対しては生産物の保留すなわち融資の提供されるため価格も高値を維持することが可能であった。但し融資の利息は一般市場金利が適用されたが、これは極めて高いものであった。

1) 価格動向。

国際市場における小麦価格は過去5年間にわたる低迷のあと87年年初88年にかけ可成りの回復をみせ88年に発生した米国&カナダの極度の乾燥がこれらの国における89年5月以降の穀物相場を押し上げることに伴って80年代当初の高いレベルに戻っていった。

すなわちシカゴ&カンサス市場における小麦価格は1月間に25%の値上りをみせたこともあったが、その後、トンあたり150ドルで安定している。

国内市場価格も国際市場価格と平行した動きがみられた。

表 B-11 小麦：フエス・ティルス港渡し価格 (1150/t)

年 別	3月	6月	9月	12月	平均
1978	123	128	126	127	126
79	128	166	175	185	159
80	217	187	205	207	206

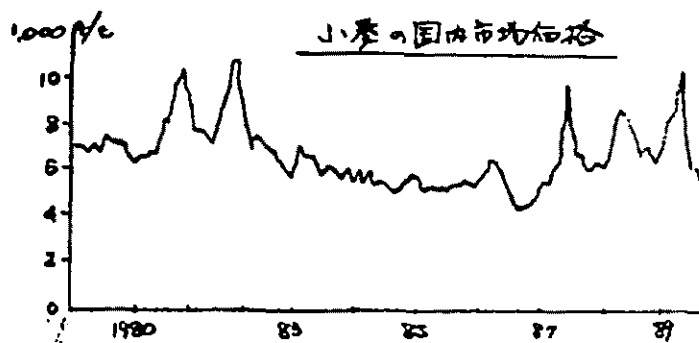
81	212	178	180	179	190
82	177	159	161	148	163
83	146	129	146	130	143
84	128	142	142	118	135
85	113	107	98	107	106
86	97	84	80	79	88
87	92	85	89	96	82
88	106	123	151	153	127
89	156	156	*	*	*

出所: JNG. * 7-7-11L

表 B-12 小麦: 国内価格推移
1989年10月までの国内小麦価格

月別	価格 (円/kg)	変動率 (%)
1988年		
8月	8.142	-5.67
9月	7.313	-10.18
10月	6.480	-11.39
11月	6.806	5.04
12月	6.745	-0.89
1989年		
1月	6.091	-9.70
2月	6.496	6.64
3月	7.251	11.62
4月	8.448	16.52
5月	8.754	3.62
6月	10.290	17.54
7月	6.366	-38.13
8月	6.200	-2.61
9月	5.598	-9.71
10月	6.031	7.73

出所: BOLSA DE CELEBREZ DE S. A. O. F. S.



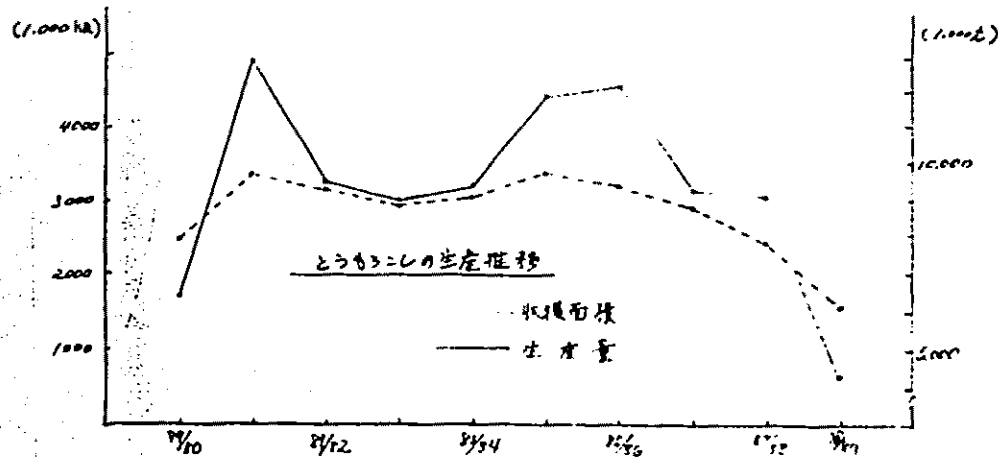
2.1.2 とうもろこし

1) 生産

表 B-13 とうもろこし:生産推移

年 度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	収穫率(%)	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1979/80	3.310	2.490	75.2	6.400	2.570
80/81	4.000	3.194	79.5	12.900	3.801
81/82	3.695	3.170	85.5	9.600	3.208
82/83	3.440	2.970	86.3	7.000	3.030
83/84	3.484	3.025	86.8	9.500	3.141
84/85	3.620	3.340	92.2	11.700	3.563
85/86	3.820	3.231	84.6	12.100	3.745
86/87	3.650	2.900	79.4	7.250	3.190
87/88	2.825	2.437	86.3	9.260	3.774
88/89	2.490	1.520	61.0	4.260	2.803

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES



とうもろこしは、アルゼンチンの伝統的かつ代表的穀物の一つで、今世紀の初めにすでに300万ヘクタール、栽培面積を占め700万トンの生産が行われていた作物である。過去の統計をみると作付面積では1935/36年に達した763万ヘクタール、収穫面積はその前年の570万ヘクタールを今日にいたるまでの最大の記録とし、又生産量でも1930年代に数回にわたって1千万トンを超える大型の収穫が行われたが、史上最高の記録は栽培技術の向上に伴って最高の単収(3.800kg/ha)を達した1980/81年における12.9百万トンとされている。

栽培規模は、40年代から60年代にかけて減少傾向にあり1951/52年には収穫面積を1.431万ヘクタールへと激減するが70年代に入ると400万ヘクタールに復活、80年代は再び300万ヘクタール台に落ちている。中でも88/89年は作付面積において250万ヘクタール、収穫面積はわずか152万ヘクタール

一に落ちている。これは上記 5/53 農年のみに勝る今年中最低の記録である。その結果として得られた生産量 426 万トンも又過去 29 年間のうち、57/60 農年の 410 万トンに見合ふ低いものであった。

80 年代末にみられたこのような生産の大幅な減少は、これまでにない品種の改良、栽培技術の向上や従来栽培されていなかった地域の開墾への努力が効果を奏したからにこそ示すものでなく、前年を支配した低価格から生産者の地を有利な作物と求めたことや栽培期間中の極度の天候不順が大きな原因であった。

88/89 農年についてみると作付準備の整地は 8 月の中旬より開始されたが降雨不足のために遅延し、9 月に入ると本格化したものの東北地方やパンプ地方では水分不足がはげしく、更に強風が上を吹きつける問題等も加った。

10 月から 11 月にかけて播種が行われたが水分不足の問題は解決されず、又早く植付けた東北地方では開花期に乾燥の被害を受け、いり早熟による単収低下の問題が一般化した。

サンタフェ州北部、フエイス・アリス州北部及び南東部やラ・パンプ地方では土地に潤りがあったため播種後の生育は他の地域よりも良好な推移を示した。これに対してコルトバ、サン・ルイス等北部地方は乾燥が 12 月より 2 月にわたって続き、パンプ平原の水分不足も解決されることはなかった。

このように全般的に水分が不足したに加え気温が極度に上昇したため全体的な開花期に悪影響を与え、単収を落す決定的な原因となった。このためエントレ・リウス、コルトバ、サンタフェ各地方ではとうもろこしの収穫を早からめ、天候不順のためにこれ又不足している収穫の補充を行おうとの、とうもろこしを飼料として利用した農家が出ることもあった。結果的に作付面積に対する収穫面積の比率は 60% に止まったが、この収穫率も又過去 30 年間最低のレベルとなつてゐる。

乾燥による早熟は収穫を早め、1 月にはコリエテス、コルトバ、エントレ・リウス、サンタフェ北部及びパンプ地方において、又 2 月にはサンタフェ南部、フエイス・アリス北部、ラ・パンプ地方が収穫に入った。

88/89 農年の収穫は 3 月から 4 月にかけて終了している。

表 B-14 とうもろこし：州別生産実績 (88/89)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単 位 kg/ha
フエイス・アリス	900.0	750.0	2,700.0	3,600
サンタフェ	300.0	200.0	535.0	2,675
コルトバ	520.0	260.0	480.0	1,846
ラ・パンプ	370.0	90.0	200.0	2,174
エントレ・リウス	100.0	40.0	60.0	1,500
サン・ルイス	110.0	50.0	51.1	1,022

チヤコ	33.0	20.0	45.0	1.500
チルマ	40.0	23.0	40.0	1.739
チンコ・チルマ	18.0	16.0	21.0	1.313
ソフマ	13.0	7.0	14.0	2.000
コリエス	1.5	1.5	4.5	3.000
その他	64.5	47.2	104.4	2.122
計	2.470.0	1.519.9	4.260.0	2.803

出所: SECRETARIA DE AGRICULTURA Y GANADERIA

アルゼンチンにおけるとうもろこし生産の州別比率は面積、生産量共にブエノスアイレス州が圧倒的に大きく、作付面積 & 収穫面積で全国の36% & 47%、生産量は63%であった。生産性はブエノスアイレス州に比べても高く、1ヘクタール当りの収量は、全国平均の2.803kgであったのに対し、3.600kgを記録している。

前年の87/88農年、過去5年間の平均と比べての州別の生産推移は次表に示す通りであるが、これは干ばつと乾燥の被害が大きかったサンルイス州 & ラ・パタン州に於いて極度の減産振りが観察される。

過去10年間に於ける州別の単収実績をみると過去10年平均ではチンコ・チルマの3.972kg/haが最も高くブエノスアイレス州に於ける3.886kgがこれに続いている。又単年別では87/88年にブエノスアイレス州で記録された4.478kgが最高のレベルであった。

表 B-15 とうもろこし：州別生産推移 (1,000t)

州別	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
ブエノスアイレス	4,093.1	4,245.6	4,023.0	2,700.0
コルドバ	2,461.2	2,840.2	2,076.0	480.0
チンコ・チルマ	1,819.6	1,689.2	1,403.0	505.0
サンルイス	416.5	420.4	286.9	51.1
ラ・パタン	313.8	396.5	391.6	200.0
エントレリオス	255.3	244.2	392.9	65.0
その他	475.5	553.9	619.6	228.9
計	9,855.0	10,370.0	9,200.0	4,260.0

作付面積 1,000ha	3,514.4	3,479.8	2,825.0	2,470.0
収穫面積 1,000ha	2,975.7	2,986.5	2,437.5	1,519.0

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-16 とうもろこし：州別単収 (kg/ha)

州別	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
チンコ・チルマ	3.972	3.937	4.268	2.675
ブエノスアイレス	3.886	4.006	4.478	3.600
コルドバ	3.176	3.446	3.603	1.846
ラ・パタン	2.299	2.472	2.099	2.174
エントレリオス	2.203	2.520	4.106	1.578
サンルイス	2.080	2.355	2.328	1.022
その他	2.093	2.330	2.730	1.807
平均	3.312	3.479	3.774	2.803

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

ロ) 国際市場

とろもろを含む飼料作物の世界生産は 85/86 農年に達した 843.3 百万トンをこれまでの最大の記録として、以後減少が続け 89/90 農年もやが回復したものの 807.8 百万トンに止まっている。この間 88/89 農年には 729.1 百万トンと 80 年代における最低のレベルに落ちた。88/89 農年以外にこのように生産の減少は、米国における前年比 (-) 66.3 百万トン、カナダにおける (-) 5.8 百万トンの減少

表 B-17 世界の飼料作物生産量

年 度	100 万トン
1980/81	732.0
81/82	769.8
82/83	784.4
83/84	686.8
84/85	814.1
85/86	843.3
86/87	835.5
87/88	791.7
88/89	729.1
89/90	807.8

に由来するものであるが、これは 88 年 5 月以降この両国が被害を受けた乾燥にともなうものである。このほかソ連における 16.2 百万トンの減産も影響した。これは降雨量利による被害で適切な貯蔵輸送施設不備のため大量のとうもろこしが腐敗したのをその理由としている。この点、USDA の報告に於いてアルゼンチンにおける乾燥による被害が前年比 6.4 百万の減産とされたことを世界生産減少の 1 つの理由に加えている。

このように主要生産国における生産の減少分は、EC 及びアフリカにおける大増産による一部がカバーされたものの、供給総量に (-) 8% の減産で 943.3 百万トンの生産に止まることとなった。

供給量の減少は当然の成り行きとして価格の上昇を招いたため需要を減少させることとなった。すなわち世界の消費量は、87/88 農年の 812.3 百万トンより 777.0 百万トンへと (-) 3% ほど低下している。

このように 2 年間にわたって世界の消費量が生産量を上回ったため世界の期末在庫は前年の 213.4 百万トンより 145.5 百万トンへと (-) 31.8% の大増減とされ消費量に対するストックの割合は 26.99% より 18.17% へと落ちた。

表 B-18 飼料作物：世界の生産消費

国 別	100 万トン				
	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
生産					
米 国	274.9	252.8	215.9	149.6	223.3
ソ 連	100.0	105.9	113.7	97.5	105.5
中 国	82.3	87.0	95.8	94.3	93.7
東ヨーロッパ	88.9	81.7	82.4	88.9	20.3
西ヨーロッパ	65.5	74.2	63.9	60.8	64.1
カナダ	23.9	25.5	25.5	19.7	23.2

アルゼンチン	17.4	13.0	131.1	6.7	10.3
南アフリカ連邦	8.9	7.9	7.9	12.4	8.8
オーストラリア	7.9	6.8	7.2	6.7	6.4
その他	5.7	4.6	2.9	4.5	4.1
計	167.9	176.1	163.4	188.0	183.1
計	843.3	835.5	791.7	729.1	807.8
消費					
米 国	170.3	181.6	182.8	156.3	166.6
ソ連	113.4	114.9	122.6	121.0	129.5
中国	86.6	90.5	91.8	71.4	92.7
その他	408.7	422.6	415.1	428.3	430.8
計	779.0	809.6	812.3	777.0	819.6
期末在庫					
米 国	126.9	152.6	134.1	66.1	61.1
その他	81.2	81.4	79.3	79.4	72.6
計	208.1	234.0	213.4	145.5	133.7

出所: USDA * 1-11月

世界の消費量は減少した。輸出需要は増加し、87/88年の83.2百万トンより94.4百万トンへと拡大した。ソ連が国内生産の大半を減少分をカバーするために大量の買付けを行ったことが世界輸入の増大に大きく影響した要因の一つであった。このためソ連は世界最大の輸入国となり前年よりも買付けを減らした日本を上回った。

ソ連に対する最大の供給国は米国で16.7百万トンを同国に輸出している。米国が前年比約70百万トンの生産を減少したから輸出を伸ばし得たのは、米国における消費量が前年比26.6百万トンの減少を計たためであった。

米国の生産物は前年よりも品質を悪くしたため、輸出品の大半は配合飼料原料として利用され、国内では在庫品が消費された。

このように米国の減産と大量の輸出のため米国在庫の世界在庫に占めた比率は、60%より45%へと低下した。

この他、ECと中国も輸出を大中に伸ばしたが、逆にアルゼンチンは乾燥による被害から輸出余力を落し輸出量を大中に減少した。

表 B-19 飼料作物：世界の輸出入

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
輸出					
米 国	36.4	47.5	53.5	61.2	63.5
西ヨーロッパ	8.1	6.7	8.5	11.8	10.8
カナダ	5.8	6.6	4.3	4.5	4.9
アルゼンチン	9.7	5.0	5.3	3.4	4.4
中国	2.1	4.1	4.1	4.7	4.0

南アフリカ連邦	1.5	2.6	5.8	1.6	3.7
オーストラリア	5.0	3.1	2.5	2.2	2.1
タイ	4.0	2.8	0.8	1.4	0.8
その他	5.6	5.7	3.4	3.6	5.1
計	83.2	84.1	83.2	94.4	99.3
輸入					
ソ連	13.6	10.8	10.7	22.1	24.0
日本	21.5	22.1	22.4	21.5	22.0
東ヨーロッパ	5.6	3.3	4.2	5.3	4.3
西ヨーロッパ	5.6	2.3	7.1	5.2	4.3
中国	0.7	2.1	0.6	0.3	0.9
その他	36.2	42.5	41.2	40.0	43.8
計	83.2	84.1	83.2	94.4	99.3

出所: USDA * 1-11月

一般的に減産をきたし飼料作物の中でもとうもろこしは特に大規模な生産減少を記録した作物で前農年に達した447.4百万トンを399.1百万トンへと落した。これは特に北米の米国及びアルゼンチンにおける乾燥の被害にもとづいてのことである。

世界のとうもろこし生産は米国の最大の生産国として、88年と例にとると世界生産の36%を同国に集中した。これに続く、中国(11%)、ブラジル(6%)、ルーマニア(5%)、フランス(3%)、メキシコ(3%)、アルゼンチン(2%)を主要生産国としている。FAOの統計にもとづく生産性をみると大陸別では、ヨーロッパに於ける平均5,108kg/haが圧倒的に高く、中米の4,365kg/ha、ソ連の3,810kg/ha順に列、南米の生産性は2,128kgと低い。国別では、ギリシアに於いて9,673kg/ha(87年)オーストラリアで8,330kgの高い単収が記録されている。世界最大の生産国米国の単収は7,497kg/ha(87年)、アジアでは韓国(6,484kg)がもっとも高い。南米ではアルゼンチンが3,774kg/haの単収をあげて高く、これは2,000kg以下の低い水準である。

表 B-20 とうもろこし: 世界の栽培面積と生産量

大陸及び国別	面積 100万ha				生産量 100万トン			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
北中米								
米国	30.4	28.0	24.0	23.5	225.5	209.6	179.6	125.0
メキシコ	7.5	6.4	6.8	6.8	14.0	11.7	11.6	12.0
カナダ	1.2	1.0	1.0	1.0	2.5	5.9	7.0	5.4
その他	1.9	1.8	1.9	2.1	2.7	2.7	3.1	3.3
計	41.0	37.2	33.7	33.4	249.7	229.9	201.3	145.7
アジア								
中国	17.8	19.2	20.3	19.9	64.1	71.1	80.1	73.8
インド	5.8	5.9	5.3	5.9	6.7	7.5	5.6	7.5
インドネシア	2.4	3.1	2.6	3.2	4.3	5.9	5.2	6.7
タイ	1.9	1.8	1.4	1.8	4.7	4.3	2.9	5.2

アフリカ	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	4.1	4.3	4.4
北アフリカ	4.0	3.9	3.9	4.1	3.9	4.4	4.6	4.4
計	35.4	37.5	37.2	38.6	42.7	40.3	40.6	40.0
ヨーロッパ								
ルーマニア	3.1	3.0	3.2	3.2	15.2	20.2	17.0	19.5
フランス	1.9	1.9	1.7	1.9	12.4	11.6	12.5	13.7
ユーゴスラビア	2.4	2.4	2.2	2.3	7.8	12.5	8.9	7.7
ハンガリー	1.1	1.1	1.2	1.1	6.8	7.3	4.2	6.5
イタリア	0.9	0.8	0.8	0.9	6.4	6.5	5.8	6.2
スペイン	0.5	0.5	0.5	0.5	3.4	3.4	3.6	3.6
北アフリカ	1.6	1.8	1.8	1.8	8.6	10.1	7.4	9.2
計	11.5	11.5	11.4	11.7	62.7	71.6	66.4	66.2
南米								
ブラジル	11.8	12.5	13.5	13.1	22.0	20.5	26.8	24.7
アルゼンチン	3.3	3.2	2.9	2.4	11.9	12.1	9.3	9.2
ペルー	0.5	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.4
北アフリカ	2.2	2.1	2.4	2.6	4.1	4.0	4.2	4.6
計	17.8	18.5	19.5	18.8	38.9	37.7	41.6	39.9
アジア								
南アジア	3.9	4.0	4.0	3.6	2.7	3.1	2.4	2.1
インド	0.8	0.7	0.9	0.9	3.7	2.9	3.6	3.7
ネパール	1.4	1.4	1.6	1.2	2.6	2.9	2.3	2.6
パキスタン	1.7	1.6	1.7	1.7	2.1	2.8	2.4	2.3
北アフリカ	10.9	11.2	11.2	11.7	12.7	13.6	11.2	14.3
計	18.7	18.9	19.4	19.7	29.0	30.3	26.9	30.0
オセアニア	4.5	4.3	4.6	4.1	14.4	12.5	14.8	15.9
大洋州	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	0.5	0.5	0.4
世界計	129.0	128.0	125.9	126.4	482.1	484.8	459.1	405.1

出所: FAO

表 B-21

とうもろこしの世界平均

kg/ha

大陸別の国別	1985	1986	1987	1988
ヨーロッパ				
ギリシャ	8.814	9.147	7.673	8.515
オーストリア	8.303	8.018	5.140	8.119
イタリア	6.887	7.610	7.503	7.266
西ドイツ	6.652	6.963	6.273	7.474
フランス	6.576	6.177	7.154	7.056
スペイン	6.490	6.532	6.523	6.742
ルーマニア	4.731	6.774	6.032	6.094
ハンガリー	6.301	6.336	6.183	5.750
平均	5.431	6.204	6.849	5.651
大洋州	3.760	4.434	4.850	5.108
北米				
米国	7.407	7.487	7.497	5.311
カナダ	6.242	5.948	7.022	5.473
メキシコ	1.861	1.827	1.705	1.765
平均	6.094	6.174	5.764	4.365
ソ連	3.214	2.955	3.238	3.810
アジア				
韓国	6.233	6.255	6.444	6.184
中国	3.607	3.705	3.749	3.713
インド	3.351	4.107	4.211	3.571

平均	2.572	2.347	2.049	2.870
平均	2.628	2.729	2.890	2.774
南米				
アルゼンチン	3.563	3.745	3.190	3.774
ペルー	1.857	1.805	1.850	2.000
ブラジル	1.866	1.647	1.784	1.881
パラグアイ	1.712	2.042	2.027	1.818
ウルグアイ	1.410	1.331	1.380	1.367
平均	2.182	2.032	2.135	2.128
アフリカ				
エジプト	4.601	3.724	4.258	4.302
ナイジェリア	2.128	2.227	1.717	2.143
ザンビア	1.908	1.891	1.743	2.010
エチオピア	1.296	1.207	1.913	2.000
平均	1.551	1.557	1.388	1.520
世界平均	2.784	2.788	2.646	2.705

出所: FAO

米国農務局 (USDA) の資料によると、とうもろこしの世界供給は 88/89 農年における世界生産の減少から供給量が世界の消費量を大きく下廻ったため期末ストックは 87/88 年末の 146.3 百万トンより 88/89 年には 82.4 百万トンと急激な下降をみせた。1-11 月のデータにもとづく 89/90 農年の生産を復元したものの消費量が前年を上廻ったため、88/89 農年に減少したストックを回復することは、これまで 82.1 百万トンとストックの減少が続いた。このため消費量に対するストックの比率は 86/87 年の 35% より 89/90 年には 17% へと下降しており、価格上昇要因となっている。

表 B-22 とうもろこし: 世界の供給

国別	1985/86	88/89	87/88	89/90	100%
生産					
米	225.5	201.6	179.6	125.0	192.8
中国	63.8	70.9	73.2	77.4	76.0
東欧	30.6	37.2	30.2	32.2	31.1
E.C.	25.7	25.2	22.7	23.2	22.6
ブラジル	21.0	26.5	24.7	26.0	25.5
ソ連	14.4	12.5	14.8	16.0	16.0
メキシコ	10.5	10.0	9.9	10.1	10.3
南アフリカ連邦	8.1	7.2	7.1	11.7	8.0
アルゼンチン	12.4	9.3	9.0	4.7	7.2
タイ	5.4	4.3	2.7	4.2	2.8
その他	62.4	63.2	64.2	68.1	68.4
計	477.8	477.9	447.4	399.1	467.7
消費					
米	133.5	150.0	151.6	131.6	139.1
中国	65.7	73.2	74.4	74.0	75.0
ソ連	24.8	19.6	22.1	34.6	25.5
西欧	29.5	28.7	27.4	27.5	27.0
日本	14.4	15.5	16.6	16.1	16.6
その他	157.3	173.3	170.1	172.3	177.8
計	425.2	460.5	462.2	456.0	473.0

在庫	米	国	1988/89	1989/90	1988/89	1989/90	1988/89
米	の	地	102.6	124.0	108.1	49.0	48.2
の	の	地	41.2	37.2	28.1	25.4	23.7
計			143.8	161.2	136.2	74.4	71.9

出所: USDA * 1-11月

88/89 農年の生産減少にかかわらず、世界の貿易量は増加を続けており、前年比 12% 増の 63.5 百万トン、89/90 年は更に伸びて約 70 百万トンに達している。世界貿易量の増加は、ソ連の買付増加にもとづき、88/89 年には前年を倍加する 17.5 百万トン、89/90 年は更に増加して 19.5 百万トンの輸入を行っている。これに対する供給国は米国で、その輸出量は 87/88 年の 44.5 百万トンより 88/90 年には 55.0 百万トンへと伸びているが、生産の減少が前年(88/89 年)に比し、繰越在庫の輸出に現われている。

世界の輸出は米国のほぼ 80% を占め、圧倒的市場にあるだけに他国の輸出規模は小さく、南アフリカ連邦、アルゼンチン及び中国がそれぞれ 3 百万トン程度の輸出に止まっている。一方輸入国側ではソ連と日本の輸入が大きい、87/88 年まで日本の輸入が圧倒的であったが、88/89 年以降、ソ連の輸入が日本を上回っている。

表 B-23 とらちニレ: 世界の輸出入 100 万トン

国 別	1988/89	88/89	87/88	88/89	89/90 *
輸出					
米 国	31.5	27.4	44.5	51.4	55.0
南アフリカ連邦	1.5	2.6	0.8	1.6	2.7
アルゼンチン	7.4	4.0	3.7	2.5	3.2
中 国	6.4	3.8	4.1	2.5	3.0
その他	3.9	4.0	2.8	2.1	4.1
計	54.5	56.4	56.7	62.5	67.7
輸入					
ソ 連	10.3	7.6	5.1	17.5	19.5
日 本	14.6	16.1	16.7	16.0	16.6
韓 国	3.6	4.6	5.0	5.7	6.4
台 湾	3.1	3.5	4.0	2.7	4.2
メキシコ	1.7	3.4	3.2	3.2	3.3
東南アジア	4.8	2.8	3.4	2.4	2.5
中 国	2.2	1.7	2.2	2.4	2.0
その他	0.4	1.6	0.2	-	0.5
計	54.5	56.4	56.7	62.5	67.7

出所: USDA * 1-11月

アルゼンチンの輸出
80年代におけるアルゼンチンのとらちニレ輸出は、81/82 農年に重量で 900 万トン、金額で 13 億ドルの輸出を行ったのを最高の記録とし、以後減少を続けている。とくに最近の 27 年間は極

履の減少振りであるが、これは天候不復による国内生産の不振から輸出余力を為しての急激な減少と見られる。

表 B-24 とうもろこし：輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万円	平均単価 100円
1979/80	5,959	606	102
80/81	3,525	512	145
81/82	7,112	1,306	143
82/83	5,214	585	112
83/84	6,477	833	124
84/85	5,558	767	138
85/86	7,040	775	110
86/87	7,374	641	87
87/88	3,763	287	76
88/89	4,253	508	120

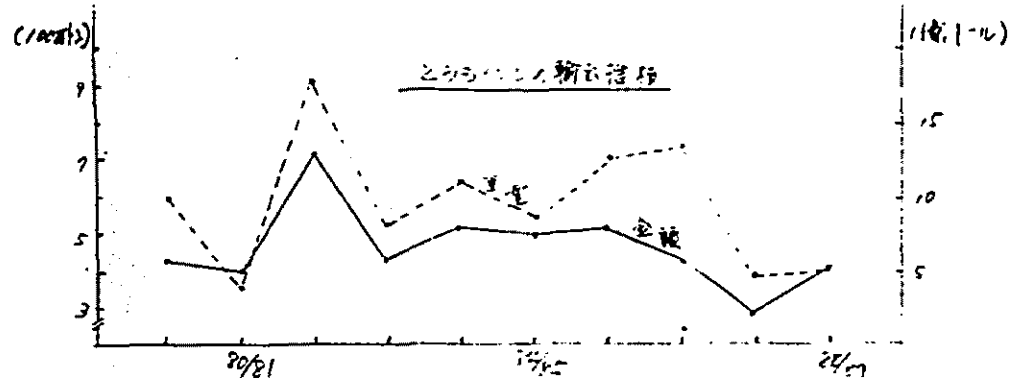


表 B-25 とうもろこし：輸出先別実績

輸出先国	1985	1986	1987	1988	1989 1-7月
イ 連	2,038.7	387.7	1,360.7	878.4	-
キ ー バ	347.6	303.1	367.2	578.0	468.2
イ ラ ン	801.9	915.3	723.5	443.7	537.9
マ ー 半 島	10.7	88.7	118.2	308.4	-
ハ ー 半 島	139.0	101.9	-	250.4	25.3
エ ー 半 島	383.2	357.8	22.0	255.1	-
ス ー 半 島	956.4	14.6	22.9	190.8	4.2
西 独	96.8	128.6	80.4	188.7	100.5
イ タ リ ー	502.7	269.4	177.4	188.3	33.3
ハ ル ギ ー	281.7	270.7	264.1	179.1	73.7
日 本	466.4	1,276.2	257.8	143.1	0.6
シ ン ガ ポ ー ル	9.9	16.1	19.1	126.5	-
ブ ラ ー 半 島	-	859.0	118.7	32.1	160.9
メ キ シ コ	197.4	266.0	-	-	-
ル ー マ ニ ア	-	290.8	-	-	-
ア ル ー 半 島	53.2	404.3	-	-	-
オ ラ ー 半 島	107.5	36.6	8.5	26.2	37.2
その他	647.7	1,387.7	296.7	497.8	133.5
計	7,040.8	7,374.5	5,763.0	4,232.6	1,577.8

出所：J.N.G.

⇒ 価格

今世紀最悪といわれる乾燥による米国のコシ・ハートが受けた被害はシカゴ取引市場相場の高騰をいかにすか世界生産の40%を占める米国市場の動向は別時アルゼンチンにも反響を与えアエリス・アリス市場の先物相場を上昇させた。

価格上昇の状況をアエリス・アリス港FOBの輸出価格でみると年間平均はトン当り85年にかいて84-、86年84-、87年79-と80ドルを前後してきたものの88年には104ドルに上昇、89年も8月までの平均で114ドルと高い水準を保ち高価格の時期を形成した。中でも乾燥の被害を受けた直後の88年7月にはトン当り130ドルまで上昇し過去5年間最高記録を作っている。

シカゴ市場の相場は88年7月末より安定し、これに平行してアルゼンチンの輸出価格もトン当り120ドル前後で89年まで続いている。このように高騰した高価格も1980年(トン当り平均161ドル)1981年(136ドル)1983年(134ドル)には劣っており、このレベルには戻りつつある。

89年度に入ると米国の次期生産予想が良好であることやソ連の買付け減少見込などから価格は安定期に入った。

表 B-26 とらもろし: 輸出価格 FOB. BUENOS AIRES US\$/t

月別	1985	1986	1987	1988	1989
1	108	116	65	86	120
2	105	88	65	87	118
3	106	84	69	85	121
4	110	84	74	81	115
5	109	87	80	76	121
6	111	89	82	115	113
7	112	82	87	130	108
8	82	82	86	117	102
9	90	90	85	119	*
10	67	69	82	119	*
11	71	71	84	114	*
12	67	67	85	115	*
平均	84	84	79	104	*

89年10月をベースとした実質価格によるアエリス・アリス穀物取引所価格は従来の通りで88年8月年末にかけて下落した価格は、年を明けてより上昇し始め、4月には最高に達したあと、年末にかけて再び下降した。

国内価格の上昇によるもっとも大きな影響を受けたのは大口の消費部門である配合飼料業界で、原料価格の上昇による必要以上の仕入資金を必要としたため、クレジットの傾向の中で懸

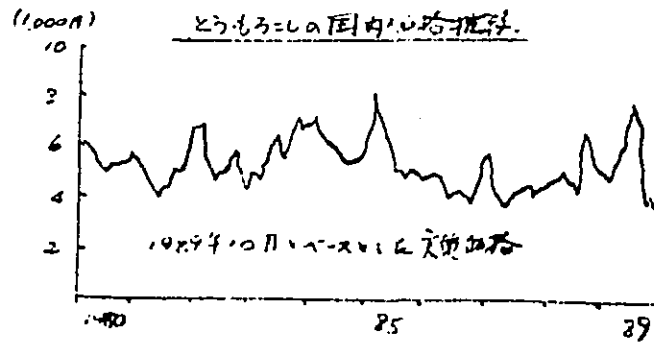
内、豚肉等の需要が低下したため
原料価格の上昇分をその子、販売価
格に移すことが出来ず営業収益を
圧迫した。

輸出業者も国内生産にかける
乾燥の被害の実体が判らぬまま
外国と販売契約を行おうとする
之を避けたこと、外国の顧客も又アル
ゼンチンの供給態勢に不安を感
じて取引を制限するなど生産面
にかける混乱は、国内、国外販売面
にも影響を与えた。

表B-27 とうもろこし：国内市場価格
1987年10月～1988年12月までの平均価格 73222/上

月別	価格	変動率 (%)
1988年		
8月	5.617	-16.64
9月	5.567	-0.92
10月	5.187	-6.82
11月	4.852	-6.47
12月	5.021	3.50
1989年		
1月	5.956	18.60
2月	6.077	2.03
3月	7.240	19.15
4月	7.727	10.33
5月	7.284	-7.56
6月	7.033	-4.75
7月	4.121	-41.40
8月	3.877	-5.90
9月	3.578	-7.73
10月	3.926	11.13

出所: BOLSA DE CEREALES DE B.A.



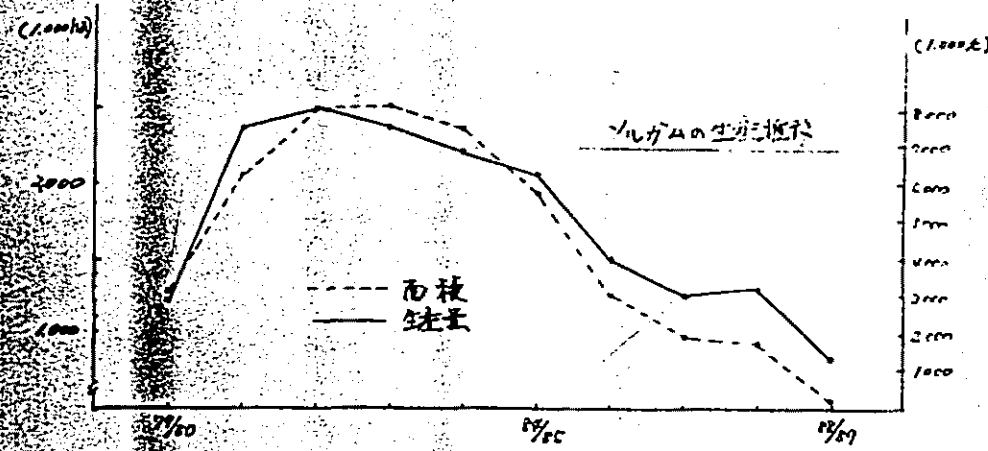
2.1.3 ソルカム

1) 生産

表 B-28 ソルカム: 生産推移

年 度	作付面積 (1,000ha)	収穫面積 (1,000t)	収穫率 (%)	生産量 (1,000t)	単収 (t/ha)
1979/80	1,824.0	1,279.0	67.70	2,900.0	2.314
80/81	2,400.0	2,100.0	86.70	7,550.0	3.595
81/82	2,712.0	2,510.0	92.60	8,000.0	3.187
82/83	2,657.0	2,520.0	94.80	7,400.0	3.214
83/84	2,550.0	2,370.0	92.90	6,900.0	2.711
84/85	2,040.0	1,965.0	96.30	6,200.0	3.155
85/86	1,400.0	1,280.0	91.40	4,000.0	3.125
86/87	1,127.0	977.0	86.70	3,000.0	3.071
87/88	1,075.0	956.0	88.90	3,200.0	3.347
88/89	830.0	697.0	71.90	1,360.0	2.278

出所: J.N.G.



ソルカムは、夏期作物の中でも重要品目の一つで世界的にも米国に次ぐ輸出品を占める。しかし80年代の中期以降生産は下降を続けており、それに伴う輸出余力の大幅な減少をみている。これは、その伝統的な栽培地帯であるフエロス・アリス州西部、ラ・バンプ州、コルトバ州南部及びエントレ・リオス州等降水量の多い栽培地帯で他の作物、たとえばとうもろこし、大豆、ヒマワリ等にその場を奪われているためである。

アルゼンチンにおけるソルカムの栽培は他の穀物の場合と同様に8月頃耕整地が行われ、10月には、北部のチャコ地方において播種が開始される。ソルカムは乾燥に強い作物として知られているが、耕整地から播種の時期における乾燥は適期の播種を避け、以後の生育に多大の影響を与えることになる。

88/89年度の栽培状況をみると11月下旬になって始めてチャコ、エントレ・リオス、コルトバ、サン

9/75及67/アニス・アリス州に降雨があり、10月に播種けられた地帯の生育を促した。しかしサンチャゴ・デル・エステロでは、降雨不足のため播種を行なうことが出来ず、その地の地域では不適當な降雨条件の下で播種を行なうか、放棄するか、いづれかと迷った状態を呈した。

播種は、年々開けて1月の中頃にほぼ終了したが、乾燥の被害から全国的に作付面積の減少が観察された。乾燥は2月も続き、このため病害、虫害を多く発生し、単収に大きな影響を与えた。

3月に入ると北部地方のサンチャゴ・デル・エステロ州と皮ウリに収穫が開始され、チヤコパン、フエ、コルトバ各州も収穫を開始したが、4月に入るとみられた降雨が収穫を阻害、更に暴風の発生なども単収低下の要因となった。

生産中心地帯のバンバでは5月に大半が収穫を終了したが、一部の地域では6月まで継続したところもあった。

88/89農年の作付面積は、春から夏にかけて続いた極度の乾燥のため前年と(-)22.8%も減少する830千haに止まった。この作付面積は、1950年代のレベルであり、81/82農年に達した2,712千haや翌年の2,657千haと比較すると極めて低いレベルである。ソルガムの国内生産は、同81/82農年を頂点とし、以後毎年300千~400千haの減少を続け今日にいたっている。

88/89農年を特徴づけた長期乾燥の結果、全国の平均単収は、2,278kg/haに落ちたが、これは、過去5年間平均値と比較して(-)26.2%、又過去10年間平均との比較では(-)26.6%の低下である。

作付面積に対する収穫面積の比率すなわち収穫率も最近数年間ではもっとも低く、71.9%で80年代では、79/80農年の67.9%に勝るだけの低いものであった。乾燥による栽培



の放棄、水場化によるものである。

作付面積の減少と単収の低下から生産量は前年比 (-) 57.5% の 1,360千トンに止まった。この生産量は過去5年及び10年平均と比較して70~75% の大幅な下落であり、この生産州において大小の差こそあるが大半は減産からみられる。

表 B-29 ヲルカム：88/89 農年の生産状況

州別	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
コルトバ	148.2	370.0	2,499
サンタフェ	114.0	240.0	2,105
ラ・パハンバ	105.0	200.0	1,905
ブエノ・アイレス	64.0	194.0	3,031
チヤコ	51.2	129.0	2,500
エントレ・リオス	44.3	82.0	1,851
サンタ・テレ・エステ	37.2	60.4	1,631
サン・ルイス	17.6	44.0	2,500
フォルモサ	10.0	30.0	3,000
ユリエンテス	1.0	2.3	2,300
マダマン	0.5	0.4	800
計	577.1	1,360	2,278

出所：SEC. AGRICULTURA Y GANADERIA.

表 B-30 ヲルカム：州別生産推移

州別	過去10年平均	過去5年平均	1977/83	1988/89
ブエノ・アイレス	1,031.7	822.1	540.0	144.0
コルトバ	1,879.6	1,485.6	1,149.0	379.0
サンタフェ	931.4	732.4	515.0	240.0
ラ・パハンバ	483.6	464.8	299.0	209.0
エントレ・リオス	365.5	338.2	339.0	82.0
その他	249.2	266.9	385.0	278.0
計	5,541.0	4,669.0	3,200.0	1,360.0
作付面積 1,000ha	2,037.5	1,658.4	1,075.0	830.0
収穫面積 1,000ha	1,800.1	1,507.6	956.0	577.1

出所：JNG

国内の生産地帯としては、コルトバ州が国内生産の30%近くを占めて最も大きく、88/89農年には244千ハクタールの植付作業が行われ、生育期間を通じて水分不足のため収穫率は、その60%程度に止まった。コルトバ州の全国生産に占める比率は年々減少しており、87/88年の25.6%は、88/89年には27.2%へと低下。これに対してサンタフェ州、ラ・パハンバ州等の生産は増加している。ブエノ・アイレス州は伝統的にコルトバに次ぐ生産州であったが、88/89年にはサンタフェ、ラ・パハンバに抜かれて4位の生産に止まっている。

ウ) 国際市場とアルセニケンの輸送

表 B-31 ソルカム: 世界の生産推移

年 度	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単 収 kg/ha
1977-81	44.1	64.5	1.462
1982	48.4	67.6	1.397
83	47.2	57.5	1.261
84	47.9	67.9	1.416
85	48.3	76.2	1.578
86	45.9	66.9	1.458
87	42.0	62.5	1.488
88	44.8	60.9	1.359

出 所: FAO

表 B-32

ソルカム: 世界の栽培面積と生産量

大陸別	面積 1000ha				生産量 1000t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
北中米	6.2	5.6	4.3	3.7	28.8	22.8	18.8	14.7
大 陸	1.2	1.5	1.9	1.8	6.6	4.8	6.3	5.5
その他の	0.5	0.5	0.4	0.5	0.3	0.7	0.4	0.6
計	8.5	7.6	6.6	6.0	35.7	29.3	25.5	20.8
アフリカ	15.0	15.6	15.0	16.0	10.1	8.9	11.8	11.0
ア 州	2.8	1.9	1.9	1.8	5.7	5.5	5.5	6.1
その他の	1.8	1.4	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2	1.3
計	19.5	18.9	18.1	19.1	17.0	15.6	18.5	18.4
アジア	4.1	4.1	4.1	4.5	5.0	5.5	5.2	4.9
ア 州	5.0	5.0	3.4	5.3	3.5	3.3	1.3	4.0
その他の	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	1.1	1.0	1.0
計	9.9	9.1	8.3	9.2	4.3	4.7	4.0	4.7
オセアニア	16.7	16.1	14.2	16.9	13.7	14.0	11.5	14.6
ア 州	2.0	1.3	1.0	1.0	4.3	4.1	3.0	3.2
その他の	0.2	2.3	2.6	2.7	0.5	0.6	0.7	0.7
計	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.8	0.6	0.6
計	2.7	2.2	1.9	1.9	7.7	6.0	4.9	5.1
オーストラリア	0.7	0.7	0.8	0.7	1.4	1.4	1.4	1.4
その他の	-	-	-	-	-	-	-	-
計	0.7	0.7	0.8	0.7	1.4	1.4	1.4	1.4
その他の	0.4	0.4	0.4	0.2	0.7	0.6	0.7	0.6
世界計	48.3	45.9	42.0	44.8	76.2	66.9	62.5	60.9

出 所: FAO

世界のソルカム生産は、面積に比べて約45百万ヘクタール生産量は65百万トン、平均単収は1ヘクタール当たり1.450kg前後であり、傾向として生産の減少が続いている。大陸別では、アジアとアフリカが

培面積が大きく、88年とするとこの二大陸で世界の栽培面積の80%を占めるが生産性は低いため生産量は54%に止まっている。国別では面積は大ききものではないがその単収の高さから米国の生産量が大きく世界生産量の24%を占めるに集中する。これに次いでインド、中国、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、パキスタンが年間300万トン以上を生産する主要国である。

表 B-33 ソルガム：世界の単収 kg/ha

大陸別	1985	1986	1987	1988
ヨーロッパ	3.372	3.488	3.659	3.726
北米	4.180	3.840	3.860	3.465
南米	2.853	2.723	2.572	2.735
大洋州	1.844	1.929	1.735	1.857
アジア	1.074	991	1.234	1.154
アフリカ	880	821	1.014	964
世界平均	824	871	808	867
世界平均	1.578	1.458	1.488	1.359

国別	1985	1986	1987	1988
フランス	4.682	3.822	5.359	4.907
米国	4.190	4.248	4.376	4.005
中国	2.891	2.891	2.739	3.451
インド	3.125	3.072	3.025	3.347
タイ	5.299	3.153	3.398	3.056
マレーシア	2.599	2.643	2.718	2.658
フィリピン	1.924	1.784	1.571	1.714
スリランカ	1.576	1.862	1.895	1.631
パキスタン	796	1.346	1.546	1.591
世界平均	1.578	1.458	1.488	1.359

出所：FAO

ソルガムの世界供給は米国の生産状況により左右される。米国は世界生産の35%を占める最大の生産国であると同時に世界輸出の70%を占める最大の輸出国でもあるだけにその生産動向は、さらに世界の市場に影響する。

1988年中には、米国のソルガム生産も他の穀物と同様に極度の乾燥による大きな被害を受け、その生産量は前年の18.8百トンより14.7百トンへと落ちたが、とちろにその受けの被害よりは低いものであった。

88/89年における米国のソルガム生産は、このように大なる減産を伴ったものの、インド、タイ、マレーシア、フィリピン等の増産によって米国の減産分がカバーされ、むしろ前年を上回る世界生産量が記録されている。89/90農年は米国の生産復活を中心として世界の生産は回復に向かっていると推定されている。

これに比べて 85/86, 86/87 年頃と比較して低い生産規模の穀物に比べ、世界の消費量は 60 百トン前後で変化しているため、世界の在庫は、年々減少していき、85/86 年に保有した 19.0 百トンは、89/90 年において 12.4 百トンに落ちたものと推定される。

表 B-34 ソルガム：世界の概観

国	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90
生産					
米 国	28.5	25.8	18.1	14.7	16.0
メキシコ	10.2	8.9	7.5	10.5	11.5
中国	5.6	5.4	5.4	5.4	5.5
タイ	3.7	4.3	4.0	3.1	3.7
インド	3.5	3.4	2.9	3.5	3.5
スウェーデン	3.6	3.4	1.3	4.4	3.4
アルゼンチン	4.2	3.1	3.0	1.3	2.1
オーストラリア	1.4	1.4	1.7	1.1	1.4
南アフリカ連邦	0.4	0.5	0.2	0.4	0.5
その他	0.3	0.5	0.2	0.3	0.3
計	70.3	64.5	50.2	54.8	57.8
消費					
米 国	17.6	13.9	15.0	12.4	13.1
メキシコ	5.7	5.1	4.0	5.3	5.2
中国	5.8	5.5	5.5	4.7	4.6
日本	5.0	4.2	3.8	4.0	3.8
ソ連	0.6	0.1	-	1.0	0.8
その他	30.3	31.5	30.6	31.9	33.2
計	65.0	60.3	59.2	59.3	60.7
期末在庫					
米 国	14.0	18.9	16.8	11.1	7.7
その他	5.0	4.2	3.0	4.2	4.7
計	19.0	23.1	19.8	15.3	12.4

出所: USDA

世界のソルガム貿易は、過去 5 年間の平均で 輸出入共 90 百トン前後である。この間 88/89 農年に一時的に増加した以外はほとんど変化のない世界貿易が続いている。

世界のソルガム輸出は、とうもろこしの場合と同様に米国の大中の生産減少にかかわらず 88/89 農年には前年比 200 百トン以上の増加を示した。これは世界の需要増に代るため前年比の在庫が輸出に廻されたものであり、その結果として米国の期末在庫量を大中に低下させたこととなる。

世界の輸出国としては米国のほか、アルゼンチン及びオーストラリアがあるが、その規模は非常に小さく、世界輸出の 70% 占める米国とは比較の対象とならない。

他方、輸入国の中では日本がもっとも大きく 89/90 農年における世界輸入の 41% は日本によって占められた。その他最近数年間輸入量を増加させている国としてメキシコがある。

メキシコは生産国としても世界4位にあるが国内消費量が大きいため輸入が継続している。

表 B-35 ソルガム：世界の輸出入 100万ト

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
輸出					
米 国	4.1	5.1	6.1	8.1	6.5
アルゼンチン	2.2	1.0	1.2	0.7	0.9
オーストラリア	1.1	0.6	0.6	0.5	0.7
その他	1.3	1.3	0.3	1.6	1.0
計	8.7	8.0	8.2	10.9	9.1
輸入					
日 本	5.1	4.2	3.9	4.0	3.8
メキシコ	0.6	0.8	0.9	2.1	1.6
ソ 連	0.1	0.1	-	1.2	0.8
韓 国	0.3	-	-	0.7	0.6
イスラエル	0.5	0.2	0.4	0.4	0.4
台 湾	0.8	0.8	0.3	0.4	0.2
パナマ	0.8	0.8	1.7	1.1	1.0
サウジアラビア	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
その他	0.3	1.0	0.9	0.9	0.6
計	8.7	8.0	8.2	10.9	9.1

出所: USDA

アルゼンチンの輸出についてみると対日輸出が圧倒的に大きく88年度に於いてソルガム輸出の75%が日本に向けられた。対日輸出は傾向として減少気味であるが、それでも依然として年間100万トン以上の輸出が続けられている。

過去の輸出実績をみると80年代の始めには、ソ連への大量輸出が行われていたため年間500万トン以上の大型輸出国であったが、85年を境としてソ連の買付が終焉の途を歩むにつれて輸出は減少に向い、輸出額は83年に達した5.5億ドルより87年には僅か0.7億ドルに落ちている。このため国際市場においても供給態勢が有利信用のかける輸出国という見方から外されており、残る日本市場をも失うリスクに見舞われているのが現状である。

表 B-36 ソルガム：国別年度別輸出実績 1,000ト

輸出先国	1985	1986	1987	1988
日 本	1,384.5	1,496.5	791.0	1,078.0
ス ー ー ー	-	-	-	100.3
ソ 連	1,414.7	-	58.1	76.0
メキシコ	375.3	254.4	-	12.8
キ ー ー ー	-	-	36.6	10.0
イ ー ー ー	-	-	30.2	51.5
オ ー ー ー	1.1	-	-	12.1
その他	109.9	183.2	113.4	24.1
計	3,305.5	1,736.1	1,029.7	1,457.2

出所: J.N.G.

このように輸出入の減少は、国際的に飼料価格の上昇した時期に起つてゐるから国際市場の利用が未だかつてはかりか国際市場の影響を受けて国内価格を上昇させる結果を招くこととなつた。

表 B-37 ソルガム：輸出入実績

年 度	重量 1,000t	金額 100万円	平均単価 100円
77	3,898	321.6	83
78	1,516	207.8	137
79	4,932	626.7	127
80	5,359	507.7	95
81	15,260	554.3	105
82	4,236	451.4	107
83	3,306	299.0	90
84	1,936	145.0	75
85	1,030	68.0	66
86	1,440	148.0	103
87
88
89

出所：J.N.G. 27-28

ソルガムの輸出価格は、86年、87年と下降し、88年には米國生産地帯の乾燥による被害を反映して6月以降大巾な上昇がみられ、低い価格に落ちた上半期を含めても年間平均で85年のレベルに回復し、89年は収穫期にかかり上半期を通じて、トン当り、\$100以上の高いレベルが継続した。

表 B-38 ソルガム 輸出価格 (FOB BUENOS AIRES) 100円/t

月 別	1985	1986	1987	1988	1989
1	106	83	60	74	116
2	88	81	80	76	112
3	91	77	67	72	113
4	96	77	66	66	106
5	95	78	67	64	114
6	90	74	59	100	104
7	86	65	67	105	107
8	80	65	64	94	79
9	80	69	60	93	*
10	77	62	76	104	*
11	79	65	75	98	*
12	90	62	75	102	*
平均	88	72	67	87	*

出所：J.N.G.

ハ) 国内市場

生産の減少に伴う国内販売用のソルガムが年々減少してゐるため、国内市場での取引量も

又、減産を続ける中、一部の輸出業者の買付けに止まってきた。又、国際市場にかつても国内市場にかつてもみられる最近の相場は低下から生産者は販路への興味を失い、農場内での消費する傾向となつたのも取引量を縮小した理由の一つであつた。

又、ソルガムが乾燥に対する抵抗性が強く各工場への適応性があることから最近では他の作物に適さない土地で栽培されるようになった。その栽培地帯が消費市場より遠くにあるにつれ、輸送費がかさみ、場所によっては輸送コストだけで穀物価格の40%に達することもあり、販路条件をますます不利なものとした。

このような状況の中で配合飼料工場の買付けが相場を維持する重要な役目を果たしてきたが、この買付けも次第に減少したことが、ソルガム相場を決定的に落ちさせた原因となり、このため多くの生産者が収穫を放棄する事態が発生した。

88年には、アルゼンチンも乾燥の被害を受け生産を低下させたが、外国よりの買付けも極度に低下していったので問題を生じることなく済んだ。

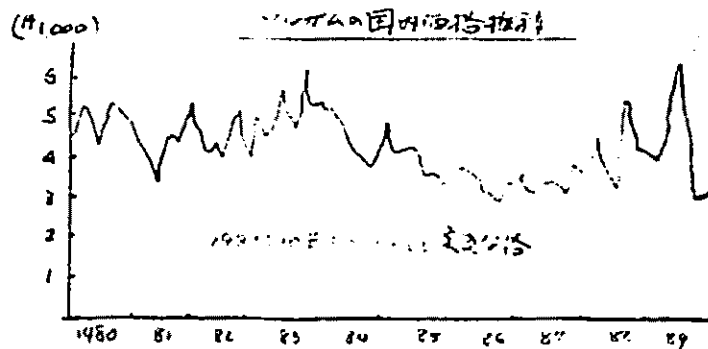
生産の減少に伴う輸出及び国内取引量の低下、取引価格の低迷というものがソルガム市場の現状である。

表 B-39 ソルガム：国内価格推移

月 別	価格 (₱/t)	変動率 (%)
1988年		
8月	4.360	-17.03
7月	4.305	-1.25
10月	4.257	-1.12
11月	4.051	-5.30
12月	3.932	-2.96
1990年		
1月	4.449	13.14
2月	4.786	7.56
3月	5.215	29.86
4月	5.572	6.08
5月	5.778	3.61
6月	7.580	31.19
7月	7.952	4.91
8月	7.702	-3.15
9月	7.986	3.63
10月	7.416	-7.13

出所: BOLSA DE CEREAIS DE B. MIPES

注) 1989年10月を100とした実質価格



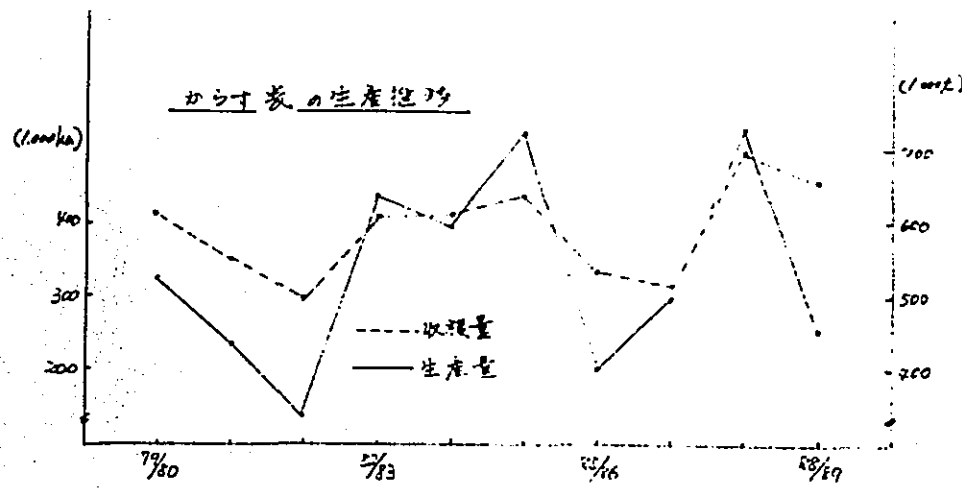
2.1.4 からす麦

1) 生産

表 B-40 からす麦：生産推移

年度	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000t	収穫率 (%)	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
1979/80	1,680.0	410.0	24.0	522.0	1,273
80/81	1,718.0	349.6	20.3	473.0	1,239
81/82	1,615.0	298.5	18.5	377.0	1,136
82/83	1,856.0	408.0	22.0	637.0	1,561
83/84	1,800.0	410.0	22.8	593.0	1,446
84/85	1,774.0	434.3	24.5	717.0	1,651
85/86	1,739.0	333.0	19.2	460.0	1,201
86/87	1,530.0	312.0	20.4	445.0	1,587
87/88	1,960.0	476.4	24.3	718.0	1,567
88/89	1,830.0	355.6	19.4	450.0	1,265

資料：J.N.G.



からす麦も他の冬期飼料作物の場合と同様に二つの植付時期がある。その一つは早播きで直接牛の飼料とするために植付けられるものであるが、気象条件が良好の場合は春の終りに種子の収穫を行なうことも出来る。才2の方法は遅播きで穀物生産を目的として行なうものである。

作付面積の大小は天候条件によるものであるが、からす麦の1年栽培に通ずる天候条件のかわらなく、他の飼料作物に対する天候条件もからす麦の作付に影響する要素である。作付面積は、今世紀の中頃 200万ヘクタールを越えた記録が残っているが、その後は 200万ヘクタールに達したことはなく、87/88年に達した 196万ヘクタールを最高の記録としている。80年代を通じて作付面積は、平均 172万ヘクタールであるが、この中、収穫にいたる面積は非常に少なく、約20%に当たる 373万ヘクタールを過去10年間の平均としている。これは、前述の通りからす麦栽培の目的が穀物生産の地青刈り又は放牧によって直接牛の飼料として用いられるためである。

早播きの分は降雨を利用して三月より開始されるが4月、5月に入ると乾燥のため播種を放棄することもある。しかし乾燥は天然牧草や造成牧草を枯らすためその代替としてからし麦の栽培が拡大されることが多い。

88/89農年の場合は、6月と7月に乾燥による水分の不足に加え極度の寒さのため発芽能力を失った地域を多く出したほか乾燥は8月から9月の中旬まで続き大きな被害があった。

表 B-41 からし麦：州別生産実績 (88/89)

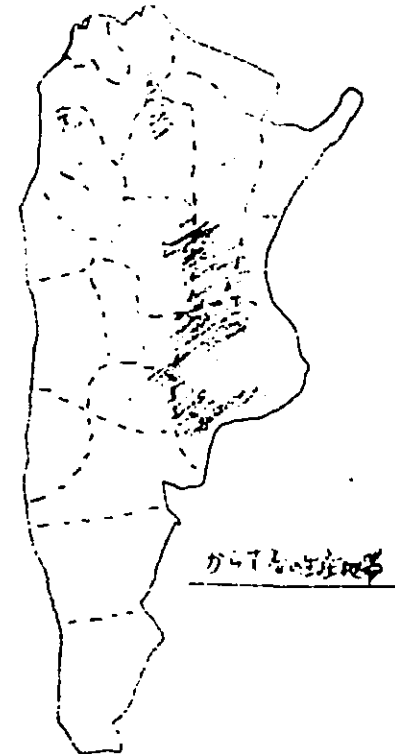
州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
ブエノス・アイレス	880.0	260.0	250.0	1,346
ラ・パタンバ	463.5	50.0	54.0	1,080
コルドバ	260.0	22.0	21.0	955
エントレ・リオス	95.0	8.2	13.6	1,659
サンタ・フェ	100.0	14.0	10.0	714
サン・ルイス	5.0	0.5	0.6	1,200
チルチ	6.0	0.5	0.5	1,000
リオ・ネグロ	0.8	0.2	0.2	1,000
ネウケン	0.6	0.2	0.1	500
全国計	1,830.0	355.6	450.0	1,265

出所: SEC. AGRICULTURA Y GANADERIA

88/89年のからし麦栽培面積は、183万ヘクタールで前年比(-)6.6%の減少であったが過去5年及び10年の平均と比較するとそれぞれ3.9%及び6.3%の増加であった。これに対する収穫面積は、355,64ヘクタールでその収穫率は19.4%に止ったが、この収穫率は81/82農年の18.5%、85/86農年の19.2%に次ぐ低いもので88年を特徴づける天候不順のあとを示している。

この収穫面積より算出された生産は、450千トンで前年を(-)37%も下回る低いレベルであった。この生産規模は過去5年及び10年の平均と比較してもそれぞれ(-)23%及び(-)18%の減少となる。生産を落とした理由は一ヘクタール当り収量の低下でその平均単収は1,265kgであったが、これは過去の平均と比較して低いレベルであった。

国内の生産分布と収穫面積についてみるとブエノス・アイレス州が圧倒的に大きく88/89年には全国収穫面積の73%を占めた。生産量もほぼ同様の割合で同州が首位にあり350千トンの生産を行っている。同州では天候不順のため西



部及南東部に於いて一部播種を不可能とした地域があるため例年の生産規模を落してか
り過去10年の平均と比較すると(-)18.6%の減少であった。

表 B-42 からト麦：州別生産推移

州別	過去10年平均		1,000t	
	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
ブエノスアイレス	1.5	1.6	1.7	1.3
ラ・パタゴニア	1.4	1.5	1.6	1.1
コレトバ	1.1	1.0	1.1	0.9
サントフェ	0.9	0.8	0.8	0.7
その他	0.7	0.9	1.4	1.6
計	1.2	1.5	1.5	1.2
作付面積 1,000ha	1.7	1.8	1.9	1.2
収穫面積 1,000ha	0.4	0.4	0.5	0.4

出所：NUMERO STATISTIC 89

ロ 国際市場とアルゼンチンの輸出

FAOの統計によると世界のからト麦栽培面積は24百万ヘクタール前後で大きな変動はないが生産
量の方は過去57年間のデータによると86年の49.6百万トンから88年の36.7百万トンと大きな動きが観察される。
これは、その年の天候条件により単収に大なる変化があったことを示している。

生産地帯はヨーロッパと北米に於いて大きくアルゼンチンを中心とする南米大陸の生産は世界生産
の3%弱と少ない。

国別では米国の生産量が最大でその世界生産に占める比率は87年において12.5% 88年は
8.3%であった。又、世界の平均単収16t/ha~21t/haに対し、英国、西独、フランスは4~5トンの高い
生産性が記録されている。

表 B-43 からト麦：世界の栽培面積と生産量

大陸別	面積 100千ha				生産量 100万トン			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
ヨーロッパ								
ドイツ	1.0	0.9	0.9	0.9	2.7	2.5	2.4	2.2
西独	0.6	0.5	0.5	0.5	2.0	2.3	2.0	2.0
スウェーデン	0.4	0.5	0.4	0.3	1.7	1.5	1.4	1.4
フランス	0.4	0.3	0.3	0.4	1.0	1.1	1.1	1.1
フィンランド	0.4	0.4	0.4		1.0	1.2	0.8	0.9
その他								
計	4.8	4.4	4.0	4.1	15.1	12.8	12.0	12.0
北米								
米国	3.3	2.8	2.8	2.3	9.0	5.6	5.4	3.2
カナダ	1.4	1.3	1.2	1.4	3.0	3.3	3.0	3.0
その他								
計	4.8	4.2	4.2	3.7	12.0	8.9	8.5	6.3

大洋州	1.1	1.2	1.3	1.4	1.3	1.6	1.7	1.8
オーストラリア	-	-	-	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他	1.1	1.2	1.3	1.5	1.4	1.7	1.8	1.7
計								
アジア	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5
中国	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3
その他	0.7	0.7	0.7	0.7	1.1	1.1	1.2	1.0
計								
南米	0.3	0.3	0.5	0.4	0.4	0.5	0.7	0.5
アルゼンチン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2
その他	0.6	0.5	0.7	0.6	0.8	0.8	1.0	0.8
計								
アフリカ	0.7	0.7	0.9	0.8	0.1	0.3	0.1	0.2
世界計	25.3	24.9	23.6	23.4	47.6	47.5	43.1	28.7

出所: FAO

表 B-44 単位: 世界の単収

大陸別	1985	86	87	88
ヨーロッパ	3.134	2.910	2.958	2.709
北中米	2.212	2.153	2.047	1.679
アジア	1.478	1.478	1.614	1.422
ソ連	1.627	1.665	1.569	1.375
南米	1.256	1.428	1.332	1.350
大洋州	1.276	1.422	1.361	1.297
世界平均	1.962	1.908	1.831	1.654
国別				
英国	4.582	5.186	4.556	4.595
西独	4.805	4.498	4.375	4.295
フランス	4.088	3.417	3.793	3.972
東独	4.191	4.086	4.275	3.800
ソ連	3.890	3.175	3.505	3.750
インドネシア	3.909	3.643	3.741	3.273
スウェーデン	3.748	3.266	3.627	3.248

出所: FAO

表 B-45 単位: 世界の輸出入

国別	1985	86	87	88
輸出				
アルゼンチン	0.1	-	-	0.2
オーストラリア	0.3	0.2	0.2	0.1
ヨーロッパ諸国	1.1	1.1	0.6	0.2
その他	0.1	0.3	0.5	0.7
計	1.6	1.6	1.3	0.6
輸入				
米国	0.4	0.4	0.5	0.3
日本	0.1	0.1	0.1	-
ヨーロッパ諸国	0.5	0.4	0.4	0.1
その他	0.5	0.4	0.1	0.1
計	1.5	1.3	1.1	0.5

出所: FAO

からす麦の世界貿易量は、僅少であり、輸出入とも100万トン・160万トンの範囲に止まっている。世界の輸出国としてはアルゼンチン、オーストラリア、輸入国は米国の大きく、日本も僅かにそれから次ぐ輸入国となっている。

アルゼンチンのからす麦輸出は、85年までソ連を最大の市場として行われてきたが、86年以降ソ連の買付が中止されたため、最近では、フランス、イタリー等を主要輸出国としている。いつれにしても輸出量は、少量であり、最近4年間で最も大きな輸出記録は88年でも30万トン程度に止まっている。

表 B-46 からす麦：輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万\$	平均単収 US\$/t
1979	108.2	6.5	60
80	65.1	2.6	101
81	126.5	21.3	168
82	57.9	31.3	54
83	120.8	7.1	64
84	62.3	5.0	80
85	103.5	-	-
86	4.2	-	-
87	18.5	-	-
88	305.7	-	-

出所: J.N.G.

表 B-47 からす麦：国別・年度別輸出実績

輸 出 先 国	1985	1986	1987	1988
ソ 連	49.2	-	-	56.8
オーストラリア	21.0	-	-	18.6
フランス	3.0	2.8	9.9	3.7
イタリー	-	-	-	5.3
ベルギー	2.5	1.5	2.6	1.2
その他	22.8	0.1	6.0	220.5
計	103.5	4.3	18.5	305.7

出所: INDEC

2.1.5 大麦

1) 生産

< ビール原料用大麦 >

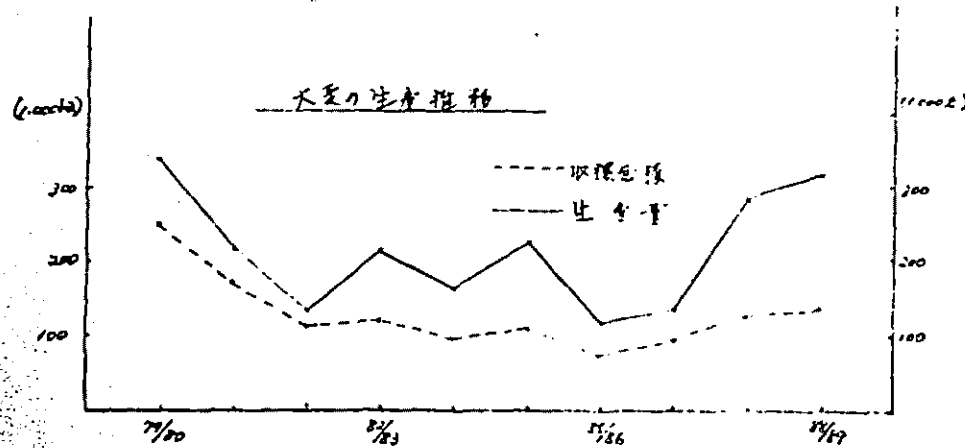
栽培面積の大半が、ブエノスアイレス州に集中するこの冬期作物も地の冬期作物と同様に穀物生産と飼料作物としての二つの目的を掲げているが、栽培の基本は、あくまでビール原料用穀物の生産にある。

表 B-48

大麦:生産推移

年度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	収穫率 (%)	生産量 1,000t	単収 t/ha
1979/80	572.0	246.0	41.60	339.0	1.373
80/81	554.7	172.6	31.10	217.0	1.257
81/82	409.0	114.7	28.00	131.5	1.147
82/83	353.4	118.9	33.60	211.4	1.778
83/84	272.0	96.3	32.00	166.0	1.724
84/85	282.0	107.2	37.00	224.0	2.010
85/86	226.0	75.7	33.50	118.0	1.559
86/87	224.0	93.5	41.70	133.0	1.422
87/88	245.7	131.1	53.40	281.7	2.147
88/89	241.6	124.2	51.50	218.3	2.372

出所: JNA.



このため適切な気象条件、定められた栽培技術など適切な栽培条件が要求されている。

88/89農年についてみると、このように栽培条件が満たされず、悪化している栽培環境にある。

すなわち通常の播種期とされる6月と7月には殆どこの栽培地帯において乾燥の被害を受け

ブエノス・アイレス州の沿岸地帯が土壌の湿気から適期の播種を可能とした地域を例外とし

て、ほとんど全地域にわたり時期外れの播種を余儀なくされた。

9月と10月には適量の降雨があり、大麦生産の76%を占めるブエノス・アイレス、コルドバ、及

びサンタ・フェ州の播種とその後生育を促した。しかし年間を通じて乾燥はひどく、収量が

極度に欠乏したため大麦畑の飼料利用がすた。このため収穫率は41%に落ちた州もある。

(ブエノス・アイレス州)。

過去のデータをみるとこのように低い収穫率もよく見られる。この10年間に

も40%を割った年が6年もあり、中でも81/82農年には409千ハクタールの作付に対し114.7

千ハクタールの収穫、すなわち28%の収穫率に終わっている。このため生産量も安定しておらず

上下の変動がはげしく、天候に左右される生産量とが伺われる。

88/89農年の栽培面積は141.6千haで前年比14.5%の増加であった。おまじく播種期に水分不足の問題がなければ播種面積は更に増加したものとと思われるが、乾燥のため小麦の播種が止まり乾燥に強い大麦に切り換えたものもあり、これも面積増加の理由となっている。この栽培面積は過去5年、10年の平均と比較しても可成りの増加である。

表 B-49 ビール原料用大麦：州別生産推移 1,000t

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
アリス・タリス	171.0	139.3	220.0	250.0
コルトバ	13.2	10.4	23.0	43.0
サンタ・フェ	3.9	3.5	7.6	11.0
ラ・パルマ	12.2	5.7	8.2	5.0
その他	2.9	3.1	3.2	3.0
計	203.2	162.0	262.0	313.0

作付面積 1,000ha	139.7	85.1	123.7	141.6
収穫面積 1,000ha	122.0	81.6	114.0	128.2

出所：NUMERO ESTADISTICO 89

国内の生産分布はアリス・タリス州が圧倒的に大きく88/89農年を例にとると収穫面積において78%、生産量で80%が同州に集中している。

表 B-50 ビール用大麦：州別生産実績 (88/89)

州別	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
アリス・タリス	100.0	250.0	2,500
コルトバ	17.7	43.0	2,429
サンタ・フェ	5.1	11.0	2,157
ラ・パルマ	3.3	5.0	1,515
メントーサ	2.1	3.0	1,429
全国計	128.2	312.0	2,434

出所：NUMERO ESTADISTICO 89

アリス・タリス州における大麦の栽培面積は100千haで前年に対し13.6%、過去5年間の平均と比較しても49.7%の増加であるが過去10年間と比べるとその平均値に対し(-)3.2%の減少である。

アリス・タリス州の場合、作付けされた面積がすべて収穫されたが他州の収穫率は低く、コルトバ州においては僅か41%の収穫に止まっている。

収量条件が悪かった割には、1haあたりの単収は高く、全国平均で2,434kg/haで過去10年間の実績と比較しても5.9%の増加となっている。州別ではアリス・タリス州が最も高く、2,500kg/ha

を得ている。

作付面積の増加と単収向上の結果、全国生産量は312千tに達した。この量は過去の実績と比較しても高いものである。

<飼料用大麦>

圃場に牛を放してその飼料とするために栽培されるものであるが最近はその生産性が次第に失われており、栽培面積は減少を続けている。伝統的な栽培地帯はブエノス・アイレス州の南東部及び西部を中心とし、ラ・パロンバ、サンタ・ラ及びコルトバ等に限定される。

表 B-51 飼料用大麦：州別生産推移

州 別	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
ブエノス・アイレス	23.4	13.3	5.3	2.8
コルトバ	4.5	5.3	5.5	2.6
サンタ・ラ	2.8	3.1	10.0	0.1
その他	3.7	0.8	0.9	0.8
計	34.4	22.5	19.7	6.3

作付面積 1,000ha	254.2	162.8	123.0	150.0
収穫面積 1,000ha	29.1	12.2	12.1	6.0

出所: NUMERO ESTADISTICO 87

表 B-52 飼料用大麦：州別単収

州 別	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
ブエノス・アイレス	1,255	1,004	1,258	1,120
コルトバ	957	1,052	1,466	1,182
サンタ・ラ	1,026	767	1,055	251
その他	1,057	587	1,125	227
平均	1,122	1,142	1,147	1,057

出所: NUMERO ESTADISTICO 87

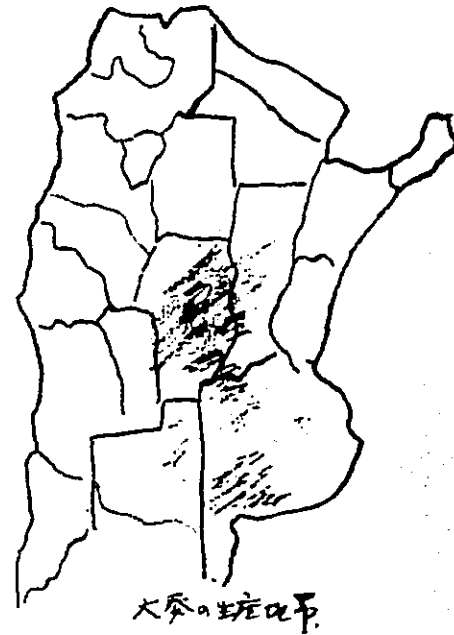
飼料用大麦の栽培面積は、ビール原料用に比して大きい。その栽培目的は放牧による飼料としての利用のため穀物収穫規模は、氷帯に小さく、88/89年の収穫率は僅かに6%、過去10年間の平均値をとっても11%程度である。

整地から播種にいたる作業は2月に行われ、88/89年の場合は5月から十月にかけて極度の乾燥に見舞われ、播種を放棄した農家を絶たされた。辛らうに播種を終った圃場も若芽の発芽が鈍く、生育を阻害した。この乾燥は天然牧草や造成牧草をも枯らし、ため大麦畑の利用が広範にわたって行われ、これが先に述べた収穫率低下のことも大きな理由となっている。

88/89農年の全般を通じて天候不順のため近年の年と比較して植付面積の大半は減少がみられる。すなわち88/89農年の植付面積は前年、過去5ヶ年間の平均及び過去10年間の平均と比較してそれぞれ(-)18.0%、(-)40.8%及び(-)60.7%の減少となっている。

ロ 国際市場とアルゼンチンの輸出

穀物庁の統計では、ビール用、飼料用の区分が行われていないが、アルゼンチンより輸出されている大麦は、すべてビール原料用である。輸出は散発的で非常に不規則に行われている。最近5ヶ年間の統計をみても、85年に33.7千トンと輸出したあと、86年は全然輸出されてからす、87年に僅かながら12千トンの取戻を行ったあと、88年には、一挙に10万トン以上の輸出を行っている。輸出先市場は、その大半が隣国のパラグアイで、その他は国では西独とコロンビアが時々買付けている程度である。



世界の輸出品量は、180万トン前後で、EC国よりの輸出が大きく、カナダ、米國がこれに続く主要輸出国となっている。ECの輸出品量は1千万トンに及び、時もあり、カナダも500万トン前後の輸出品規模を持っている。これに対する世界の輸入国は、フランス、ドイツと筆頭にソ連、東ヨーロッパ諸国等が主要市場となっている。世界の生産傾向、消費傾向には特に目立った変化はなく、世界の在庫は、やや減少気味である。

世界の生産及び貿易規模と比較してアルゼンチンの規模は小さく、人々の影響力は弱まっている。

表 B-53 大麦：世界の生産推移

年 度	收穫面積 1,000ha	生産量 100%t	平均 1kg/ha
1979-81	81.0	156.7	1.954
1982	78.7	162.4	2.064
83	79.4	167.5	2.109
84	78.0	171.8	2.202
85	79.2	176.7	2.230
86	79.4	182.4	2.297
87	78.2	180.9	2.315
88	75.8	169.5	2.236

出所：FAO

表 8-54 大表：世界の輸出入

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	1988/89 89/90
輸出					
E C	7.3	6.2	7.0	10.0	9.5
カ + ア	9.8	6.0	2.5	3.5	7.0
米 国	0.2	2.0	2.9	1.7	2.0
オーストラリア	3.7	2.2	1.6	1.4	1.2
その他	1.2	1.1	1.1	1.3	0.9
計	18.4	18.5	16.1	17.9	19.6
輸入					
オーストラリア	6.6	9.0	4.8	4.4	4.5
ソ 連	2.9	2.0	2.4	2.2	2.4
東 欧	3.3	1.3	1.7	2.5	2.0
E C	0.1	0.1	0.3	0.3	0.1
その他	4.0	2.9	5.6	6.2	6.1
計	18.4	18.5	16.1	17.9	17.6

出所：USDA

表 8-55 大表：世界の貿易

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	1988/89 89/90
生産					
ソ 連	46.5	53.9	48.4	44.5	49.0
E C	51.5	46.8	46.8	50.6	46.2
東 欧	16.4	16.9	16.5	16.2	16.6
カ + ア	12.4	14.6	14.0	10.2	12.1
米 国	12.9	13.3	11.5	6.4	8.8
中 国	6.2	5.6	6.0	6.3	6.9
オーストラリア	4.9	3.6	2.5	3.3	3.4
その他	27.2	27.7	24.1	27.4	25.9
計	178.0	182.4	180.6	166.9	168.9
消費					
ソ 連	48.6	56.6	60.7	48.2	52.4
西 欧	41.8	40.5	40.6	41.2	41.4
東 欧	18.6	18.9	18.1	17.9	18.5
米 国	10.9	10.3	9.4	7.5	8.1
その他	52.8	51.8	53.4	54.4	52.4
計	172.7	178.1	182.4	170.2	172.8
在庫					
米 国	7.1	7.3	7.0	7.3	3.5
その他	22.6	26.7	25.2	24.7	21.5
計	29.7	34.0	32.2	29.0	25.0

出所：USDA

表 8-56 大表：国別・年度別輸出米量

輸出先国	1985	1986	1987	1988
オーストラリア	33.2	-	2.0	71.5
西 独	-	-	-	25.4
コロンビア	0.5	-	-	-
その他	-	-	-	10.0
計	33.7	-	2.0	107.0

出所：INDEC

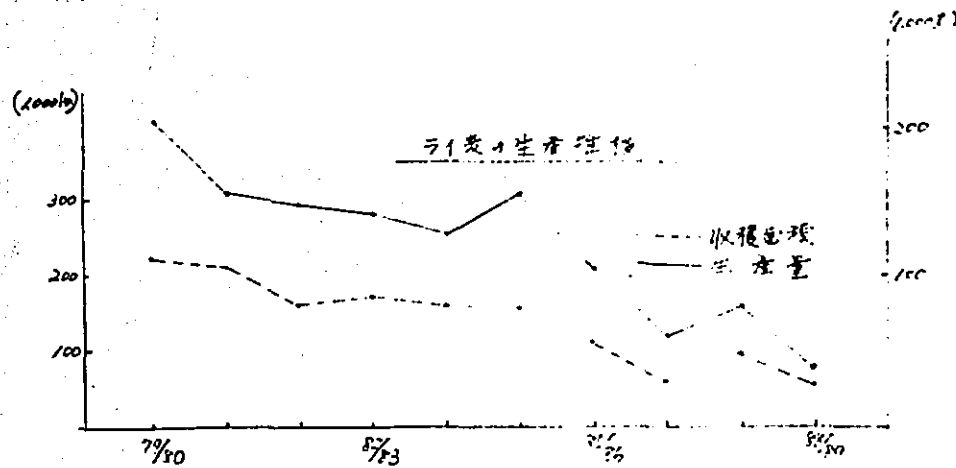
2.1.6 ライ麦

表 B-57 ライ麦：過去10年間の生産推移

年度	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	収穫率 (%)	生産量 / 1,000t	単収 / t/ha
1979/80	1,494.0	225.0	15.00	202.0	893
80/81	1,489.2	210.0	14.10	155.0	737
81/82	1,338.4	162.2	12.10	149.0	717
82/83	1,483.0	173.7	11.70	148.0	852
83/84	1,222.5	161.4	13.10	130.0	810
84/85	1,070.3	159.2	14.90	155.8	777
85/86	830.0	115.2	13.90	105.0	911
86/87	775.5	64.7	8.30	60.0	927
87/88	581.2	96.3	16.60	88.3	917
88/89	460.0	54.6	11.90	41.2	755

出所：J.N.G.

過去10年間の生産推移にみられる通り、地味冬期作物と同様に生産規模が急激に低下している作物の一つである。88/89年には過去10年間最低の規模に落ちた。作付面積は、79/80年の30%程度、収穫面積は更に低く24%、生産量に比較すれば20%の規模である。



このように生産の減少が続いているのは、より有利なカラス麦に切り換えられているのをひとつの理由としている。このような生産状況からみては290万ヘクタール（1959/60農年）に及ぶ大面積の栽培により100万トンの生産を上げていた冬期主要作物のライ麦も今やその重要性を落してわり、農業生産高に占める比重も極めて低いものとなっている。

アルゼンチンにおけるライ麦の栽培は1~2月に行われる圃場の整地から開始される。88/89年の場合は、この月に十分な降雨がふり加えて2月末には播種が可能とし、3月と4月にかけて播種を終了している。このように年頭に行われる栽培は、飼料とするのを目的としたもので穀物生産と

目的とした播種は、通常6~7月に行われる。83/84年の場合、この時期に降雨が不足し、極度の乾燥に見舞われたため、植付けのスピードは鈍く、植付けられた分の発芽も遅く、生産性に大きな影響を与えた。

穀物の収穫は、12月から開始され、1月に最高潮に達する。82/83農年の作付面積は460.0千ハクタールで、前年よりも(-)20.8%、過去10年間の平均と比較すると(-)61.7%という大幅な減少であり、1928/29年以降最低の栽培規模に落ちている。この栽培面積の中、収穫にこぼり付いた面積は、僅か54.6千ハクタールでその収穫率は11.9%であった。天候不順のため単収も低く、前年を(-)17.7%下廻ったため、収穫された量は41.200tに止まった。この量も過去10年間の平均と比較して(-)61%も低いものであった。

表 B-58 小麦：州別生産推移 1000t

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1982/83	1983/84
ブエノス・アイレス	65.1	66.5	20.2	14.7
ラ・パタゴニア	55.1	55.8	18.5	12.6
コルドバ	20.2	21.1	8.8	6.7
サン・ルイス	5.8	7.6	5.4	4.0
その他	14.1	19.8	25.4	2.2
計	140.3	157.8	88.3	41.2

作付面積 1,000ha	1,200.6	875.7	580.2	460.0
収穫面積 1,000ha	162.7	179.2	96.2	54.6

出所: BOLSA DE CEREALES DE B.AIRES. NUMERO ESTADISTICA 87

表 B-59 小麦：州別単収の推移 kg/ha

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1982/83	1983/84
ブエノス・アイレス	1,020	1,007	889	741
ラ・パタゴニア	635	751	881	650
コルドバ	811	645	1,086	792
サン・ルイス	866	894	900	800
その他	1,175	1,414	117	752
平均	862	794	917	725

出所: NUMERO ESTADISTICA 87

ロ) 国際市場とアルゼンチンの輸出

FAOの統計にもとづく世界の小麦生産状況及び世界の輸出入は、次表の通りである。アルゼンチンは、このところ国内生産の減少から輸出余力は乏しく、世界の小麦市場に参加してはいない。

表 B-60 小麦：世界の栽培面積と生産量

大陸・国別	栽培面積 1000ha				生産量 1000t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
ソ連	9.5	8.7	8.7	7.0	15.7	15.3	18.1	15.0

ヨーロッパ	3.1	2.8	2.6	2.6	7.1	6.8	6.1
北米	0.7	0.7	0.7	0.7	2.5	2.4	1.8
南米	0.4	0.4	0.4	0.4	1.4	1.8	1.6
スペイン	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4
ポルトガル	0.2	0.2	0.1	0.1	0.5	0.5	0.5
その他							
計	5.3	5.0	4.8	4.6	14.8	13.9	12.1
アフリカ	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.3
その他							
計	0.9	0.8	0.9	0.9	1.4	1.3	1.4
中米	0.4	0.3	0.3	0.2	0.6	0.6	0.3
その他	0.3	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	0.4
計	0.7	0.6	0.6	0.5	1.1	1.1	0.7
南米	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他	-	-	-	-	-	-	-
計	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他							
計	16.6	15.3	16.2	15.2	33.3	31.8	29.3

出所: FAO

表 B-61 ライ数: 世界のライ

国別	1985	1986	1987	1988
大陸別				
ヨーロッパ	2,780	2,408	2,785	2,618
北米	1,653	1,750	1,859	1,667
南米	1,653	1,672	1,567	1,478
北中米	1,675	1,876	1,686	1,335
南米	771	1,068	773	925
その他	2,005	2,080	1,101	1,922
国別				
スペイン	5,000	4,750	4,750	4,750
ポルトガル	4,481	4,550	3,772	4,575
フランス	4,333	4,400	4,000	4,667
西独	4,275	4,271	3,881	4,177
英国	4,375	4,571	4,571	4,125

出所: FAO

表 B-62 ライ数: 世界の輸出入

国別	1985	1986	1987	1988
輸出				
デンマーク	126	165	74	111
西独	6	186	361	91
カナダ	299	226	27	39
その他				
計	1,002	1,063	1,068	289
輸入				
西独	159	97	133	19

日 本	263	-72	-24	60
ス イ ス	52	33	16	10
オ ラ ン プ	50	48	53	9
ノ ル ウェー	23	55	35	6
その他				
計	1,003	913	164	234

出所: FAO

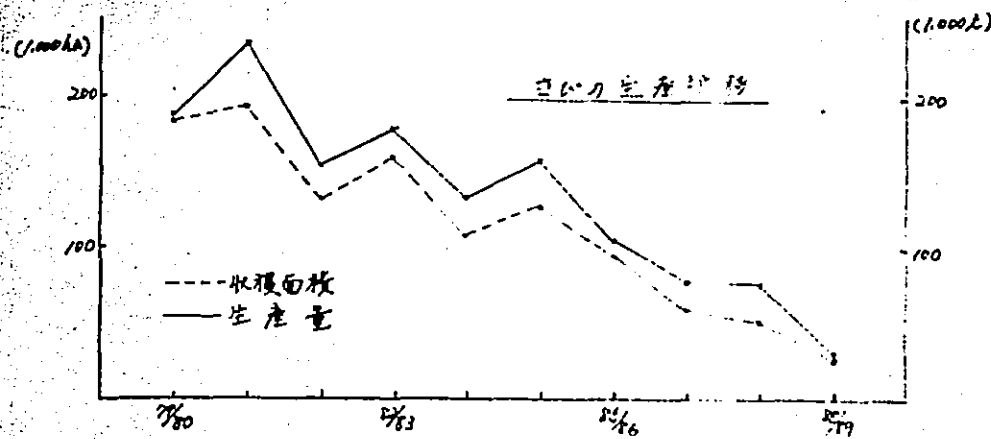
2.1.7. 3カ

1) 生産

表 B-63 3カ: 生産推移

年 度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	収穫率 (%)	生産量 1,000t	単収 t/ha
1979/80	278.0	182.2	65.50	188.0	1.032
80/81	338.2	187.4	55.40	238.0	1.270
81/82	236.0	131.8	56.00	154.0	1.168
82/83	224.0	160.2	71.50	178.6	1.115
83/84	207.3	113.7	54.90	136.0	1.196
84/85	288.0	125.4	55.00	158.0	1.260
85/86	176.0	93.9	53.40	107.0	1.140
86/87	116.2	62.2	53.50	76.9	1.236
87/88	103.6	52.2	40.00	75.0	1.434
88/89	87.2	25.7	29.50	29.8	1.160

出所: J.N.G.



穀物生産と飼料としての利用の2つの目的を持つこの作物も又上のグラフにみられる通り生産の減少が続いており、88/89農年における作付面積は、1945/46年以降最低の規模であった。

国内の生産地帯は、パンハ地方の4州に限定されており、コルドバ州を最大の生産地帯としていたが88/89年には、同州の生産が極度に減少、これに代ってフエイス・アイルヌの生産が

増加している。

さかの栽培周期は非常に短いため他の夏期作物が何らかの理由により植付けられなかった場所にも栽培することが可能であり、又梱包施設を可能とするところから不熟の場合に利用する最適な飼料ともなる。

88/89農年の気象上、土壌上の条件が悪く、9月から11月にかけて播種前整地の時期に降雨が不足し、播種から発芽、生育の期間にあたる12月と1月は乾燥が更にひどく、この状態は収穫が開始される2月まで続いた。

88/89農年の栽培面積は前年比(-)15.8%、過去5年及び10年の平均と比較してもそれぞれ(-)47.5%及び(-)61.3%の減少であったが中でもコルトラ州の減少率はなんと前年比(-)42.5%も下回るものであった。これは播種時に乾燥の影響があり、播種を放棄したものが続出したためである。

作付面積に対する収穫率は29.5%で全州において収穫率の減少がみられた。全国平均単収は1.157kg/haでこれは例年の平均よりも低く、結果的に生産量を29,800tの最低規模に落したためである。

表 B-64 さかの州別生産量

州別	単位: 1,000t		1987/88		1988/89	
	過去10年平均	過去5年平均				
プエリス・ティラス	39.0	32.4	22.7		21.0	
ラ・パシパ	15.6	14.8	4.5		3.0	
コルトバ	83.0	39.6	36.0		3.2	
サン・フェ	24.6	18.8	12.0		2.6	
計	162.1	110.6	75.0		29.8	
作付面積 1,000ha	225.2	166.2	103.6		87.2	
収穫面積 1,000ha	134.7	89.2	52.3		25.7	

出所: NUMERO ESTADISTICO 89

表 B-65 さかの州別単収

州別	単位: kg/ha		1987/88		1988/89	
	過去10年平均	過去5年平均				
プエリス・ティラス	1,434	1,411	1,335		1,277	
ラ・パシパ	1,114	1,276	1,200		1,053	
コルトバ	1,224	1,074	1,209		914	
サン・フェ	1,000	1,000	1,120		578	
全国平均	1,203	1,236	1,433		1,157	

出所: NUMERO ESTADISTICO 89

ロ) 国際市場とアルゼンチンの輸出

FAOの統計による世界のきん生産量及び生産国の単収比較は次表の通りである。大陸別ではアジアとアフリカに於ける生産が大きい。国別ではインド、中国及びナイジェリアを主要生産国としている。世界の栽培面積は40百万ヘクタール前後、生産量は30百万トン前後、世界平均単収は750kg/ha程度である。南米大陸の生産規模は極めて小さく、アルゼンチンに集中している。

表 B-66 きん：世界の栽培面積と生産量

大陸別	面積 100万 ha				生産量 1,000t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
アジア								
インド	16.2	16.7	14.2	16.0	1.5	2.3	2.7	2.5
中国	3.3	3.0	2.7	2.4	2.0	4.5	4.5	5.5
北朝鮮	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6
パキスタン	0.6	0.5	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2
その他								
計	21.0	21.2	18.3	19.1	4.3	7.5	7.9	8.8
アフリカ								
ナイジェリア	3.7	3.9	3.7	3.9	2.6	4.1	3.9	4.0
ニジェール	3.2	3.3	3.0	3.5	1.7	1.4	1.0	1.6
スーダン	1.7	1.5	1.1	1.7	0.4	0.3	0.2	0.5
マリ	1.6	1.6	1.5	1.6	1.3	1.3	1.2	1.9
セネガル	1.3	1.0	1.1	1.1	1.0	0.6	0.8	0.7
チャド	0.9	1.1	0.9	1.0	0.5	0.6	0.5	0.7
その他								
計	16.1	16.6	15.5	17.1	11.5	11.7	11.0	13.1
ヨーロッパ	2.8	2.5	2.8	2.8	2.9	2.4	3.9	2.7
その他								
世界計	40.2	40.5	36.6	39.9	29.3	28.6	27.6	31.3

表 B-67 きん：世界の単収

区分	1985	1986	1987	1988
大陸別				
ヨーロッパ	2,176	1,800	1,650	1,700
南米	1,264	1,138	1,242	1,111
アジア	1,028	953	1,421	964
アフリカ	705	609	687	704
その他	702	715	712	767
国別				
インド	3,825	3,885	3,680	3,871
中国	1,802	1,523	1,688	2,291
ナイジェリア	873	1,003	1,577	1,429
北朝鮮	1,231	1,239	1,258	1,223
マリ	746	776	784	1,170
アルゼンチン	1,264	1,138	1,242	1,111

出所: FAO

国内生産の低下に伴い輸出品も減少を続け、20年がかりに130千トンに達していた輸出量は、88年にいって70千トンへと半減している。アルゼンチン産さばりの輸出先市場は、伝統的にEC圏を対象として行われてきたが、最近はその買付率が減少しており、これが全体の輸出品減少を招く理由となっている。日本もアルゼンチン産さばりの主要顧客で、83年には24千トンの輸出を行った記録があるが、この5年間、ECの場合と同様に減少し、多い年でも10千トンにまで落ちている。EC圏内ではオランダが安定した輸入を行っていた唯一の国である。

表 B-68 さばり：輸出推移

年度	重量 1,000t	金額 100万ドル	単価(円/t)
1981	132.5	21.3	160
82	96.8	15.3	157
83	89.6	14.1	158
84	53.2	8.9	167
85	88.2	-	-
86	22.9	-	-
87	53.3	-	-
88	67.3	-	-

出所: J.N.G.

表 B-69 さばり：輸出先国別集計

輸出先国	1985	1986	1987	1988
オランダ	56.7	22.9	37.2	39.7
日本	-	2.4	6.9	3.9
東独	5.6	0.1	-	17.9
イギリス	19.2	1.0	-	1.5
フランス	2.0	0.5	-	2.1
西独	3.0	0.0	8.4	-
イスラエル	1.2	-	-	0.1
南アフリカ	-	-	-	0.5
その他	0.5	-	0.7	3.6
計	88.3	22.9	53.3	69.3

出所: J.N.G.

ハ) 国内市場

88/89 農年は、生産の大幅な減少により国内価格は堅調に推移した。とくに外国との売買契約にもとづく輸出業者の買付時期(4-5月)には、大幅な価格の上昇がみられたが、これも一時的なもので、89年6月以降は再び低価格が支配的であった。

表 B-70 (1) : 国内市場価格

1989年10月28日現在に於ける価格 7/10L/斗

月別	価格 (円)	変動率 (%)
1988年		
8月	6,243	14.69
9月	6,519	4.73
10月	6,197	-5.09
11月	6,171	-0.26
12月	5,647	-8.49
1989年		
1月	6,428	5.23
2月	7,615	18.67
3月	7,665	0.71
4月	12,011	56.27
5月	10,528	-12.35
6月	6,545	-37.23
7月	6,620	1.11
8月	5,115	-22.71
9月	5,042	-1.42
10月	5,592	10.70

出所: NUMERO ESTADISTICA 87

2.1.8 アルビオステ

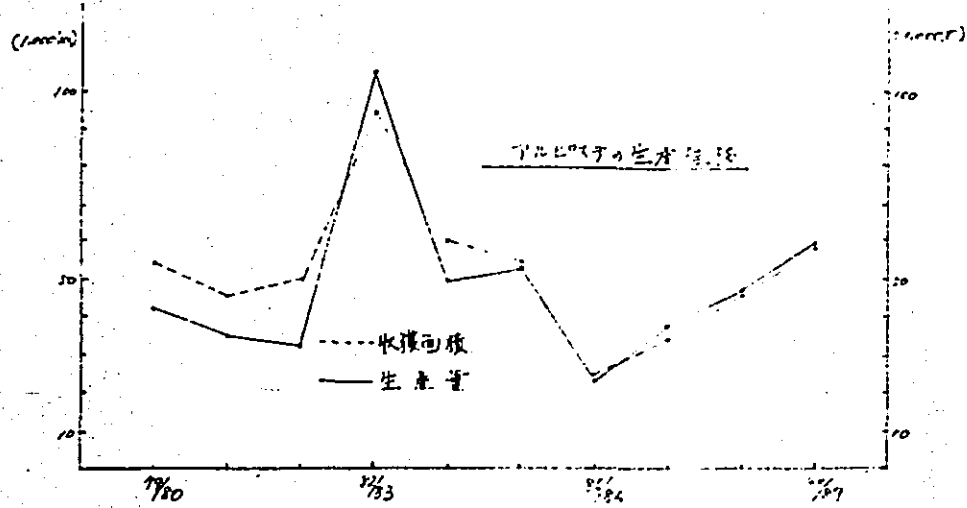
1) 生産

表 B-71 アルビオステ: 生産推移

年度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	収穫率 (%)	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1979/80	56.0	54.4	97.1	42.0	777
80/81	49.5	46.8	94.6	35.2	752
81/82	51.1	50.3	98.4	32.5	642
82/83	74.8	74.7	100.0	105.0	1,109
83/84	60.0	59.7	99.8	50.0	835
84/85	56.9	56.8	99.7	53.0	933
85/86	25.8	25.3	98.1	23.5	929
86/87	35.5	34.5	97.2	32.3	1,110
87/88	46.5	46.3	99.6	48.0	1,037
88/89	58.9	58.2	99.8	59.0	1,003

出所: JNA.

80年代におけるアルビオステの生産状況を示した上表によると 82/83農年に1時的に栽培面積が拡大して10万haに近く達し、10万トンの生産をあげたに以外、その半分又は、それ以下のレベルを平均的生産規模としている。88/89農年の場合も大きな変化は無く、作付面積、収穫面積共約59千ha、単収は、1haあたり1トンで59千トンの生産量であった。



アルゼンチンにおけるアルピロステの栽培は、ブエノス・アイレス、コルドバ及びサンタ・フェの三州において行われてきたが最近では、コルドバ及びサンタ・フェ両州における生産が減少しており、ブエノス・アイレス州に集中する傾向がみられる。すなわち、80年代の始めにコルドバ州は、全国栽培面積に10.8%、サンタ・フェ州は5.8%のシェアを占めていたものが、88/89農年にはそれぞれ1.0%及び0.5%に落ちた。ほとんど生産地帯としての重要性を失っている状況にある。88/89農年におけるこのように減少したのは、上記両州が乾燥の被害を受け栽培を放棄した地域を多く出現させたためである。

表 B-72 アルピロステ：州別生産量

州別	1,000t			
	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
ブエノス・アイレス	41.2	41.0	46.2	58.2
コルドバ	1.2	0.8	1.6	0.6
サンタ・フェ	1.2	0.8	0.2	0.2
その他	0.1	0.1	-	-
全国計	43.7	42.7	48.0	59.0
耕作面積 1,000ha	49.9	44.9	46.5	58.9
収穫面積 1,000ha	48.8	44.6	46.3	58.8

出所: NUMERO ESTADISTICO 89

表 B-73 アルピロステ：州別単収

州別	kg/ha			
	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
ブエノス・アイレス	894	951	1,031	1,004
コルドバ	857	1,143	1,333	1,000
サンタ・フェ	1,000	1,143	667	740
全国平均	895	957	1,037	1,003

出所: NUMERO ESTADISTICA 89

播種は、天候条件が通常の場合、6-7月に行われるが、88/89年の場合は、降雨不足のため例年よりも遅延したほか、多くの地域で播種と不可能とした場所が多かった。アエロス・アイルス州の南東部だけは、土中の水分が十分あったので問題なく播種が行われた。

播種後も乾燥が続き土中の水分が不足したため生育に大きな影響を与え苗の生長を押し下げた。1株あたりの苗数を減少させた。11月の中旬に始めて本格的な降雨があったものの、12月には再び乾燥が戻って気温が上昇したため生育と収穫を早めたため、このような生育不順のまま収穫に持ち込んだため単収を大中に落とすこととなった。

このように天候不順に見舞われたものの88/89農年の作付面積58,950 haは前年を26.7%上回るものであり過去10年間と比較しても18%増加する規模のものであった。これは比較的天候に恵まれたアエロス・アイルス州の栽培面積が拡大したのをその理由としている。

作付面積に対する収穫面積の割合すなわち収穫率は、99.8%で作付けられた分はほとんど収穫された。天候不順の割には高い収穫率であった。

乾燥の被害により、全国の平均単収は低下したが過去10年間の平均値と比較すると12.1%落ちた。88/89年の乾燥の被害も過去の例よりは、軽度のものであったことを示している。

単収は前年を若干下回ったものの栽培面積が大中に増加したため88/89農年の生産量は590千トンで前年を22.9%、過去10年間の平均と比較しても35%の増加であった。

州別の生産量は、栽培面積の場合と同様にアエロス・アイルス州が98.6%を占めて圧倒的に多く、それだけに他州の生産比率は、僅少であった。すなわちコルタバ州にかつて0.6千トン、サンタフェ州では0.3千トンに止まっている。

ロ) 販売

生産されるアルピステは、約3分の2が国内市場で消費され、残りの3分の1が海外に輸出されている。

国内市場では国内インフレの急進により89年中期にはアルピステの価格も高騰し、消費を押し下げたため6月を頂点として再び価格の下降がみられた。

海外への輸出は、80年代の初期に40千トン近くに達していたが80年代を通じて減少を続け87年には、10千トンへと落ちた。88年も20千トン以下の輸出に止まっている。輸出の減

少は、伝統的市場であった EC 国の買付けが減少しているためであり、最近の輸出市場は隣国のアメリカに依存する状態が続いている。

表 B-24 アルロスタ：輸出総額

年次	数量 (1000t)	金額 (100万)	対前年増減 (%)
1979	37.8	15.1	31.7
80	31.7	14.2	27.7
81	30.8	16.1	12.2
82	13.2	13.1	7.6
83	20.8	9.4	11.0
84	31.0	2.3	22.4
85	34.2	-	-
86	12.2	-	-
87	11.0	-	-
88	12.1	-	-

出所: J.N.G. 85~88年間の金額は対前年増減率による。

表 B-25 アルロスタ：輸出先市場

輸出先国	1985	1986	1987	1988
アメリカ	12.2	10.7	2.2	14.7
オーストラリア	0.4	-	0.8	1.4
キューバ	-	-	-	0.4
ベルギー	0.3	0.1	0.4	0.2
オランダ	0.1	-	-	-
スペイン	5.9	0.9	-	-
チリ	-	0.3	0.2	-
イギリス	1.3	-	-	-
その他	2.0	0.3	1.0	0.2
計	21.2	12.8	11.0	17.1

出所: J.N.G.

表 B-26 アルロスタ：国内市場統計

1989年10月2日現在までの累計

月別	数量 (1000t)	金額 (100万)
1988年		
8月	24,578	22.56
9月	24,671	0.26
10月	20,158	18.17
11月	18,131	10.06
12月	21,474	18.55
1989年		
1月	21,572	9.36
2月	20,565	11.67
3月	30,999	1.42
4月	36,565	17.16
5月	27,143	7.05
6月	42,047	7.42
7月	28,675	21.75
8月	22,750	20.72
9月	20,200	11.21
10月	19,523	3.35

出所: COMISSAO DE CERTIFICACAO DE EXPORTACAO

2.1.9 米

1) 生産

表 B-77 米：生産推移

年 度	作付面積 /1000ha	収穫面積 /1000ha	収穫率 (%)	生産量 /1000t	単収 /kg/ha
1979/80	87.8	82.2	82.00	262.0	3.226
80/81	84.4	81.8	79.50	256.5	3.500
81/82	117.3	113.6	79.30	337.2	3.249
82/83	108.8	81.0	74.40	277.2	3.422
83/84	131.0	129.4	98.80	396.0	3.677
84/85	110.8	105.2	94.90	377.0	3.601
85/86	117.0	99.9	85.30	282.2	3.786
86/87	98.3	89.8	91.30	351.6	3.915
87/88	101.9	100.0	98.10	315.0	4.150
88/89	115.5	104.9	90.80	420.0	4.671

アルゼンチンにおける米の生産は、その栽培地がパラナ川沿線の地域に限られて
いるため小さく、作付、収穫面積共 100千ha程度を前後する規模に止まっている。国内の生
産地帯は、エントレ・リオス州 コリエンテス州に集中し、この2州で全国栽培面積の 87% 全国生産
量の 80% を占有している。生産形態は、その大半が水田栽培のため生産性は高く、過去
10年間の平均単収は、エントレ・リオス州に於いて 4.572kg/ha コリエンテス州が 3.313kg/ha であり、
これにサンタ・フェ州を加えた全国平均値も 3.632kg と高い水準にある。

最近の生産動向は、上下を繰返して作り、面積に於いては上昇傾向を示している。

表 B-78 米：州別生産推移

州 別	過去10年間の平均	過去5年間の平均	1977/88	1988/89
エントレ・リオス	158.2	194.7	222.0	256.2
コリエンテス	156.7	161.0	145.0	201.5
サンタ・フェ	21.9	21.8	22.0	20.3
その他	21.2	22.3	25.4	21.9
計	357.8	400.0	415.0	499.9
作付面積 /1000ha	107.3	111.8	101.7	115.5
収穫面積 /1000ha	98.5	104.7	90.0	104.7

出所：J.N.Q.

表 B-79 米：州別単収

州 別	過去10年間の平均	過去5年間の平均	1977/88	1988/89
エントレ・リオス	4.572	4.225	3.574	4.877
コリエンテス	3.313	3.347	2.900	4.798
サンタ・フェ	2.646	2.622	2.014	3.076
全国平均	3.632	3.812	3.150	4.671

出所：J.N.Q.

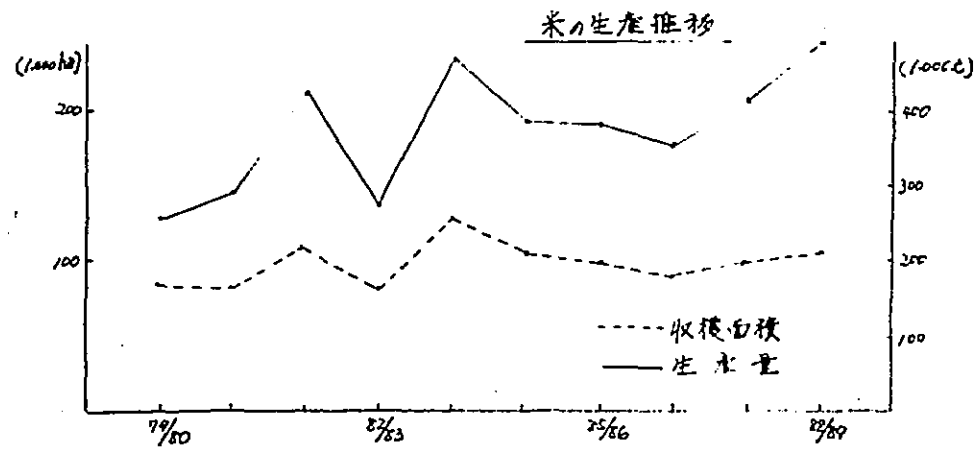


表 B-80 米：国内の生産地帯（1988/89）

州	作付面積 1000ha	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単収 t/ha
エントレ・リオス	54.8	47.4	236.3	4.922
コリエンテス	46.0	42.0	201.5	4.798
サンタ・フェ	6.7	6.7	20.3	3.030
フォルモサ	4.0	4.0	19.2	4.800
ミシオン・ネス	2.5	2.5	8.0	3.200
チャコ	1.3	1.3	4.7	3.615
全国計	115.3	104.7	490.0	4.671

出所：JNG

アルゼンチンにおける米作は、一般に8月に整地が開始され、降雨が順調の場合、エントレ・リオス州にかいでは、とくに大型の農場において9月より播種が開始される。又、フォルモサ、コリエンテス、サンタ・フェ及びミシオン・ネス州では10月に播種を開始し、11月に終了する。88/89農年の場合は乾燥がひどく、川の水量が減少したためかんがい用水の不足がみられた。

収穫は、3月に開始され、4月より5月にかけて終了する。作付面積に対する収穫面積の比率すなわち収穫率は可成り高く、乾燥の被害を受けた88/89農年でも90.8%であった。

全国生産量は、過去10年間の平均で357.8千トン、88/89農年は、490.0千トンであった。

ロ. 国際市場とアルゼンチンの輸出

FAOのデータによる世界の栽培面積と生産量及び単収は、次表の通りである。世界の生産量に占める南米大陸の割合は、88年度を例にとると3.5%と小さく、この中ブラジルが約70%を占めているだけにアルゼンチンのシェアは極めて小さなおもである。但し生産性では水田を主体とするアルゼンチンの平均単収は、比較的高く南米諸国でもっとも高い水準にあり、世界的にも高レベルの国に含まれている。

表 B-81 米：世界の栽培面積と生産量

大陸&国別	栽培面積 1,000ha				生産量 1,000t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
アジア								
中国	32.6	32.8	32.7	32.5	171.4	174.8	176.9	173.4
インド	40.9	40.8	39.0	41.0	96.3	90.7	84.6	101.9
インドネシア	9.9	10.0	9.9	9.9	39.0	39.7	40.1	41.6
バングラデシュ	10.4	10.6	10.6	10.0	22.5	23.1	23.1	21.9
タイ	9.8	9.2	9.1	7.6	20.3	18.9	18.0	20.5
ベトナム	5.7	5.7	5.6	5.6	15.3	16.0	15.1	15.4
ビルマ	4.7	4.7	4.6	4.7	14.2	14.1	13.7	14.1
日本	2.3	2.3	2.1	2.1	14.2	14.6	13.3	12.5
その他								
計	129.9	129.6	126.7	128.9	425.1	433.3	425.2	442.7
南米								
ブラジル	4.8	5.6	6.0	5.9	9.7	10.4	10.4	11.8
コロンビア	0.4	0.3	0.4	0.4	1.0	1.5	1.9	1.8
その他								
計	6.2	6.9	7.4	7.4	14.0	15.2	15.9	16.9
アフリカ								
エジプト	0.4	0.4	0.4	0.5	2.2	2.4	2.3	2.2
マダガスカル	1.2	1.2	1.2	1.2	2.2	2.2	2.3	2.1
その他								
計	5.3	5.4	5.6	5.6	7.5	7.9	10.1	9.8
北中米								
米	1.0	1.0	0.9	1.2	6.1	6.0	5.9	7.2
その他								
計	1.8	1.7	1.6	1.9	8.8	8.4	8.1	9.6
ヨーロッパ								
イタリー	0.2	0.2	0.2	0.2	1.1	1.1	1.0	1.1
その他								
計	0.4	0.4	0.4	0.4	2.2	2.3	2.2	2.3
ソ連	0.7	0.6	0.6	0.7	2.6	2.6	3.7	2.9
その他	0.1	0.1	0.2	0.1	0.7	0.8	0.6	0.7
世界計	144.4	144.7	142.5	144.9	475.5	472.5	464.8	484.9

出所：FAO

表 B-82 米：世界の単収

大陸&国別	1985	1986	1987	1988
大陸別				
アジア	6.267	6.149	5.771	6.208
南米	5.525	5.510	5.175	5.298
北中米	4.727	5.096	5.014	5.170
ソ連	3.835	4.245	4.088	4.374
アジア	3.350	3.342	3.357	3.436
南米	2.319	2.214	2.147	2.290
アフリカ	1.801	1.806	1.809	1.749
国別				
北朝鮮	6.905	6.977	7.086	7.175
韓国	6.350	6.367	6.017	6.667
日本	6.065	6.334	6.234	6.154
日本	6.225	6.322	6.190	5.863

中国	5.252	5.329	5.413	5.334
インドネシア	5.941	5.757	5.550	4.889
インドネシア	4.658	4.680	4.844	4.563
インドネシア	3.835	4.245	4.088	4.374
インドネシア	3.742	3.777	4.037	4.183
アルゼンチン	3.610	3.585	3.705	4.163
世界平均	3.279	3.265	3.263	3.348

出所: FAO

世界の貿易量は、輸出入とも年間13百万トン前後で推移してきたが88年は、主要輸入市場のアジア諸国に於ける輸入の減少から大中は貿易量の減少が観察される。

表 B-83 米: 世界の輸出入 (100万トン)

区分	1985	1986	1987	1988
輸出				
イラン	4.1	4.5	4.7	4.1
米	1.9	2.4	2.0	0.5
パキスタン	0.7	1.1	1.2	0.3
中国	1.0	1.1	1.2	0.2
イタリー	0.7	0.7	0.6	0.1
ブルガリア	0.2	0.2	0.2	-
ビルマ	0.5	0.5	-	-
その他	2.2	2.6	2.3	0.7
計	11.3	13.2	13.0	7.9
輸入				
アジア諸国	5.6	4.1	4.7	0.9
(イラン)	(0.5)	(0.5)	(0.7)	(0.2)
(アラブ諸国)	(0.4)	(0.4)	(0.2)	(0.1)
(香港)	(0.4)	(0.4)	(0.4)	(0.1)
アフリカ諸国	2.0	2.4	2.1	0.7
ヨーロッパ諸国	2.2	2.0	1.9	0.5
ソ連	0.3	0.5	0.6	0.1
その他	1.4	4.1	1.0	0.9
計	12.4	12.5	11.3	2.5

出所: FAO

アルゼンチンの輸出は、80年代の中期には年間66.7千トンに達したことがあるが、その後は減少を続け88年にかつての11.5千トン程度に止まっている。アルゼンチン米の輸出先市場は、従来EC圏を主要市場としていたが、最近輸入を減少させたことにより、これに代ってイランが大型の輸入市場となっている。

表 B-84 米: 輸出価格

年度	重量 1000kg	金額 100万ドル	平均単価 100kg
1979	37.6	7.4	209
80	5.6	22.2	
81	45.8	27.4	597

82	28.1	15.5	222
83	25.1	23.3	127
84	66.7	17.4	291
85	44.5	}	*
86	19.9		
87	29.5		
88	11.5		

出所: JNG. * 7-9-15V

表 B-85- 米: 輸出先国

輸出先国	1985	1986	1987	1988	1989
イラン	41.1	24.5	-	29.5	0
オランダ	11.8	5.8	-	-	1.0
ベルギー	-	-	10.9	-	-
ポルトガル	11.9	12.2	9.0	-	-
イタリア	-	0.9	0	0	3.8
フランス	0.1	-	-	-	2.5
ベルギー	1.7	1.0	-	-	-
その他	0.1	0.1	-	-	4.2
計	66.7	44.5	19.9	29.5	11.5

出所: JNG.

2.2 油脂原料作物

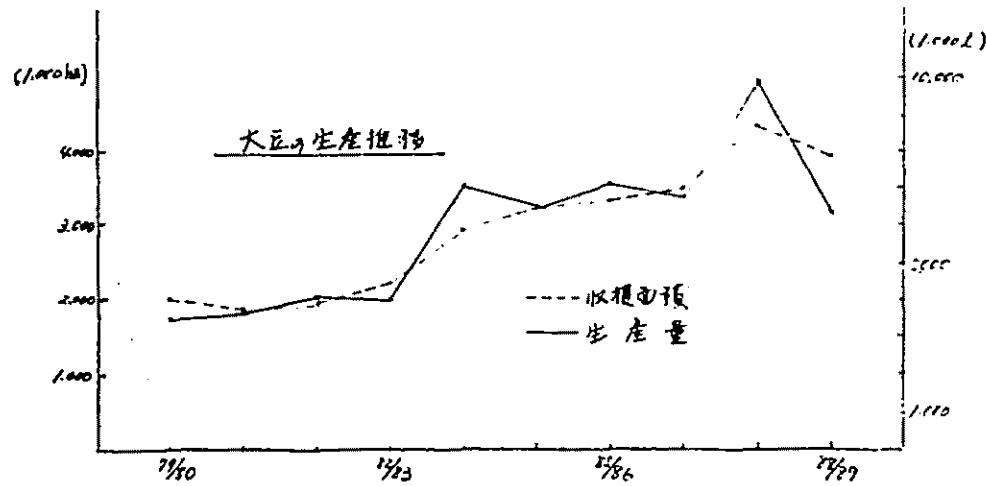
2.2.1 大豆

1) 生産

表 B-86 大豆：生産推移

年度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	収穫率(%)	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1977/80	2,100.0	2,030.0	96.30	3,500.0	1,724
80/81	1,925.0	1,880.0	97.70	3,770.0	2,005
81/82	2,040.0	1,985.6	97.30	4,100.0	2,090
82/83	2,362.0	2,280.7	96.60	4,000.0	1,754
83/84	2,920.0	2,910.0	99.70	5,000.0	2,405
84/85	3,300.0	3,267.0	99.10	6,500.0	1,988
85/86	3,340.0	3,316.0	99.30	7,100.0	2,141
86/87	3,700.0	3,533.0	95.50	6,700.0	1,896
87/88	4,413.0	4,373.2	99.10	7,900.0	2,264
88/89	4,630.0	3,903.1	84.30	6,250.0	1,601

出所：J.N.G.



穀物生産の全般的に減少傾向に対し、大豆の生産は 80 年代を通じて増加傾向にある。

この作付面積は、80 年代当初の 200 万ヘクタールより 80 年代末には 460 万ヘクタールへと三倍以上の増加をみせており、これに伴う生産量も当初の 350 万トンより 1 千万トン近くへと増進している。

国内の生産地帯は、ハロンベ平原を構成する サンター、マエノス、アラス、カコルト、ハノイ 3 州に集中し、過去 10 年間の平均値においてこの 3 州だけで全国生産量の 92% を占めている。作付面積に対する収穫面積の比率は高く、もっとも低い年(88/89 農年)で 84.30%、高い年は 99.70% (83/84 農年)に及ぶほど 100% 近い収穫が行われている。

1 ヘクタールの単収は、83/84 農年に 80 年代の最高 (2,405 kg/ha) を記録し、もっとも低い年 (88/89 農年)で 1,601 kg/ha である。生産州別では、ハロンベ 3 州が 1 年平均して 2,105 ~

2/50kgの収量をあげておるのに対し、他の地域は1776kgと低く、大豆栽培の適性に欠けることを示している。

表 5-27 大豆：州別生産推定 (1,000t)

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
サンタ・フェ	2,418.4	3,020.8	4,000.0	2,230.0
ブエノス・アイレス	1,334.5	1,833.6	2,150.0	2,050.0
コルドバ	1,460.0	2,088.7	2,950.0	1,560.0
その他	419.1	496.9	880.0	410.0
計	5,632.0	7,440.0	9,980.0	6,250.0

耕作面積 (1,000ha)	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
耕作面積	2,774.0	3,534.6	4,413.0	4,630.0
収穫面積	2,717.7	3,480.2	4,373.2	3,953.1

出所：BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 5-28 大豆：州別単収 (kg/ha)

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
サンタ・フェ	2,167	2,223	2,264	1,603
ブエノス・アイレス	2,057	2,177	2,185	1,878
コルドバ	2,035	2,025	2,276	1,350
その他	1,776	1,827	1,776	1,480
平均	2,072	2,138	2,264	1,601

出所：BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

88/89農年の生産状況についてみると、サンチャゴ・デル・エステロやツクマン州など北部地方では7-8月期圃場の整地作業が開始されたが、大豆作への関心は強く、栽培適地の借地契約が増加し、耕作面積を過去最大の規模に拡大した。

このように大豆栽培の拡大がみられるものの88/89農年は他の作物の場合と同様に悪条件の下にあり、乾燥が9月に及んだため整地を困難とし10月も又降雨不足のため、整地作業を中断するところが多かった。10月下旬になってようやく降雨があり、11月始めに播種が可能とされたが、水分は依然として不足し、高温が続いたため、播種条件は最悪の状態にかかり、単収を秀す原因を作った。

本格的な降雨は非常に遅く、12月に到来したが、これによりツクマンやサンチャゴ・デル・エステロ地方の全般にわたる播種が行われた。しかし部分には乾燥のため播種を放棄する地方も多く、80年代最低の収穫率を記録する原因を作った。

88/89農年の全国生産分布は、次表に示す通りで過去10年平均の場合と同様にサンタ・フェ、ブエノス・アイレス及びコルドバの栽培比率が高く、全国に対する割合は耕作面積に比べて79%

収穫面積で 93 % 生産量でも 93 % を占めた。

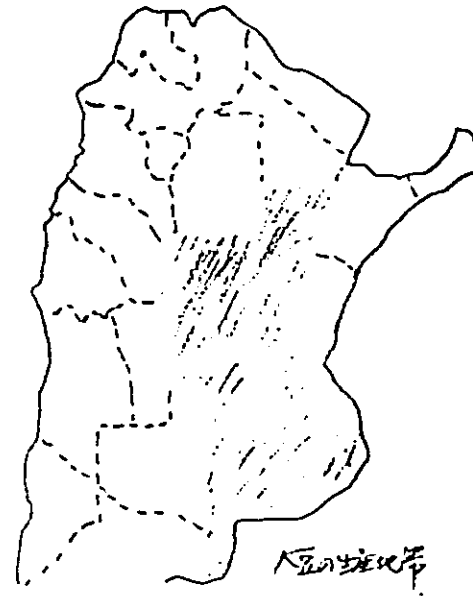
表 B-89 大豆：州別生産実績(1987/89)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サンタフェ	1,228.0	1,371.0	2,230.0	1,603
アエリス・タレス	1,100.0	1,080.0	2,050.0	1,898
コルトバ	1,395.0	1,156.0	1,560.0	1,349
チリコ	60.0	60.0	100.0	1,667
チルタ	80.0	90.0	60.0	1,550
チリコ	24.0	24.0	55.0	2,292
エントレ・rios	48.0	40.0	53.0	1,325
チリコ・タレス	44.5	35.2	35.0	994
ツクマレ	35.0	20.0	20.0	1,000
コリエンテス	10.0	10.0	20.0	2,000
カタマルカ	6.0	4.0	3.6	900
その他	51.5	42.9	61.4	1,431
全国計	4,630.0	3,703.1	6,250.0	1,661

出所：JMG.

栽培期間を通じた悪条件のため、88/89 農年における 全国生産量は 625 万トンに止まり、前年に達

した史上最大の記録、990 万トンの 60% 程度に落ちた。過去 10 年の平均と比較すると 11% 上昇しているが、主要生産地帯の中ではコルトバ州、チリコ州における前年比 (-) 47.1% の減産が大きくサンタフェ州も (-) 44.2% の減少、主要三州の中ではアエリス・タレス州のみが前年比 (-) 46% の生産減に止まったため、全国生産の更に大中の減少を喰い止めた形となっている。



目. 国際市場とアルゼンチンの輸出

表 B-90 大豆：世界の栽培面積と生産量

大陸・国別	面積 1000ha				生産量 1000t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
北、中米								
米 国	24.9	23.6	23.1	23.2	57.1	52.8	52.3	41.9
カナダ	0.6	0.4	0.5	0.5	1.1	0.9	1.3	1.2
その他	0.5	0.4	0.4	0.4	0.9	0.8	0.9	0.4
計	25.8	24.4	24.0	24.1	59.1	54.5	54.5	43.5

南米								
ブラジル	10.2	9.2	9.1	10.5	13.3	13.3	17.0	18.1
アルゼンチン	3.3	3.3	2.5	4.4	6.5	7.1	7.0	9.8
パラグアイ	0.7	0.5	0.7	0.6	1.2	0.7	1.0	1.1
その他	0.1	0.2	0.3	0.3	1.2	0.4	0.5	0.5
計	14.3	13.2	13.6	15.8	26.2	21.5	25.5	29.5
アジア								
中国	7.7	8.3	8.5	8.5	10.5	11.6	12.2	10.9
インドネシア	0.9	1.3	1.1	1.1	0.9	1.2	1.2	1.3
インド	1.3	1.5	1.7	1.7	1.0	0.9	1.0	1.4
その他	1.2	1.2	1.3	1.5	1.5	1.7	1.7	1.9
計	11.1	12.3	12.6	12.8	13.9	15.4	16.1	15.5
ヨーロッパ								
ヨーロッパ	0.6	0.8	1.1	1.0	0.9	1.7	2.6	2.3
オセアニア								
オセアニア	0.7	0.7	0.8	0.8	0.5	0.7	0.7	0.8
その他								
その他	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.7	0.4	0.5
計	53.1	51.9	52.5	55.0	101.1	94.4	97.8	92.1

出所: FAO

表 B-91 大豆: 世界の単収

大陸&国別	1985	1986	1987	1988
大陸別				
ヨーロッパ	1.443	2.237	2.392	2.214
南米	1.833	1.625	1.876	1.870
北中米	2.288	2.236	2.267	1.802
アジア	1.253	1.253	1.281	1.215
アフリカ	1.016	482	498	1.058
オセアニア	621	444	409	950
国別				
アルゼンチン	1.988	2.141	1.974	2.242
カナダ	2.266	2.500	2.754	2.147
コロンビア	1.926	2.141	1.969	1.825
フランス	1.800	1.800	1.800	1.860
米国	2.292	2.238	2.270	1.803
パラグアイ	1.630	1.228	1.516	1.789
ブラジル	1.800	1.452	1.859	1.718
世界平均	1.906	1.818	1.902	1.675

出所: FAO

世界の大豆栽培は、面積にかんがえて52-55百万ヘクタール、生産量は72-101百万トンが最近の規模とされている。大陸別では北米の生産が大よ、南米大陸はこれに続いている。この両者に占める生産量は世界生産の80%~90%を占めている。国別では米国の生産が最も大きく、最も低い年で世界生産量の45%、高い年には55%以上を占める。

大豆(豆)

88/89農年における世界の大豆生産は特殊な気象条件下にあつたため主要生産国間に大きな変動がみられた。一方の米国とアルゼンチンが極度の乾燥に付てその生産量が前年比(-)19%及び(-)33%と大中に減少したのに対し、天候に恵まれたブラジルは、前年を27%増加する23百万トンの史上最大の収穫をあげた。ブラジルにおける大豆生産の拡大は従来のほとんど利用されていなかった中央高原のセラト地帯における生産が増加したことも、有利作物として地の作物とくに大豆価格が支配したと見られる。しかし、このように大量の収穫を行ったブラジルも急激なレート平常化の逆送や輸送コストの高騰などの問題が続き、生産物の販売に大きな支障を来してこれが次年度への作付減少の理由となった。

USDA(米国農務省)の発表によると1989年における世界の大豆生産量は95百万トンで前年に達した103.33百万トンを大中に減少したが工業用原料消費が(-)5.27%減つたこと量も81.05百万トンに押されたことから期末在庫の減少率は僅か3%にとどまった。(USDA)の推定による88/89農年の期末在庫は、18.12百万トン、又ストックと工業加工量との割合は、22%であった。

世界の生産国の中でブラジルと並んで生産を伸ばした国はインド、インドネシア、パラグアイがあげられている。

大豆(豆)の世界貿易は、輸出が23.18百万トンで前年の29.03百万トンに対して(-)18.4%の減少をみられた。これも米国とアルゼンチンにおける輸出余力が大中に減少に転じたことが原因で、ブラジルの輸出増加もこれを相殺することになった。

表 B-92 大豆：世界の動向 (単位：1000トン)

区分	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90
生産					
米国	57.11	52.80	52.33	42.12	52.70
ブラジル	14.10	17.30	18.02	23.00	20.50
中国	10.51	11.61	12.43	11.30	11.31
アルゼンチン	7.30	7.00	9.70	6.60	10.50
パラグアイ	0.60	0.95	1.10	1.40	1.40
その他の地	7.41	8.35	9.75	10.23	11.51
計	97.03	98.01	103.33	95.00	107.91
輸出					
米国	20.16	20.60	21.83	14.42	15.65
ブラジル	1.19	3.29	2.71	4.74	4.50
アルゼンチン	2.54	1.33	2.09	0.44	2.50
パラグアイ	0.48	1.08	1.28	1.62	1.30
中国	1.26	1.75	1.48	1.20	1.10
その他の地	0.44	0.49	0.66	0.76	0.69
計	26.07	28.54	30.05	23.18	25.74

輸入						
日本	13.22	14.42	13.57	11.33	12.46	
台湾	4.80	4.87	4.85	4.29	4.40	
韓国	1.59	2.01	2.12	1.85	1.93	
メキシコ	1.01	1.01	1.10	1.02	1.09	
ソ連	1.00	1.09	0.95	1.25	1.00	
インドネシア	2.24	1.48	1.41	0.95	0.95	
ルーマニア	0.50	0.54	0.56	0.50	0.51	
ユーゴスラビア	0.38	0.32	0.65	0.40	0.45	
ブラジル	0.42	0.44	0.40	0.10	0.30	
その他の国	0.29	0.21	0.24	0.24	0.25	
その他	0.29	0.29	0.47	0.06	-	
計	1.81	2.55	2.72	2.48	2.56	
計	27.55	29.23	29.03	24.27	25.70	
工業加工						
米	28.66	32.09	31.95	28.77	30.35	
ブラジル	12.46	14.48	12.95	14.35	16.50	
日本	12.80	13.49	12.97	11.13	12.38	
アルゼンチン	4.37	4.89	5.40	6.02	7.20	
中国	2.69	3.64	4.85	4.53	9.53	
日本	3.91	3.82	3.80	3.50	3.60	
台湾	1.38	1.65	1.70	1.65	1.78	
メキシコ	1.73	1.70	1.70	1.55	1.75	
ソ連	2.47	1.97	1.93	1.43	1.36	
東欧	1.28	1.44	1.34	0.94	1.30	
その他	5.68	6.31	6.65	2.17	7.93	
計	77.43	85.48	85.24	81.05	88.68	
期末在庫						
米	14.60	11.27	8.20	4.95	9.12	
ブラジル	4.43	3.03	4.51	7.10	5.26	
アルゼンチン	1.82	2.19	3.88	3.47	3.67	
その他	2.35	2.62	3.09	2.60	2.77	
計	23.20	19.71	19.70	18.12	20.82	

出所: USDA

表 B-93 大豆: 世界の輸出入 100トン

国別	1984	1985	1986	1987
輸出				
米	19.5	16.7	21.4	21.3
ブラジル	1.6	3.5	1.2	3.0
アルゼンチン	3.1	2.9	2.6	1.3
中国	0.2	1.1	1.4	1.7
その他	0.8	1.1	1.0	1.5
計	25.8	25.5	27.6	28.8
輸入				
日本	4.5	4.9	4.8	4.8
オランダ	2.8	3.0	2.7	3.6
西独	2.9	2.9	3.1	3.3
スペイン	2.5	1.9	2.4	2.8
中国	1.3	1.5	2.0	2.2
ベルギー	1.4	1.4	1.4	1.5
韓国	0.7	0.9	1.0	1.1
メキシコ	1.3	1.5	0.8	1.1
イタリー	1.5	1.6	1.3	1.1
その他	6.1	6.2	7.2	8.2
計	24.6	25.2	27.3	29.7

出所: FAO

大豆 粕

世界の主要輸出国である米国及びアルゼンチンの乾燥により大豆粕の供給量が減少したこと
 め価格を押し上げたが、価格の上昇は又需要の減退を招くこととなり、世界の大豆粕消費量を前年よ
 り2.15百トン少ない65.37百トンに止めた。このように消費量は減少したものの生産量が
 前年より3.4百トン少ない64.14百トンであったため期末在庫は前年の3.63百トンより2.91百
 トンへと落ちた。

世界市場の中では、米国とEC圏における消費が減少したが、極東諸国、とくに中国とソ
 連の需要は、継続して増加した。

世界最大の大豆粕輸出国であるブラジルの輸出は前年と異に増加し2.7百トンに達した
 アルゼンチンも乾燥による原料生産の減少にかかわらず大豆粕輸出を48百トンに伸ばし米国に
 代って2位の輸出国となっている。この位の生産をアルゼンチンに譲った米国は大豆粕輸出
 を1.6百トン減少した4.63百トンに止めたが、その大半はEXPORT-PIK(輸出恩恵制度)にも
 とづくソ連への輸出であった。

世界の貿易量は大きな変化はなく25.5百トンの線が続いている。

表 B-94 大豆粕：世界の生産・消費 & 在庫

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
生産					
米 国	22.64	25.18	25.46	22.63	24.00
ブラジル	9.69	11.28	10.13	11.24	12.92
EC	10.22	10.74	10.37	8.90	7.90
アルゼンチン	3.49	3.87	4.29	4.85	5.76
中 国	2.19	3.00	3.96	3.68	3.68
日 本	3.04	2.97	2.97	2.73	2.23
台 湾	1.09	1.30	1.34	1.30	1.40
メキシコ	1.27	1.23	1.23	1.13	1.26
ソ 連	1.93	1.54	1.55	1.14	1.08
東ヨーロッパ その他	1.03	1.16	1.08	0.75	1.03
計	61.06	67.22	67.61	64.05	70.71
消費					
米 国	17.32	18.50	19.30	17.98	17.50
EC	18.73	19.24	17.78	16.30	17.69
ソ 連	2.41	4.44	4.55	5.14	5.58
日 本	3.21	3.19	3.37	3.36	3.30
ブラジル	2.41	3.01	2.34	2.23	2.90
メキシコ	1.35	1.29	1.40	1.51	1.45
東 欧 ポ-ランド	1.12	1.05	0.94	0.97	1.15
	0.75	1.02	1.00	1.00	1.00

台湾	1.07	1.28	1.30	1.37	1.40
その他	13.42	14.65	13.36	14.92	16.42
計	61.79	67.67	67.56	65.18	70.19
期末在庫					
米 国	0.19	0.22	0.14	0.16	0.23
ブラジル	0.61	0.52	0.77	0.69	0.46
アルゼンチン	0.13	0.33	0.25	0.27	0.38
その他	1.93	1.99	2.27	1.57	1.54
計	2.86	3.06	3.43	2.69	2.61

出所: USDA * 89/90年は1-11月分

表 B-95 大豆粕: 世界の輸出入

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
輸出					
ブラジル	7.38	8.37	7.35	8.68	10.25
アルゼンチン	3.16	3.47	4.10	4.20	5.35
米 国	5.48	6.66	6.23	4.63	4.63
EC	5.08	5.08	4.32	3.76	4.37
中 国	1.12	1.54	2.34	1.70	1.80
その他	0.72	0.84	0.80	1.22	1.34
計	23.14	25.96	25.14	25.26	27.74
輸入					
EC	13.79	13.60	12.15	11.00	12.17
ソ 連	0.48	2.90	3.00	4.00	4.50
東 欧	3.68	3.90	3.71	3.67	3.28
アラブ諸国	1.68	1.86	2.27	2.11	2.28
アジア諸国	1.68	1.62	1.77	1.94	2.03
ラテンアメリカ	1.26	1.34	1.42	1.40	1.42
その他	1.37	1.33	1.44	1.31	1.40
計	23.95	26.61	25.66	25.43	27.68

出所: USDA * 89/90年は1-11月分

大豆油

米国における原料生産の減少による採油量の減少、EC圏における価格の上昇にもとづく販売マージンの減少が世界の大豆油生産量を需要量以下に落す理由とされた。

1988/89農年における世界の大豆生産量は、14.55百万トン、前年の15.27百万トンに劣っているが、これは最大の消費国インドの買付け減少（前年の420千トンより50千トンへの減少）にもとづくもので、世界の貿易量を3.55百万トンに止めた。

世界の輸出国の中ではEC圏が1.01百万トンで最大の輸出量を記録しているが、単一の国としてアルゼンチンの930千トンがもっとも大きく、前年の770千トンに再び上昇する輸出行を行っている。

大豆油の国際市場では米国のEXPORT PICに対するブラジルの強い抗議があった。

表 B-96 大豆油：世界の生産、消費及び在庫 100トン

国別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
生産					
米国	5.27	5.80	5.89	5.32	5.56
ブラジル	2.35	2.73	2.44	2.70	3.10
EC	2.25	2.36	2.29	1.94	2.17
アルゼンチン	0.73	0.83	0.93	1.03	1.23
日本	0.71	0.71	0.70	0.65	0.67
メキシコ	0.31	0.31	0.31	0.28	0.32
その他	2.23	2.46	2.72	2.62	2.79
計	13.85	15.20	15.24	14.54	15.84
消費					
米国	4.56	4.92	4.76	4.83	4.99
ブラジル	1.94	1.93	1.93	2.13	2.20
EC	1.38	1.46	1.54	1.47	1.57
中国	0.50	0.96	0.86	1.00	0.98
日本	0.70	0.71	0.69	0.67	0.67
その他	4.42	4.71	5.11	5.13	5.39
計	13.50	14.77	15.07	15.23	15.80
期末在庫					
米国	0.43	0.78	0.95	0.78	0.70
ブラジル	0.32	0.28	0.25	0.17	0.15
アルゼンチン	0.10	0.12	0.11	0.08	0.16
その他	0.80	0.81	0.85	0.67	0.72
計	1.65	1.99	2.16	1.70	1.73

出所：USDA * 1989/90年11月

表 B-97 大豆油：世界の輸出入 100トン

国別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90 *
輸出					
米国	0.57	0.54	0.85	0.73	0.66
ブラジル	0.45	0.95	0.61	0.70	0.95
アルゼンチン	0.64	0.73	0.84	0.88	1.03
EC	1.39	1.44	1.23	1.04	1.10
その他	0.10	0.24	0.27	0.21	0.24
計	3.15	3.90	3.80	3.56	3.98
輸入					
EC	0.51	0.53	0.50	0.50	0.52
パキスタン	0.32	0.19	0.40	0.48	0.50
イラン	0.33	0.42	0.41	0.43	0.44
ソ連	0.11	0.22	0.12	0.15	0.20
インド	0.26	0.36	0.42	0.05	0.10
その他	1.56	2.08	1.94	2.17	2.21
計	3.09	3.80	3.79	3.78	3.97

出所：USDA * 1989/90年11月

アルゼンチンの大豆(豆)輸出は80年代を通じて不規則に行われ、輸出量の上下を繰返して来た。84/85年に達した2.98百トンを最高として以後、国内加工材の原料としての輸出量は減少を続ける。しかしその輸出規模は米国とブラジルに次ぐ世界第3位の位置を交えて

いはい。

大豆(豆)の輸出先市場としては オランダ 至 圧倒的に大きく この54年向も毎年最大の市場として
 続いており。そのシェアは 1988年にかゝり 49.8% 87年が 54.3% である。これに続いてイタリ
 の輸入が 大きく 88年にかゝり 17.6% を占めている。ノルウェーも 80年代中期までは大型の輸入国であ
 り 88年以降輸入を中止してあり。西独、ポルトガルも輸入減少の傾向にある。

表 B-98 大豆：輸出先国別実績 1,000t

輸出先国	1985	1986	1987	1988	1989
オランダ	343.1	633.8	410.4	1,043.4	233.1
イタリー	311.2	314.4	77.7	568.4	57.5
ポルトガル	223.3	244.5	23.2	174.7	-
西独	278.7	367.2	20.2	133.0	55.2
ギリシャ	41.3	56.1	13.8	86.4	25.1
ユーゴスラビア	-	53.6	-	74.3	-
マレー半島	37.8	10.6	-	52.7	-
ノルウェー	51.9	85.3	24.5	22.0	-
ソ連	453.8	-	636.4	-	5.0
メキシコ	296.5	46.5	-	-	-
スペイン	119.2	230.1	-	-	-
ベルギー	56.1	257.0	25.0	-	72.0
フランス	61.8	-	-	-	-
ルーマニア	84.9	137.2	-	-	-
日本	31.6	7.4	-	-	30.0
中国	-	102.9	-	-	-
その他	75.0	62.0	-	102.0	-
計	2,986.2	2,604.5	1,292.0	2,016.3	429.6

出所：J.N.G.

大豆副産物の中大豆粕の輸出は、80年代を通じて増加があるが、特に80年代後半は国内に
 ける採油加工の増加に伴って急増しており、88年度にかゝり 450万トンの輸出量に達している。

輸出先市場としては 1986年が オランダを最大の市場とし、87年以降はノルウェーの輸入が
 増加しており、88年にかゝり アルゼンチン輸出の 41.3% が 同国に向けられている。これに続いてオ
 ランダ、ベルギー、イタリー、西独等 EC圏への輸出が 大半のシェアを占めている。

表 B-99 大豆粕の国別・年度別輸出実績 1,000t

輸出先国	1985	1986	1987	1988
ソ連	-	163.2	991.3	1,862.9
オランダ	896.4	1,115.4	818.8	763.3
ベルギー	251.3	318.9	525.4	357.4
イタリー	163.3	167.5	137.8	203.7
西独	44.3	211.3	221.2	212.8
ブルガリア	286.1	206.5	244.0	224.2
キューバ	163.5	173.5	127.8	166.0

フランス	-	-	50.4	106.4
チコスロバキ	236.1	265.9	356.9	80.3
スペイン	100.0	117.1	65.1	78.7
キューバ	55.6	23.5	36.9	56.0
その他	155.4	450.4	182.9	201.4
計	2,352.0	3,275.2	3,622.5	4,521.1

出所: J.N.G.

大豆油の輸出も増加傾向にあり、85年の524千トンに対し88年には900千トン近くへと伸びた。輸出先市場としては、イラン、米国、中国、インド等が大きく、最近ではホルールの輸入も増加傾向にある。ブラジルもアルゼンチンとともに大きな市場の一つであるが、ブラジルの輸入は国内消費用ではなく、再輸出を目的とした原料輸入の形式で行なわれている。国内の遊休施設を利用して輸出を伸ばすための恩恵制度(draw-back)にもとづく輸入である。

表 8-100 大豆油：輸出先別実績 1,000t

輸出先国	1985	1986	1987	1988
米 国	2.7	26.7	34.7	130.0
イ ラ ン	184.2	138.3	142.5	97.0
中 国	-	39.6	119.3	84.1
ハ ル ー	16.9	52.5	62.9	76.9
イ ン ド	17.0	67.2	83.0	57.1
ソ 連	26.9	39.4	68.9	44.6
コロンビア	37.8	58.6	39.0	43.5
ブラジル	99.1	93.6	41.9	41.5
南アフリカ連邦	4.1	3.9	6.8	32.7
ハンガリー	19.0	11.8	-	32.0
その他	-	-	-	26.5
トルコ	9.2	7.1	-	24.4
オランダ	1.0	-	-	18.5
パナマ	4.9	10.7	14.7	4.9
ギリシア	1.6	26.5	30.3	8.2
その他	92.3	93.2	61.4	174.8
計	524.7	662.1	724.5	896.7

出所: J.N.G.

1) 価格

米国の主要生産地帯における乾燥による被害のあと、大豆の国際相場は高騰し、アルゼンチンの88/89農年作を刺激した。しかしながら米国に続いてアルゼンチンも又乾燥の被害を受けると、良好な国際相場を利用する好機は失われた。

このようにアルゼンチンの88/89農年収穫量は前年に比して大巾な減少を招くことになるが、供給量の減少は、これを原料とする榨油工場の買付けを促し、国内相場を押し

しあけ、とくに収穫開始直前の2-3月には、在庫が払底したため大豆、大豆粕、大豆油ともに大巾な値上りが記録されている。

その後 88/89年度の収穫開始により、大豆の国内価格は5月を頂英として以後下降し、副産物の大豆粕及び大豆油もこの傾向に平行して値動きがあった。

一方、国際市場では米国の乾燥を反映したブエノス・アイレス FOB 価格は、87年の年間平均トントン当り 198 トルより 89年は 273トルへと 35% の高騰をみせ、この間 88年6月に 328トルの最高を記録 9月まで 300トル台が継続した。以後 88年後半の北半球における収穫、89年上半期の南半球の収穫開始に伴い価格は下降し、89年8月にいったん 200トル台へと戻っている。

89年の国際価格下降に影響を受けた理由としては、ブラジルの港湾ストの終結による船積みの平常化、米国とブラジルのとの積極的な販売競争が加えられる。又国内的には輸出インセンティブ不在のため輸出用ストックを国内市場に放出したのも価格に影響を与えている。

表 B-101 大豆：国内市場価格

1987年10月28日までの実績価格 (単位: トン/ト)

月別	価格 A	変動率 (%)
1987年		
8月	11,283	-5.56
9月	13,297	-6.91
10月	12,697	-4.51
11月	12,104	-4.67
12月	12,018	-0.71
1988年		
1月	12,646	5.23
2月	12,300	-2.74
3月	14,857	20.79
4月	15,510	4.39
5月	16,593	6.98
6月	14,786	-13.91
7月	8,938	-37.44
8月	8,590	-3.87
9月	8,118	-5.49
10月	8,330	2.61

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

大豆油：国内市場価格

表 B-102 1987年10月28日までの実績価格 (単位: トン/ト)

月別	価格 A	変動率 (%)
1988年		
8月	257,029	-10.74
9月	213,224	-17.04
10月	204,355	-4.16
11月	203,506	-0.42
12月	215,575	5.93
1989年		
1月	207,964	3.53
2月	215,131	-3.45
3月	273,643	27.20
4月	315,791	15.40
5月	309,230	4.07
6月	303,843	-1.46
7月	182,444	-43.65
8月	171,402	-6.05
9月	165,576	-3.41
10月	167,523	2.37

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-103 大豆粕：国内市場価格

1989年10月までの実績価格 (円/kg)

月別	価格 A.	変動率 (%)
1988年		
8月	145.477	-10.94
9月	156.093	7.28
10月	144.946	-7.14
11月	140.208	-3.27
12月	137.856	-1.62
1989年		
1月	137.473	-0.28
2月	139.835	1.72
3月	163.448	16.89
4月	157.784	-3.47
5月	172.977	9.63
6月	164.262	-5.04
7月	95.730	-41.72
8月	90.466	-5.50
9月	86.121	-4.25
10月	85.380	-0.85

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

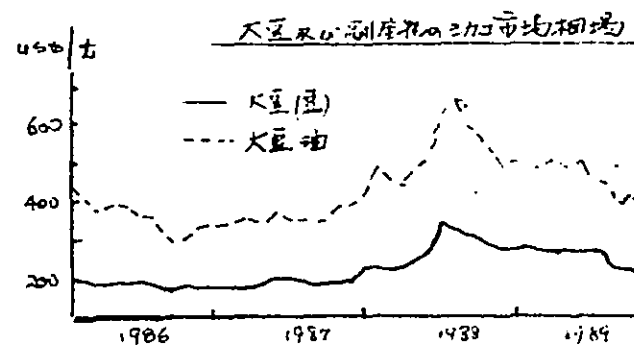
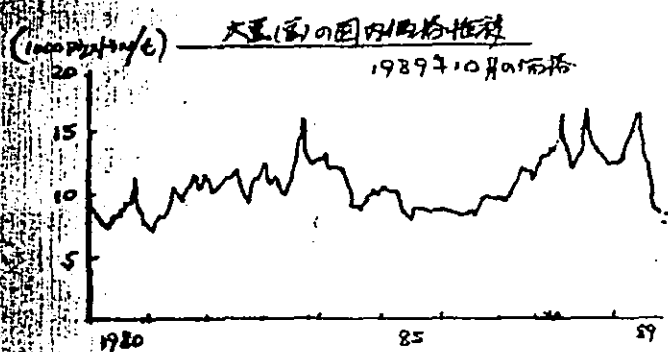
表 B-104

大豆：輸出価格

FOB. BUENOS AIRES US\$/c

月別	1985	1986	1987	1988	1989
1	210	203	175	226	278
2	205	194	175	223	269
3	204	190	171	221	275
4	209	187	183	237	262
5	197	190	204	253	262
6	196	188	211	328	259
7	203	186	211	317	244
8	203	186	205	313	213
9	203	194	207	314	X
10	202	179	211	287	X
11	202	181	207	276	X
12	203	176	218	280	X
平均	203	188	192	273	X

出所: J.N.G.



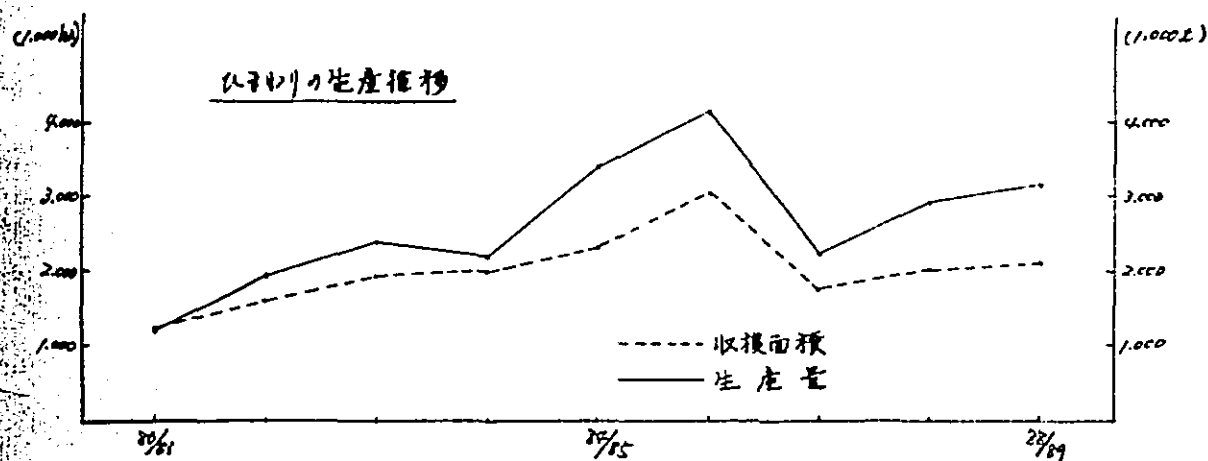
2.2.2 小麦作り

1) 生産

表 B-105 小麦作り：80年代の生産推移

年 度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1980/81	1,390.0	1,280.0	1,260.0	984
81/82	1,733.0	1,673.0	1,980.0	1,184
82/83	1,930.0	1,902.0	2,400.0	1,262
83/84	2,131.0	1,989.0	2,200.0	1,106
84/85	2,380.0	2,360.0	3,400.0	1,447
85/86	3,140.0	3,046.0	4,100.0	1,346
86/87	1,890.5	1,735.0	2,200.0	1,268
87/88	2,117.0	2,032.0	2,915.0	1,435
88/89	2,260.0	2,156.9	3,100.0	1,437

出所：BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES



80年代における小麦作りの生産は 85/86年に達した収穫面積 236万ヘクタール、生産量 410万トンを史上最大の記録としたこと、86/87年に大巾に下降したため 87/88年以降再び上昇カーブを続け、88/89年には史上第2位の生産量を記録している。

作付面積に対する収穫面積の割合は、他の作物と比べて高く殆んど1年が 90%を切るかに過ぎない。中でも 84/85年には 99.20%の高い比率が記録されている。

80年代を中心とした 10年間の平均をみると作付面積が 2,047千ha、その 94%の 1,943千haが収穫され、2353千トンの収穫が行われた。

州別の生産量としては ブエノス・アイレス州が最も大きく、10年間の平均で 1,443.8千トンの収穫を行って全国生産量の 61%を占める。これに続いて コルドバ、ラ・パンプ、サンタ・フェ等、パンパ平原地方の各州が主要生産地帯である。

過去10年間の平均単収は 1.211 kg/ha、このうち 84/85 農年に算入した 1.447 kg/ha と最も高
 れている。州別の平均単収も最大の差は、88/89 年には 14.7%、両州に
 対して 1.600 kg を超える高い記録が残っている。

表 B-106 代わり：州別生産推移

州別	過去10年間の平均	過去5年間の平均	1987/88	1988/89
ブエノスアイレス	1.443.8	1.786.8	1.670.0	1.780.0
ラ・パタゴニア	179.1	262.0	240.0	365.9
コルドバ	313.4	387.0	360.0	318.3
サンタフェ	198.5	245.0	260.0	280.0
その他	218.7	277.2	365.0	155.8
計	2.353.5	2.963.0	2.915.0	3.100.0

作付面積 1,000 ha	2,047.7	2,331.6	2,117.0	2,260.0
収穫面積 1,000 ha	1,943.0	2,232.4	2,032.0	2,156.0

出所：BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-107 代わり：州別単収

州別	過去10年間の平均	過去5年間の平均	1987/88	1988/89
ブエノスアイレス	1.246	1.326	1.380	1.500
ラ・パタゴニア	1.213	1.325	1.440	1.437
コルドバ	1.197	1.404	1.667	1.332
サンタフェ	1.204	1.423	1.656	1.400
その他	1.041	1.177	1.357	1.094
全国平均	1.211	1.327	1.435	1.437

出所：BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

88/89 農年の生産状況についてみると、前年に続いて作付面積、収穫面積及び生産量の回復が
 観察される。但し、単収は乾燥の被害により前年並みに出なかった。

慣例通りに播種は 8 月にサンタコ地方より開始される傾向がある。コルドバ州では 11 月に播
 種を終了する。88/89 農年の場合、早期に植付けられた地域は乾燥の被害を逃れたが小麦の
 あと作として植付けられた遅い播付け分の中、1-2 月に開花期を待ったものは、大きな被害を受け
 ている。

夏期の降雨は不十分で、一部に偏った平均で、このため同じ時期に植付けられたもので
 も生育に大きな差異があった。ブエノスアイレス州の場合を例にとると開花期が異なるものの地
 域があるが、この中、南部地方と西部地方は生育が良く、沿岸地方が順調な生育であった。

若し夏期中に乾燥がなく平均的な降雨があれば、平均単収はこれまでの記録を更新し
 生産も 85/86 年の 410 万トンをしのぐものと思われる。

88/89農年の栽培面積は、2,260千haと前年とを7%上廻り、これは過去5年平均の平均と対比すると(-)3.1%の減少、過去10年平均の場合には10.4%の増加となる。州別栽培面積の比率は、ブエノス・アイレス州が58.2%、ラ・パタゴニア州が12.2%、その他の州が2.1%である。収穫面積もほぼ同等の比率である。平均単収は、1,437kg/haで、全例的に510万トンの生産をあげた。州別生産シェアは、ブエノス・アイレス州63.9%、ラ・パタゴニア11.8%、その他の州10.3%、サングレ9.0%、その他5.0%の割合である。

表 B-108 州別：州別生産実績(88/89)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
ブエノス・アイレス	1,330.0	1,320.0	1,980.0	1,500
ラ・パタゴニア	289.0	254.6	365.9	1,437
コロンビア	265.0	237.0	318.3	1,332
サングレ	200.0	200.0	280.0	1,400
エントレ・リオス	61.0	55.0	72.6	1,229
チヤコ	60.0	47.8	48.2	1,008
サン・ルイス	42.0	34.0	33.8	944
サンタ・クルス	10.0	1.0	1.0	1,000
その他	3.0	1.5	1.2	800
計	2,260.0	2,159.6	3,100.0	1,437

出所：SECRETARIA DE AGRICULTURA Y GANADERIA

ロ) 国際市場とアルゼンチンの輸出

表 B-109 州別：世界の栽培面積と生産量

大陸・国別	面積 100万ha				生産量 100万t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
ヨーロッパ	4,077	3,848	4,156	4,272	5,260	5,272	6,075	6,200
フランス	989	939	1,044	803	1,514	1,869	2,659	2,438
ルーマニア	466	470	520	520	710	1,004	1,045	1,300
スペイン	989	939	987	903	915	872	975	1,140
ハンガリー	343	391	384	363	676	862	803	640
その他	270	643	839	822	969	1,480	1,528	1,328
計	3,057	3,422	3,774	3,511	4,784	6,089	7,030	6,846
アジア								
中国	1,474	1,107	887	1,060	1,733	1,504	1,241	1,425
トルコ	642	689	775	760	800	940	1,100	960
その他	751	1,198	1,350	1,991	554	675	763	762
計	3,067	2,994	3,012	3,811	3,087	3,119	3,104	3,347
南米								
アルゼンチン	2,360	2,046	1,735	1,990	3,400	4,340	2,250	2,860
その他	109	154	147	153	102	132	132	145
計	2,469	2,200	1,882	2,143	3,502	4,472	2,382	3,005
中北米								
アメリカ	1,151	791	718	731	1,430	1,214	1,183	756
その他	87	36	44	55	104	43	140	70

計	1,238	827	762	776	1,534	1,257	1,243	806
アフリカ								
南アフリカ連邦	310	323	383	462	235	265	404	506
その他	287	301	300	324	120	193	226	218
計	597	624	683	786	415	458	630	724
大洋州	354	277	193	171	292	215	187	178
世界計	14,859	15,192	14,462	15,485	12,374	20,728	20,601	21,106

出所: FAO

表 B-110 ひまわり: 世界の平均

大陸及び国別	1985	1986	1987	1988
大陸別				
ヨーロッパ	1.565	1.777	1.863	1.950
南米	1.418	1.377	1.266	1.420
ソ連	1.290	1.370	1.462	1.451
大洋州	825	776	710	1,041
中北米	1.239	1.520	1.631	1.025
国別				
フランス	2.369	2.084	2.547	2.583
ルーマニア	1.524	2.136	2.010	2.500
イタリア	1.704	2.452	2.128	2.276
チェコスロバキア	1.826	2.280	2.276	2.241
チリ	1.650	1.800	2.105	2.130
世界平均	1.270	1.378	1.424	1.363

出所: FAO

(ひまわり種子)

業界誌 OIL WORLD の情報によると 88/89 年度における世界の生産量は、20.56 百万トンで前年を 570 千トン減少する規模であった。これは米国と東ヨーロッパ及びインドの大幅な減産に由来するものであり、このほかポーランド、インド、イタリー及びフランスの減産も影響した。このためソ連及びアルゼンチンにおける増産も世界生産の減少傾向をカバーすることはできなかった。世界 1, 2 の生産量をもつソ連 (世界生産の 30%) とアルゼンチン (同 15.6%) の生産量は、それぞれ 6.15 百万トン及び 3.17 百万トンに達している。

原料生産の減少にかかわらず米国及び EC 圏のストックを採油原料として用いたことから次期ひまわり油の生産は、減少することなく前年のレベルを維持することが出来た。

主要生産国における採油の規模は、その原料生産量に応じて変化しているが、原料の大半は、自国の採油原料として用いられるため、種子などの貿易量は少なく、生産量の 10% 程度に止まる。

(ひまわり油)

88/89農年における世界のひまわり油供給量は前年の8.37百万トンに対し8.45百万トンとわずかな増加に止まった。生産量そのものは前年比20千トン減少したから期首に100千トンの在庫を有していたため供給量の大中の減少は避けられた。世界の生産量は、ソ連、アルゼンチン、トルコの増産が記録された。

世界のひまわり油需要は大豆油供給量の減少により継続して増加したがトルコ、エジプト、ソ連、米国及びEC圏における消費の増加が目立つた。これに対し、アルゼンチン、インド及び東ヨーロッパでは需要を減少した。

世界のひまわり油輸出量は、87/88年に準じて2.3百万トン（-）6.2%落ち2.19百万トンに止まった。主要輸出国の中では、アルゼンチンがその輸出量を減少しているものの依然として世界貿易の35%以上を占め、EC圏が33.7%のシェアでこれに続いている。

米国は前年において輸出増加国の先頭にあり、88/89年には大中に輸出量を減少し、世界貿易減少の原因を作った。前年に引き続きEXPORT-PIK（関税制度）を適用しているものの、その輸出量は、100,000トンに落ちた。その減少振りには、世界最大のものがあつた。

輸入面では大きな変化がみられ、EC圏、東ヨーロッパ及びメキシコであり、中でもメキシコの輸入は、172千トンへと急増した。

世界の在庫については、88/89年末に前年比（-）9.5%減少した732千トンに落ちたものと推定されている。これによりストックと消費量の関係は、88、87、86年のそれぞれ10.8%、9.8%及び12.3%に対し、88/89年は、9.5%へと下がっている。

(ひまわり粕)

世界のひまわり粕供給量は、世界採油量の推移に平行した。ただし国別には、かなりの変化がみられ、又 別による歩留りの違いから国別の生産推移に変化があつた。

88/89農年におけるひまわり粕の世界生産量は、前年比170千トン下回る8.67百万トンに落ちた。これに平行して世界の輸出量も前年比1.26百万トンの減少をみている。このような世界貿易の傾向にかかわらず、アルゼンチンは、前年比10千トン増加した1.09百万トンの輸出を行つた。その世界貿易に占めるシェアも60%に伸びている。

アルゼンチンは、ひまわり副産物(油及粕)の国内消費量は少ないが、国際貿易市場では、世界の主要輸出国の一つである。

最近数年間、全般的な傾向として、油脂原料作物の生産が増加しているが、ひまわりも大豆の場合と同様にその副産物輸出にみだりに増加があった。

表B-114に示される通り、ひまわり油の輸出先市場は極めて多様であり、中でもEC圏、トルコ、ソ連、チエコスロバキア等が主要市場としており、これらの地、ラテンアメリカ諸国も主要な市場である。

表 B-111 ひまわり：世界の需給

国 別	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90
生産					
ソ 連	5.26	5.26	6.08	6.16	6.50
アルゼンチン	2.10	2.50	2.80	2.90	4.00
フランス	1.48	1.90	2.51	2.33	1.84
中 国	1.73	1.54	1.24	1.34	1.35
米 国	1.43	1.09	1.24	1.34	1.35
トルコ	0.70	0.94	0.90	1.10	1.20
スペイン	0.99	0.92	1.01	1.12	1.00
その他	3.87	5.10	4.87	4.05	4.45
計	19.56	19.25	20.65	20.34	21.69
消費(工業加工)					
ソ 連	3.98	3.91	4.56	4.62	4.73
アルゼンチン	3.48	2.25	2.55	2.75	3.60
トルコ	0.67	0.91	0.87	1.06	1.16
フランス	0.59	0.72	0.80	0.97	1.15
中 国	1.23	1.19	0.87	0.94	0.96
スペイン	0.96	0.89	0.92	1.09	0.92
その他	5.80	6.61	6.14	6.42	6.64
計	16.71	16.44	16.71	17.85	19.16
在庫					
米 国	0.21	0.25	0.20	0.08	0.09
アルゼンチン	0.06	0.22	0.38	0.35	0.39
フランス	0.02	0.04	0.17	0.06	0.05
その他	0.17	0.29	0.22	0.23	0.17
計	0.46	0.80	0.97	0.72	0.70

出所: USDA

ひまわり粕の輸出は EC圏に集中しており、東ヨーロッパ諸国が二次的な市場となっている。

表 B-112 ひまわり(種子)：輸出実績

年 度	量 1,000t	金額 1,000ドル	平均単価 円/t
1980	2.5	896	358.4
81	1.2	482	401.7
82	24.6	7,187	292.2
83	22.0	5,892	267.8

84	3.0	750	250.0
85	146.1	50,712	347.1
86	378.6	*	*
87	524.4	*	*
88	48.1	*	*
89	54.8	*	*

出所: JMG

*7-9-15

表 B-113 ハチワリ(種子)の輸出先市場 1,000トン

国 別	1985	1986	1987	1988
メキシコ	260.4	234.6	38.2	11.7
アングラ	9.8	11.7	2.1	11.0
ブルガリア	0	55.5	-	31.0
ポルトガル	26.7	93.1	-	-
オランダ	10.5	73.4	2.6	-
その他	71.2	56.1	0.3	1.1
計	378.6	524.4	48.1	54.8

出所: JMG

表 B-114 ハチワリ油の輸出先市場 1,000トン

国 別	1985	1986	1987	1988
エジプト	147.4	153.4	101.1	222.4
メキシコ	5.1	15.0	2.6	77.1
キューバ	98.3	87.3	73.4	85.7
南アフリカ連邦	102.0	77.6	63.9	61.7
米 国	26.2	47.8	61.6	70.0
ソ 連	170.6	60.9	207.9	58.6
ベネズエラ	13.8	19.1	0	47.1
オランダ	139.7	149.1	26.1	39.9
アルゼンチン	11.5	116.3	27.9	10.8
イ ラ ン	25.0	43.7	14.0	-
ウルグアイ	10.8	3.7	2.6	3.7
ニカラグア	8.0	8.4	9.4	10.1
イ ン ド	0.5	-	-	36.2
その他	81.5	116.2	51.1	29.5
計	840.4	954.3	661.6	772.9

出所: JMG

表 B-115 ハチワリ粕の輸出先市場 1,000トン

国 別	1985	1986	1987	1988
オランダ	826.6	976.1	641.4	894.7
キューバ	59.4	77.6	127.9	105.9
フランス	61.5	88.8	53.2	55.9
西 独	88.3	20.5	40.4	29.7
ベルギー	45.7	55.5	11.1	11.7
デンマーク	29.7	5.9	26.6	22.7
ポルトガル	6.7	12.8	12.6	12.1
イタリ-	44.6	74.4	4.9	9.7
その他	28.4	89.6	29.2	12.4
計	1,190.9	1,403.2	947.9	1,154.8

出所: JMG

国際市場価格についてみると、大豆油及びハム・オイルの生産減少とそれに伴うハチマキ油供給量の停滞が価格に反映した。大豆油及びハム・オイルとの価格差は同じ、1987/88農年のロッテルダム市場相場でそれぞれトリスリ 6トル及び21トルであった価格差は 88/89年にいって40トル及び80トルへと開いた。

菜種油とハチマキ油との価格差の場合も 89年7月以降EC圏における菜種の大量生産以降、両者の価格は大きく開いており、87年12月から88年3月間の平均価格が30トルの差を付けていたのが88年10月以降は、85トルへと増加した。

1989年4月時点におけるロッテルダム市場のハチマキ油価格は5月～6月渡りもリマートン当り470トルであった。

国内市場については、世界の主要生産国の減産に好影響を環境にあつたこと、ハム・オイルの競争力が小さかつたこと、88/89農年におけるハチマキ油の取扱条件の向上こそ、国内市場価格を堅調に維持させる要素として作用した。国内的には収獲量の過去最大のものがあつたにもかかわらず政府の経済政策への不信から生産物の保蔵が過去最大の規模に達したため市場の供給量の不足、工場での買付けにはげしい競争があつた。

表 B-116 ハチマキ種子の国内市場価格 (A/ton)

月別	89年10月28日迄の価格	変動率 (%)
1988年 8月	14.173	- 3.10
9	13.505	- 4.70
10	11.182	- 17.20
11	9.619	- 13.98
12	9.632	0.14
1989年 1	8.843	- 8.20
2	8.742	- 1.13
3	10.484	19.52
4	11.584	10.49
5	13.470	16.28
6	14.336	6.43
7	8.624	- 37.84
8	8.821	2.28
9	8.234	- 6.65
10	9.000	9.30

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-117 ハチマキ油の国内市場価格 (A/ton)

月別	89年10月28日迄の買付価格	変動率 (%)
1988年 8月	310.500	- 14.28
9	284.962	- 8.22
10	260.903	- 8.44
11	242.872	- 6.91
12	250.902	4.13
1989年 1	225.344	- 10.90
2	225.226	- 0.05
3	292.962	30.07
4	354.019	20.84
5	345.143	- 2.51
6	332.202	- 3.75
7	199.635	- 37.91
8	207.964	4.17
9	199.162	- 4.23
10	206.952	3.91

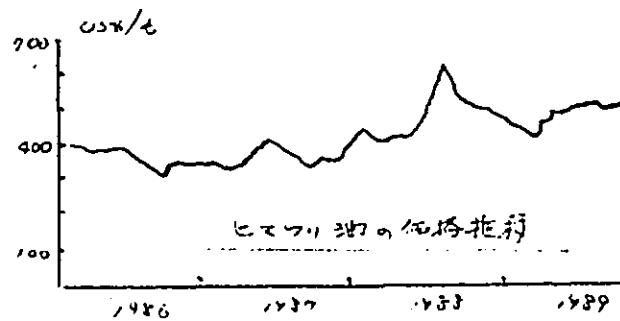
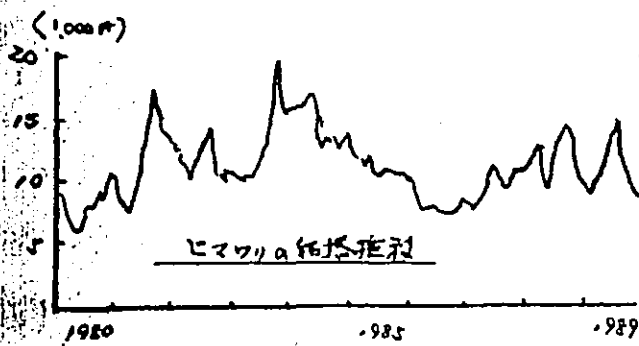
出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-118 ハチマキ粕の国内市場価格 (A/ton)

月別	89年10月28日迄の買付価格	変動率 (%)
1988年 8月	74.125	- 12.70
9	88.926	19.77
10	85.632	- 3.70

11	71.578	- 7.05
12	75.715	- 4.63
1989.7.1	71.088	- 6.36
2	70.331	- 1.06
3	73.717	4.81
4	77.224	7.47
5	77.907	- 1.66
6	78.745	1.08
7	50.437	- 35.95
8	50.502	0.12
9	49.635	- 1.72
10	47.285	- 4.73

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES



2.2.3 豆 麻

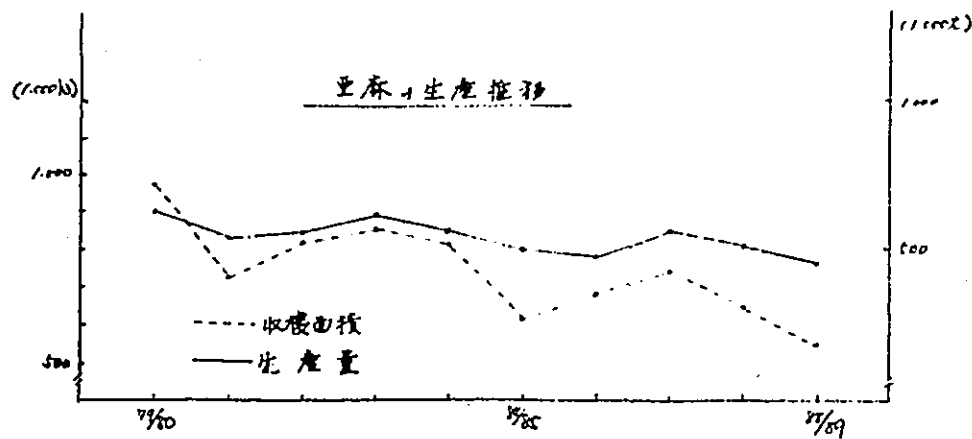
1) 生産

表 B-119

出所: 過去10年間の生産推移

年 度	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	収穫率 (%)	生産量 / 1,000t	単 収 / kg/ha
1979/80	1,070	978	91.4	743	760
80/81	780	726	93.1	585	806
81/82	951	818	86.1	600	734
82/83	910	864	95.0	730	845
83/84	810	804	99.3	660	821
84/85	620	603	97.3	500	829
85/86	750	688	91.7	460	667
86/87	758	744	98.1	622	836
87/88	671	655	97.6	535	819
88/89	574	560	97.6	416	742

出所: J.N.G.



80年代における亜麻の生産は減少傾向を統計で示し、79/80年と比較して88/89年度の規模は、作付面積にかいて63.6%、収穫面積にかいて57.3%、生産量55,999tと13年分近くに落ちている。とくに88/89農年は、生産地帯を襲った降雨不足により大きな被害が及ぶ。10年間で最低の生産規模であった。播種自体が氷帯に遅れ、主要産地のエントレリオス、サンタ・フェ及びコルトバでは、6月、7月の若干の降雨を利用して播種が行われ、栽培時期のずれは収収に大きな影響を与えた。

88/89農年の生産状況をみると作付面積は、574千ヘクタールで前年比(-)14.4%、過去10年間の平均と比較して(-)29.2%の減少であり、国内最大の生産州であるエントレリオス州の作付面積を増加させた以外は全般に栽培規模を縮小した。収穫率は97.6%で560.4千ヘクタールの収穫が行われ416千トンの生産をあげている。降雨不足のほか、強風もあつたため収収に影響し、これは過去10年間で、81/82農年の734kg/ha、85/86農年の669kg/haに劣る742kg/haにと落ちた。

表 B-120 亜麻：州別生産状況 (88/89)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 t/ha
エントレリオス	310.0	198.0	210.0	705
フエイス・アレス	180.0	179.0	150.0	838
サンタ・フェ	63.0	62.7	42.0	670
コルトバ	18.0	18.0	12.3	683
ラ・パソ・ンバ	2.8	2.5	1.5	600
チヤコ	0.2	0.2	0.2	1000
計	574.0	560.4	416.0	742

出所: SEC. AGRICULTURA Y GANADERIA

表 B-121 亜麻：州別生産推移

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
エントレリオス	209.6	213.0	218.0	210.0
フエイス・アレス	213.8	177.4	170.0	150.0
サンタ・フェ	132.2	132.8	117.8	42.0

コルドバ	44.5	29.0	25.2	12.3
その他の	3.4	3.2	4.0	1.7
計	603.5	555.4	535.0	416.0
作付面積 1,000ha	811.3	721.7	670.7	504.0
収穫面積 1,000ha	769.8	699.0	655.2	560.4

※所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-122 亜麻: 州別単収

州別	過去10年平均	過去5年平均	1987/88	1988/89
エントレ・リオス	715	748	799	705
ブエノス・アイレス	865	867	895	838
サタ・フェ	790	811	810	670
コルドバ	773	697	600	683
その他の	739	762	800	630
平均	784	792	817	743

※所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

ロ 国際市場とアルゼンチンの輸出

亜麻の世界生産に関するデータは新しいものがない。FAOが発表している最近のもので86年までのものが少ない。80年代の6年間をみると世界の亜麻栽培面積は81年の544万ヘクタールから86年の503万ヘクタールにかけて減少傾向にあり、途中、83年には467万ヘクタールの最低を記録している。但し世界の平均収量は、次第に増加して86年には81年の453kg/haを30%近く上回る574kg/haに達したため世界の生産量は81年の247万トンより86年には289万トンへと伸びている。世界の主要生産国としては、カナダ(86年に107万トン)と筆頭にアルゼンチン(56.5万トン)、インド(42.0万トン)米国(22.1万トン)中国(10.5万トン)等がある。

業界誌 OIL WORLD の情報によると 88/89年には世界の主要生産国に於いて大きな減産がみられ、エココ市場の価格を押しあげている。中でもカナダ(-)50%、アルゼンチン(-)23%、米国の(-)70%の減少が大きく、このため長年以來に於いて世界最大の生産国としての地位を保持していたカナダは、アルゼンチン、インド及び中国に抜かれて9位の生産国に落ちたと報いられている。同年カナダの生産量は40万トンに割ってあり、アルゼンチンは43万トン(FADのデータ)、インドと中国がそれぞれ41万トンを下回った。

同じくFAOの統計によると世界の亜麻貿易は、86年度に於いて輸出が841千トンでその87%はカナダの輸出による。それだけにアルゼンチンを含む他の生産国の輸出比率は僅少である。世界輸入国としては、西独の輸入が大きく86年のデータによると同国で世界輸入の47%に

当り 36.4万トンと輸入してあり、日本(9.0万トン) 米因(6.0万トン) ヘルギー(7.8万トン) がこれに続く
主要市場である。

亜麻の国際市場は、最大の生産国カナダの大減産により価格の上昇があり、ロッテルダム
市場の価格は 87年10-12月平均に189ドルより 89年1-3月には381ドル、同4-6月も338ドル
の高い相場を記録した。これに合わせて亜麻油及び亜麻粕の相場も同様の傾向を示した。

表 B-123 亜麻及び副産物の価格

年度	US/2				
	10月~12月	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~11月
亜麻種子: CIF EUROPE					
1985/86	249	238	213	191	225
86/87	190	159	168	161	169
87/88	189	204	242	369	251
88/89	362	381	332	315	308
亜麻油: CIF ROTTERDAM					
1985/86	574	489	442	396	475
86/87	350	290	333	312	319
87/88	331	355	406	670	441
88/89	654	667	697	250	950
亜麻粕: CIF ROTTERDAM					
1985/86	178	173	182	250	183
86/87	180	156	167	179	171
87/88	196	179	210	281	216
88/89	268	235	221	236	232

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

アルゼンチンの亜麻及び副産物輸出実績は、次表の通りである。アルゼンチンの輸出は、
大きなものではないが 88/89年には、カナダの大減産により、アルゼンチンが世界最大の輸出国と
なっている。アルゼンチンの輸出先市場は、亜麻種子では西独がほぼ独占し、亜麻油では、
ノルウェーが圧倒的に大きく、88年度で輸出総量の55%が同国に向けられている。又亜麻
粕の場合は、オランダを初めとしてヘルギー、イギリス、フランス等 EC圏で占められている。

表 B-124 亜麻(種子)の輸出実績

国	別	1985	1986	1987	1988
西	独	44	51	159	176
コ	スタリカ	28	-	-	27
オ	ランダ	327	-	-	-
イ	ギリス	-	30	-	-
計		399	81	159	203

出所: J.N.G

表 B-125 亜麻油の輸入実績

国 別	1985	1986	1987	1988
ソ 連	66.2	71.5	115.6	68.9
オ ラ ニ ヲ	50.4	23.7	29.6	34.1
ス ハ ー イ ン	3.2	2.6	4.0	3.9
コ ロ ン ビ ア	0.9	1.5	1.1	1.0
西 独	0.7	1.5	-	2.5
ポ ー ラ ン ド	1.6	-	4.0	2.0
南 ア リ カ 連 邦	1.9	1.5	1.9	2.0
ス エ ー デ ン	-	1.3	1.1	1.0
ハ ン ガ リ ー	1.4	1.4	0.3	0.4
中 国	5.0	2.6	11.4	-
チ ェ コ スロバキヤ	2.4	1.0	-	0.5
其 他	5.2	3.1	5.2	8.6
計	138.9	117.9	174.1	125.9

出所: J.N.G.

表 B-126 亜麻粕の輸入実績

国 別	1985	1986	1987	1988
オ ラ ニ ヲ	225.4	172.4	177.4	211.9
ベ ル ガ ー	52.2	24.2	121.7	22.6
イ タ リ ー	26.3	1.7	26.2	12.8
フ ラ ン ス	4.1	1.0	15.6	2.0
其 他	1.6	1.5	8.5	1.8
計	309.6	261.6	353.0	301.1

出所: J.N.G.

八 国内市場価格

亜麻及び副産物の88年8月及び89年10月における国内市場価格(アリス・リス穀類取引所相場)は、次表の通りである。

表 B-127 亜麻: 国内価格推移 A/ton			表 B-128 亜麻油: 国内価格推移 A/ton		
月 別	1989年10月±10%以内の買付価格	変動 (%)	月 別	89年10月±10%以内の買付価格	変動 (%)
1988年8月	15,238	- 8.89	1988年8月	268,160	- 4.13
9	16,018	5.12	9	284,962	6.27
10	15,990	- 0.18	10	291,797	2.40
11	13,405	-15.92	11	254,751	-12.70
12	13,042	- 2.99	12	233,697	- 8.26
1989年1	12,895	- 1.13	1989年1	236,038	1.00
2	12,900	0.03	2	262,626	11.26
3	16,446	27.49	3	341,894	30.18
4	18,958	15.27	4	388,368	13.58
5	17,924	- 5.19	5	343,297	-11.61
6	15,097	16.01	6	313,477	- 8.69
7	11,791	-21.89	7	260,692	-16.84
8	14,508	23.04	8	293,104	12.43
9	14,457	0.35	9	327,720	12.24
10	11,135	-22.98	10	356,190	- 6.93

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

表 B-29 芝麻指国内価格推移 A/ton

月 別	89年10月28日-22日(東京市場)	変動率 (%)
1988年 8月	111.971	- 7.11
9	116.548	4.07
10	114.526	- 1.74
12	95.925	- 16.24
12	90.161	6.01
1989年 1	95.400	5.81
2	91.017	- 4.59
3	101.424	11.43
4	126.538	24.76
5	110.002	- 13.07
6	83.092	- 24.46
7	68.995	- 16.77
8	84.162	21.98
9	86.141	2.35
10	81.952	- 4.86

出所: BOASA DE CEFRALES DE B. AIRES

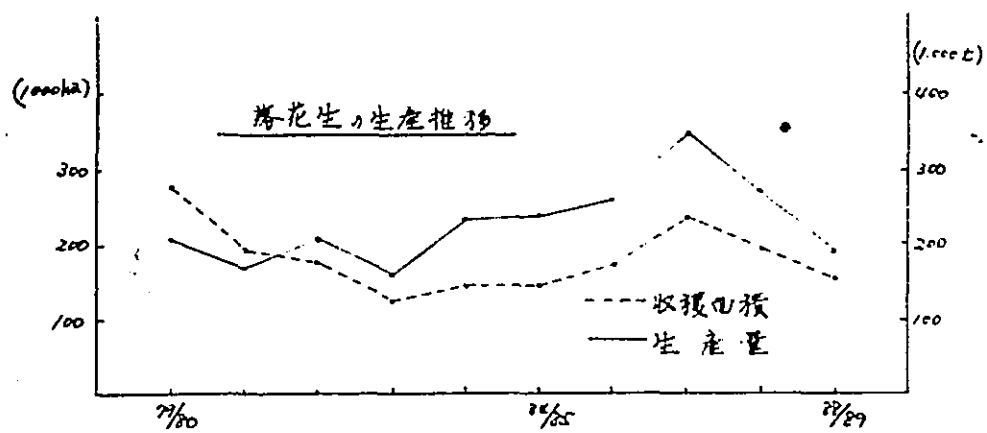
落花生

1) 生産

表 B-130 落花生: 過去10年間の生産推移

年 度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	収穫率 (%)	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1979/80	286.6	279.1	97.4	206.0	738
80/81	201.3	196.7	97.7	170.0	864
81/82	180.0	179.0	99.4	205.0	1,145
82/83	125.1	125.0	99.9	162.0	1,296
83/84	145.7	145.7	100.0	235.0	1,613
84/85	146.0	146.0	100.0	240.0	1,644
85/86	176.0	173.0	98.3	259.0	1,497
86/87	240.4	238.4	99.2	350.0	1,468
87/88	193.4	193.3	99.9	274.1	1,418
88/89	153.2	153.2	100.0	190.2	1,242

出所: J.N.G.



アルゼンチンの落花生栽培は、ほとんどコルドバ州に集中して行われており、他州にみるべき生産地帯はない。落花生は少量が生食用とされるが、その大半は搾油加工により、落花生油を生産し、その副産物として落花生粕を産出する。20年程前には45万ヘクタールに及んでいた栽培面積も、その後急激な生産に押されて減少を続け、現在ではその半分以下の生産規模に落ちている。とくに86/87年には、乾燥の被害も加ってその生産量は20万トンと割れている。80年代には、86/87年に一時的に増産があったが、その後の年は低い生産に終っている。

アルゼンチンにおける落花生の栽培は、雨期に入る11月より収穫期の5~6月の間を周期としている。

表 B-131 落花生：州別生産状況(88/89)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	反収 kg/ha
コルドバ	153.0	153.0	190.0	1,242
コリエコテス	0.1	0.1	0.1	1,000
ミシヨナス	0.1	0.1	0.1	1,000
計	153.2	153.2	190.2	1,242

出所：SECRETARIA DE AGRICULTURA

表 B-132 落花生：生産推移 1,000t

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
コルドバ	255.8	271.2	273.8	190.0
その他の	1.6	0.4	0.3	0.2
計	257.4	271.6	274.1	190.2

作付面積 1,000ha	209.4	180.3	193.4	153.2
--------------	-------	-------	-------	-------

収穫面積 1,000ha	206.9	179.3	193.3	153.2
--------------	-------	-------	-------	-------

出所：SEAG

表 B-133 落花生：単収推移

州別	過去10年間平均	過去5年間平均	1987/88	1988/89
コルドバ	1248	1517	1419	1242
全国平均	1244	1515	1418	1242

出所：SEAG

ロ 国際市場とアルゼンチンの輸出

FAOの統計によると世界の落花生栽培状況及び主要生産国の生産性は、次表の通りである。これによると世界の栽培面積は、約2千万ヘクタールを前後しており、220万トン前後の生産が続いている。大陸別の生産規模としては、アジアもとも大きく、その中でインド及び中国が世界の1,2位を占める大型生産国であり、その生産量は88年を例にとると世界生産の57.6%を占

め。これに続いてアフリカ、米国と続いており、アルゼンチンと南米の生産量は、8.7%と少ない。

表 B-134 落花生：世界の栽培面積と生産量

大陸別国別	面積 100万ha				生産量 100万t			
	1985	86	87	88	1985	86	87	88
アジア								
インド	7.4	7.0	6.7	7.5	5.8	5.9	5.7	7.3
中国	3.4	3.3	3.1	3.3	6.2	6.0	6.3	5.9
インドネシア	0.5	0.6	0.5	0.6	0.8	0.8	0.8	0.9
その他	1.2	1.2	1.2	1.2	1.4	1.3	1.3	1.3
計	12.5	12.1	11.6	12.6	14.0	14.0	14.1	15.4
アフリカ								
セネガル	0.6	0.8	0.8	0.8	0.6	0.8	1.0	0.8
スーダン	0.4	0.5	0.6	0.6	0.3	0.4	0.4	0.5
ガール	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
その他	3.6	3.7	3.7	3.8	2.7	2.8	2.9	3.0
計	5.1	5.5		5.7	4.0	4.4	4.7	4.7
北中米								
米国	0.6	0.6	0.6	0.6	1.9	1.7	1.6	1.8
その他	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
計	0.8	0.8	0.9	0.9	2.1	1.9	1.8	2.0
南米								
アルゼンチン	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.5	0.4
ブラジル	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2
その他	0.1	-	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
計	0.4	0.4	0.5	0.4	0.8	0.7	0.8	0.7
その他	0.1	-	-	-	-	-	-	0.1
合計	18.9	18.8	18.5	19.5	21.7	21.0	21.4	22.9

出所：FAO.

表 B-135 落花生：世界の単収 Kg/ha

国別	1985	1986	1987	1988
米国	3.148	2.679	2.623	2.577
アルゼンチン	2.366	2.191	2.101	2.332
中国	2.003	1.805	2.036	1.766
ブラジル	1.756	1.340	1.373	1.667
インドネシア	1.478	1.298	1.381	1.476
タイ	1.413	1.352	1.339	1.176
ナイジェリア	1.000	1.129	1.175	1.143
セネガル	833	1.138	1.026	1.083
平均	1.149	1.119	1.156	1.120

出所：FAO.

最近における落花生の世界貿易に関するデータに乏しく、正確な数字は不明であるが、1000万トン前後の取引が行われているものと推定される。アルゼンチンは世界の主要輸出国の中に数えられるが、AFLOATOXIN A毒素の問題から輸出を中止したブラジルに代って南

米では最大の輸出国として今日にいたっている。アルゼンチンの落花生及び落花生油の輸出先市場は、EC国がもっとも大きく、中でもオランダが最大の輸入国となっている。アルゼンチンの輸出現状は、落花生にかつて100千トン前後、落花生油では60千トン前後である。

表 B-136 落花生の輸出実績 1,000t

国別	1985	1986	1987	1988
オランダ	56.9	77.5	63.4	62.4
西独	2.3	11.2	12.6	8.1
英 国	-	6.2	7.7	6.7
スペイン	2.2	2.9	1.8	4.4
カナダ	-	0.1	1.2	4.3
イタリー	0.8	1.4	2.4	2.7
日 本	1.6	2.0	1.9	1.8
チリ	0.4	1.8	1.8	1.2
フランス	0.1	0.4	5.2	0.6
ポルトガル	0.3	0.5	0.4	0.3
ベルギー	0.2	0.1	0.3	0.4
その他	19.6	7.0	7.4	11.9
計	89.4	113.1	108.1	104.8

出所: J.N.G.

表 B-137 落花生油の輸出実績 1,000t

国別	1985	86	87	88
オランダ	18.6	22.4	55.4	39.4
米 国	-	0.9	4.1	9.1
西 独	0.4	-	0.9	3.3
ベネズエラ	-	-	-	2.0
南アフリカ連邦	2.1	0.2	1.1	0.5
フランス	2.7	-	1.1	-
イタリー	1.8	0.7	2.3	-
その他	0.6	2.0	2.8	0.9
計	26.2	26.2	67.7	55.2

出所: J.N.G.

ハ) 国内市場価格

ブエノスアイレス取引市場における88年8月より89年10月間の落花生及び落花生油の価格

動向は次表の通りである。

表 B-138 落花生(工業原料用)国内価格推移 1/t

月別	89年10月28日(12)の価格	変動 (%)
1988年 8月	16,745	- 10.42
9	15,649	- 3.08
10	13,952	- 10.84
11	13,190	- 5.46

表 B-139 落花生油:国内価格推移

月別	89年10月28日(12)の価格	変動 (%)
1988年 8月	369,250	- 15.24
9	342,928	- 7.11
10	320,407	- 6.58
11	305,216	- 4.74

12	12.868	- 2.45	12	301.138	- 1.34
1989年 1	17.672	- 1.52	1989年 1	504.664	1.17
2	13.756	8.56	2	328.429	7.82
3	17.145	24.63	3	451.199	37.36
4	18.544	8.16	4	494.186	9.53
5	21.661	16.20	5	*	*
6	13.065	- 39.68	6	*	*
7	14.862	13.75	7	388.203	- 21.45
8	14.531	- 2.23	8	361.960	- 6.76
9	14.403	- 0.88	9	358.800	- 0.87
10	14.430	0.12	10	360.228	0.40

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

* 1991年

2.2.5 油桐

表 B-140 油桐の生産状況

年 度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	収 収 kg/ha
1979/80	51.7	51.7	81.0	1,567
80/81	44.0	44.0	48.6	1,105
81/82	44.0	44.0	80.5	1,830
82/83	44.0	44.0	37.4	875
83/84	42.5	42.5	66.7	1,569
84/85	42.4	42.4	66.5	1,568
85/86	39.5	39.5	37.5	1,000
86/87	39.5	39.5	48.0	1,215
87/88	36.6	36.5	63.5	1,740
88/89	*	*	*	*

出所: SECRETARIA DE AGRICULTURA Y GANADERIA

表 B-141 油桐: 州別生産状況

州 別	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	収 収 kg/ha
ミシオンアル	36.4	63.4	1,740
コリエンテス	0.1	0.1	1,100
計	36.5	63.5	1,740

出所: S.G.A.G.

表 B-142 油桐油の輸出実績 1,000t

国 別	1985	86	87	88
米 国	2.9	2.6	2.0	1.2
オーストラリア	2.3	3.6	0.5	1.3
日 本	2.6	0.9	0.6	0.7
スウェーデン	0.1	0.1	0.2	0.2
ソ 連	2.7	1.3	1.5	-
その他	0.8	0.2	0.3	0.3
計	11.4	9.0	5.1	3.7

出所: JNG.

2.2.6 オリーブ

表 B-143 オリーブ:生産推移 単位:1,000トン

年 度	缶詰用	オリーブ油原料	計
1980/81	35.5	69.1	104.6
81/82	35.5	52.9	88.4
82/83	38.9	69.1	108.0
83/84	38.6	62.9	101.5
84/85	29.1	35.7	64.8
85/86	42.9	32.6	75.5
86/87	34.2	39.5	73.7
87/88	*	*	111.2
88/89	*	*	*

出: S.A.G.P.

オリーブの生産量は、缶詰用とオリーブ油原料に区分されて統計が発表されているが、87/88年以降のデータは未だ発表されていない。80年代の生産推移を見ると80年代初めには、オリーブ油原料としての生産量が多かったが、85/86年には初めて缶詰用の原料としての生産が増加し、86/87年は両者同じ同等の生産量であった。この二種を合計した生産量は、もっとも低い年の64.8千トン、多い年が111千トンでその開きは大きい。オリーブ樹は樹令が長く植付後5-6年日より生産を開始し、最盛期は12-15年目に達する。このため投資資金の回収が遅く、小資本では企業的经营は困難であり、このため栽培拡大を制約する問題点となっている。

国内の生産分布は、メントーサ、サンファン、コルドバを主要生産地帯としており、86/87農年のデータによるとこの3州が全国生産の82%を占めている。これらの地帯にはオリーブ生産に適した浸透性のある砂質土壌が多い。

オリーブ油の輸出は80年代の始めに6千トン以上が行われていたが、最近は大巾に減少しており、88年の統計では2千トンに落ちている。輸出先別には、伝統的に隣国ブラジルが大きく、米国、イタリ、ウルグアイが少量の輸入を続けている。

2. 3. 工業原料作物

2. 3. 1. 砂糖キヒ

表 B-144 砂糖キヒ: 生産推估

収穫年度	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	生産性 t/ha
1981	319.8	15,500	48.5
82	308.5	15,046	48.8
83	313.4	15,070	48.1
84	317.6	15,440	48.6
85	287.6	14,105	49.0
86	296.2	14,465	48.8
87	290.2	14,479	49.9
88	276.7	13,939	50.4
89	*	*	*

出所: S.A.G.P.

アルゼンチン国内における砂糖キヒの栽培地は非常に少なく、北部地方の一部に限定されて
いる。したがって栽培規模は小さく、80年代を通じて収穫面積は30万ヘクタール前後で隣
国ブラジルの430万ヘクタールと比較の対照にもつらぬ規模である。

国内の栽培面積は、ツクマン州がもっとも大きく、北部のコフイ&カ、リルク州と合せて3州
の生産量が全国生産の95%を占める。これらの地帯も砂糖キヒの適地とはいえず、ヘクタール当りの収量
は、ブラジルの平均60トンに対し50トン以下の低である。

一般に苗の植付けは6月から9月にかけて行われ、1回の植付けで5年の収穫を可能とする半永年
性の作物であり、最初の植付けをCANÃ PLANTA、2年目以降をCANÃ SOCAと呼んでいる。
収穫は6月に始まり、10月に終了する。

市場は、その大半を国内市場とし、残余の少量を海外に輸出される。

表 B-144 A 砂糖の生産・消費データ - 1,000t

農年 1/6 ~ 31/5	前年との 繰越量	生産量	輸出品	国内市場向 出荷量	扱込量	次期 繰越量
1980/81	154.3	1,627.1	623.5	982.6	6.7	168.6
81/82	168.6	1,531.2	567.2	908.9	8.8	214.9
82/83	214.9	1,530.7	593.9	905.0	6.6	240.1
83/84	240.1	1,537.2	673.5	913.9	7.8	182.1
84/85	182.1	1,447.1	317.3	762.2	11.9	337.8
85/86	237.8	1,087.9	143.6	777.2	25.2	279.7
86/87	279.7	1,038.0	90.7	1,007.8	28.3	188.9
87/88	188.9	980.7	64.4	924.4	42.3	138.5
88/89	138.5	1,048.1	100.0	881.3	20.0	185.3
89/90*	180.3	780.0	70.0	730.0	15.0	150.3
90/91*	150.3	1,300.0	350.0	780.0	10.0	310.3

出所: CENTRO ACUCARERO ARGENTINO.

〈砂糖〉

現在国内には25の製糖工場がある。北部にはツクマン州に16、771州3、ナルタ3の
 州で分布しており、これらの工場が全国生産量の95%を占め、他の4工場は沿岸地方にある。

砂糖部門に従事する労働者数は200万人、砂糖キビ栽培農家は14,455戸、そのうち13,528
 戸がツクマン州に集中する。ツクマン州にある製糖工場の15%は直営の砂糖キビ園を擁しているが
 他の85%は、米3者から原料を購入している。

砂糖の国内生産と国内供給を規制するために、国家砂糖局(DIRECCION NACIONAL DE
 AZUCAR)が設置されており、国内市場の収収力不足によって生じる供給過剰の悪循環を回
 避する方法、主に海外輸出による国内供給量調整の方法が採られている。

経済省が90年に設定した決議556/90によると、国内の砂糖生産割当量は950千ト
 ンで、そのうち米国向け120千トンの輸出を優先する輸出義務割当に割りこみ、残りが国内市場
 に供給されるシステムとなっている。

2.3.2 綿

表 B-145 綿: 生産推移

年度	耕作面積 / 1,000ha	収収 kg/ha	生産量(種子) / 1,000t	生産量(繊維) / 1,000t	生産量(純綿) / 1,000t
79/80	585.4	855	276.0	145.5	425.4
80/81	343.0	799	152.7	85.0	281.2
81/82	403.8	1,229	269.9	152.6	491.0
82/83	373.3	1,037	201.6	111.4	373.3
83/84	425.5	1,299	325.6	179.4	610.0
84/85	462.7	1,199	292.6	171.4	536.1
85/86	353.3	1,112	207.0	120.0	376.6
86/87	291.2	1,181	174.3	100.0	322.2
87/88	494.9	1,726	467.0	281.2	849.4
88/89	*	*	*	*	*

出所: SECRETARIA DE AGRICULTURA Y GANADERIA

表 B-146 綿：州別生産状況 (89/88)

州 別	耕作面積 1,000ha	種子生産量 1,000t	収収 kg/ha
チヤコ	295.2	278.7	1.858
フォルモサ	62.0	61.3	1.632
サンタフェ	62.2	53.1	1.510
サントスピリト	44.3	32.6	1.423
コリエンテス	12.0	8.9	1.300
コルドバ	4.0	4.7	2.000
エンペリオス	4.2	3.2	1.384
その他	5.0	4.5	-
計	494.9	467.0	1.726

出所: SECRETARIA DE AGRICULTURA Y GANADERIA

綿の栽培面積は、86/87年に史上最低の291千ヘクタールに落ちたと87/88年には、約500千ヘクタールに復活、89/90年も最終的に700千ヘクタールに拡大されたものと推定されている。この数年間国際市場が堅調に推移していることが作付けを刺激しており、又、生産性の高い新しい品種の導入により輸出余力を増加させ世界の需要に応じることができた。とくに最近では高いインフレ経済の中で国内の需要が落ちているため、海外市場への販売は非常に重要性を帯びようになり、積極的な売込みが行われている。

国際市場では、大型生産国の中国、ソ連及び米国において生産の減少がみられ、世界のストックが減少しているため、価格は、上向きであり、生産を伸ばしているアルゼンチンにとって好ましい環境である。

国内の生産地帯はチヤコ州が圧倒的に大きく、89/88年のデータによると全国耕作面積の60%がこの州に集中しており、フォルモサ、サンタフェ及びサンチャゴ・デル・エステロ州が主要産地としてこれに続いている。

生産される綿は、種子と繊維に二分され、種子は採油原料として用いられる。海外への輸出は、繊維の状態で行われている。中国、韓国、インド、タイ等が伝統的な輸入先市場である。

表 B-147 綿：繊維の輸出

国 別	1984	85	86	87
西 独	0.6	15.9	0.2	1.8
ヘルギー	2.7	12.7	0.3	1.5
ポルトガル	-	14.0	0.3	1.3
台湾	9.7	15.5	0.2	-
イタリ	1.0	2.3	-	0.1
タイ	1.6	19.2	0.5	0.5
ブルネイ	-	1.0	1.0	0.9
その他	5.7	22.9	0.2	3.6
計	21.3	107.7	3.3	1.6

出所: JMG.

2.3.3 フォルミオ (ニューエランド) 産

表 B-148 フォルミオ: 生産推移

年 度	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	反収 / kg/ha
1980/81	1.20	0.50	18.0	60,000
81/82	1.10	0.27	16.2	60,000
82/83	1.10	0.27	17.0	62,963
83/84	1.00	0.25	14.5	58,000
84/85	1.00	0.25	14.0	56,000
85/86	0.95	0.23	13.0	56,522
86/87	0.90	0.20	11.0	55,000
87/88	0.84	0.12	6.0	50,000
88/89	*	*	*	*

出所: S.A.G.P.

2.3.4 ソイ

表 B-149 ソイ: 生産推移

年 度	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	原料生産量 / 1,000t	大豆油生産量 / 1,000kg
1980/81	341.0	338.0	3.25	24.05
81/82	324.0	319.8	2.94	22.70
82/83	323.2	318.0	3.57	24.78
83/84	323.1	317.3	3.55	24.72
84/85	320.8	317.0	2.75	18.81
85/86	267.2	262.0	2.41	17.41
86/87	282.5	281.8	3.69	19.52
87/88	274.2	274.7	3.30	26.60
88/89	273.6	273.2	2.94	24.57

出所: SOCIEDADE RURAL ARGENTINO

大豆栽培自然条件としては夏期よりも冬に多くの降雨があり、秋に乾燥する気象を必要とする。夏期の水不足は、灌漑によって補足出来る条件も必要となる。アルゼンチン国内での自然条件に適した地域としては、メンドーサ、サンファン、ラリオハ、コルドバ、ブエノスアイレス及びチブツ州内にある中で、メンドーサとそれに隣接するサンファン両州は、最良地として生産が最大で、全国生産の90%を占める。

2.3.5 ホップ

表 B-150 ホップ: 生産推移

年 度	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	反収 / kg/ha
1980/81	0.21	0.17	0.14	224
81/82	0.23	0.20	0.17	229
82/83	0.24	0.21	0.16	226
83/84	0.22	0.19	0.19	264
84/85	0.25	0.25	0.21	261

85/86	0.23	0.23	0.20	873
86/87	0.23	0.23	5.30	1.276
87/88	0.24	0.24	0.22	1.169
88/89	0.24	0.24	0.33	1.347

出所: S. E. A. G.

ビール製造原料としてのホップの栽培条件は、温暖な気候、十分な水分、降雨前に収穫出来る地域とされておる。これらの条件を満たすところのみで栽培が行われている。防風林の設置、柵の設備等生産設備に可成りの投資を必要とするため生産の増加に困難とする理由とされておる。現在も尚国内需要の半分を満足しているにすぎない。

2.3.6 煙草葉

表 B-151 煙草葉: 生産推移

年度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1980/81	50.4	46.5	52.1	1.120
81/82	57.3	55.2	58.7	1.245
82/83	66.9	59.8	74.3	1.242
83/84	64.3	60.8	74.8	1.229
84/85	52.4	49.3	60.5	1.227
85/86	54.9	49.2	66.4	1.348
86/87	60.3	50.9	71.0	1.394
87/88	54.6	53.3	72.2	1.357
88/89	*	*	*	*

出所: S.E.A.G. * 7-9-136

表 B-152 煙草葉: 州別生産状況(87/88)

州別	作付面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
フフイ	13.3	21.9	1.649
ナルタ	12.2	18.4	1.512
ミズオ-ウ	9.3	14.6	1.575
コリエニテス	10.0	9.8	980
ヤママン	7.3	5.4	740
カクマルカ	0.8	1.3	1.566
キヤコ	0.3	0.7	2.153
その他	0.1	0.1	-
計	53.3	72.2	1.357

出所: S.E.A.G.

2.3.7 茶

表 B-153 茶: 生産推移

年度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1980/81	41.2	31.1	98.0	3151

81/82	41.2	55.2	142.0	4.034
82/83	41.5	39.3	177.5	4.466
83/84	41.8	41.6	178.4	4.274
84/85	42.7	42.1	200.0	4.756
85/86	42.4	36.8	178.0	4.844
86/87	41.9	36.8	174.7	5.275
87/88	41.7	34.7	136.2	3.742
88/89	42.4	32.7	165.4	4.145

出所: S.E.A.G.

栽培条件に制約があるため、国内ではミネオネス州とコリエコナス州の外で栽培されている。中でもミネオネス州の栽培比率が大きく、国内生産の70%以上がこの州に集中している。作付面積、収穫面積ともこの10年間に変化はないが、年間の気象条件による生産量は、可成りの変動があり、低い年で14万トン、多い年で20万トンの生産が行われている。

茶の国内消費は非常に少なく、生産される茶の大半は海外に輸出される。1989年度の輸出額は42.19百万ドルで、米国(11.27百万ドル)とチリ(8.33百万ドル)と二大市場としており、その他ソ連、オランダ、西独、英国等が主要市場である。

2. 4. 果 実

2. 4. 1. リンゴ

表 B-154 リンゴ: 生産推移

年 度	栽培面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1980/81	52.0	908	18.710
81/82	55.0	804	15.597
82/83	56.0	817	15.723
83/84	57.5	934	17.942
84/85	58.2	922	18.597
85/86	58.5	594	11.248
86/87	58.1	11074	20.548
87/88	56.9	940	17.271
88/89	56.4	848	16.026
89/90	57.3	920	-

出所: SOCIEDADE RURAL ARGENTINA

表 B-155 リンゴ: 州別生産状況

年 度	チリ	ソ連	米国	チリ	その他	1000t
1980/81	642.2	113.2	116.2	5.0	15	22.9
81/82	576.0	114.0	22.5	5.0	17	22.6

82/83	533.0	102.5	147.6	1.2	3.3	19.2
83/84	667.8	124.0	119.0	5.0	2.6	15.6
84/85	628.5	139.8	122.7	6.0	2.9	16.3
85/86	564.3	85.8	121.1	5.0	3.5	14.3
86/87	674.7	181.0	121.0	5.5	3.3	8.0
87/88	617.4	162.3	144.7	5.5	3.0	7.1

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

アルゼンチンの代表的果実としてカリコシ生果は、特にサウスエンドを最大の生産地帯とし、隣接するネウケン、メンドーサの3州に国内カリコシ生産の90%以上に集中する。国内生産量は70年代にすでに100万トン近くに達し更に増大が予想されたが80年代に入ってから80万~90万トンの横ばい状態が続き、85/86年には悪条件下で60万トンで落ち込む。以後回復し87/88年にはようやく100万トンに記録し、以降再び100万トンの生産が継続している。

アルゼンチン産カリコシの市場は、70年代に約3分の2が国内市場、残りの3分の1が輸出用とされていたが80年代に入ってから輸出が大幅に減少して行き、その比率は88年において24.5%、89年は23.1%となっている。このように輸出の減少は最大の輸出先市場であるブラジルの国内生産が伸び、海外依存度を縮小しているためである。

表 B-156 リンゴ: 国別輸出入実績(重量)

国別	1985	1986	1987	1988	1989
ブラジル	86	60	99	82	95
オランダ	44	22	40	48	41
西独	14	9	16	25	27
スイデン	27	25	19	20	25
米国	2	2	10	8	16
ノルウェー	16	12	13	15	12
その他	11	4	5	10	11
計	200	134	202	208	227

出所: INDEC

表 B-157 リンゴ: 国別輸出入実績(金額)

国別	1985	1986	1987	1988	1989
ブラジル	24,771	35,079	32,059	23,072	28,199
オランダ	12,784	8,338	13,583	12,771	9,206
西独	4,031	3,483	5,712	6,278	5,437
スイデン	7,334	10,249	6,503	5,168	4,751
米国	344	778	3,039	1,854	2,963
ノルウェー	4,415	5,165	4,434	3,762	2,407
その他	3,815	1,348	1,720	3,141	2,751
計	57,494	65,460	66,850	56,466	54,714

出所: INDEC

2.4.2. 梨

表 B-158 梨:生産推移

年度	栽培面積 1,000ha	生産量 1,000t	収取 kg/ha
1980/81	17.1	130	8,417
81/82	17.4	138	8,488
82/83	18.5	176	10,667
83/84	19.5	167	9,587
84/85	18.7	142	11,052
85/86	18.8	165	9,343
86/87	18.9	251	14,204
87/88	7.8	211	12,854
88/89	18.3	224	13,315
89/90	18.7	210	*

出所: INDICADORES *7-9-26

表 B-159 梨:州別生産状況

年度	リオネグロ	メントーナ	ネラケン	コルドバ	7212-712	その他
1980/81	83.0	30.0	9.4	2.1	1.3	4.2
81/82	95.5	25.3	10.8	1.8	1.3	3.3
82/83	134.2	21.8	14.4	0.9	1.3	3.4
83/84	121.0	25.9	14.3	0.7	1.5	3.6
84/85	142.8	26.1	17.3	0.6	1.7	5.2
85/86	123.8	21.1	15.3	0.6	1.3	2.9
86/87	193.1	29.9	24.0	0.6	0.1	3.3
87/88	180.4	25.7	21.9	0.6	0.1	2.3
88/89	*	*	*	*	*	*
89/90	*	*	*	*	*	*

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES

リンゴと同様にリオネグロ、メントーナ及びネラケン生産地とする梨の生産はリンゴの3分の1程度の栽培規模で行われており、年間20万トン程度の生産が続けられている。最近のデータによると国内生産量に対する輸出の割合はリンゴの場合よりも大きく、88年において51.7%、89年においては66.7%が海外に向けられた。輸出による収入は年間5千ドル程度である。

表 B-160 梨:国別輸出実績(重量)

国別	1985	1986	1987	1988	1989
フランス	34	24	43	47	54
イギリス	13	9	21	31	38
西独	8	4	6	8	14
オランダ	14	8	13	15	14
米 国	1	1	7	8	14
スウェーデン	5	4	5	4	5
ノルウェー	1	1	1	1	1
その他	1	0	1	2	2
計	77	51	97	116	142

出所: INDEC

表 B-161

単位: 別別輸出実績 (金額)

1,000万

国 別	1985	1986	1987	1988	1989
アメリカ	10.910	10.256	17.918	18.554	20.045
イギリス	4.934	4.197	9.617	14.479	12.350
西 独	3.012	1.747	2.273	3.520	4.586
オランダ	5.474	3.214	6.237	7.139	4.572
米 国	201	522	3.230	3.628	4.431
スイデン	1.598	1.922	2.296	1.639	1.721
ノルウェー	212	447	261	516	271
その他	888	210	1.203	1.298	791
計	27.220	23.115	43.635	50.773	48.967

出所: INDEC.

2.4.3. 柑 橘 類

表 B-162

かんきつ類: レモンの生産推移

年 度	栽培面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1980/81	26.0	407	20.867
81/82	27.0	384	18.417
82/83	26.2	357	17.761
83/84	26.0	368	18.126
84/85	26.3	460	22.207
85/86	7.1	481	22.197
86/87	25.9	528	23.940
87/88	25.9	517	22.854
88/89	26.0	489	21.358
89/90	26.0	500	*

出所: INDICADORES * 7-9-12L

表 B-163

かんきつ類: レモンの州別生産状況

1,000t

年 度	ツアマン	コリエネラス	エトレリオス	ミメネラス	マフイ	その他
1980/81	305.0	19.8	16.5	16.2	9.9	41.6
81/82	250.0	32.3	18.0	20.0	13.0	50.7
82/83	266.5	32.0	17.2	19.0	13.5	8.2
83/84	242.5	27.3	20.0	21.9	13.8	42.5
84/85	320.0	31.1	28.2	26.7	13.8	39.6
85/86	337.0	33.7	25.3	29.6	13.6	41.8
86/87	350.0	53.7	44.3	29.6	14.2	36.2
87/88	350.0	49.2	45.5	30.9	15.5	25.3
88/89	*	*	*	*	*	*

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRS.

表 B-164

かんきつ類: マンガリトの生産推移

年 度	栽培面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1980/81	28.1	237	11.230
81/82	28.5	255	12.977
82/83	22.6	244	12.449
83/84	29.1	231	11.113

84/85	29.5	- 84	12.489
85/86	30.1	259	10.841
86/87	29.7	255	11.508
87/88	29.5	223	11.351
88/89	32.5	304	12.869
89/90	32.5	300	*

出所: INDICADORES * 7-9-18L

表 3-165

かんきつ類: マニラリ-ナ州別生産状況

1,000t

年度	エントレオス	コリエニテス	フフイ	サレフ	ツクマン	サ:9:72	その他
1980/81	130.5	27.6	5.0	9.4	16.9	18.9	28.7
81/82	120.0	26.0	7.1	16.5	16.6	22.5	36.3
82/83	123.0	23.4	11.0	11.7	16.0	23.0	35.7
83/84	112.0	20.0	9.2	10.6	17.0	18.9	43.3
84/85	134.0	47.0	12.2	13.6	15.7	13.7	42.2
85/86	111.0	43.8	-	14.0	16.6	19.3	54.3
86/87	184.0	67.2	15.9	14.7	16.2	17.0	39.2
87/88	131.3	66.9	19.6	12.0	16.1	12.6	12.5
88/89	*	*	*	*	*	*	*

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES. * 7-9-18L

表 3-166

かんきつ類: オレンジの生産推移

年度	栽培面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 t/ha
1980/81	69.7	668	11.265
81/82	68.1	606	10.359
82/83	70.4	639	10.886
83/84	70.3	620	10.551
84/85	70.1	621	10.127
85/86	60.7	623	12.101
86/87	55.3	713	13.245
87/88	53.2	650	14.135
88/89	54.8	681	14.154
89/90	54.8	610	*

出所: INDICADORES. * 7-9-18L

表 3-167

かんきつ類: オレンジの州別生産状況

1,000t

年度	コリエニテス	エントレオス	ツクマン	フフイ	サ:9:712	その他
1980/81	252.0	130.0	75.0	33.0	73.5	104.5
81/82	215.0	95.7	74.0	38.0	50.9	132.4
82/83	232.5	137.5	69.7	37.1	56.0	106.2
83/84	165.0	104.2	71.5	34.4	61.9	183.0
84/85	166.0	164.1	72.3	43.5	66.4	108.7
85/86	201.2	139.6	73.1	44.1	42.2	122.8
86/87	219.1	212.0	73.3	46.1	64.7	97.8
87/88	231.5	157.0	68.9	52.7	46.6	99.3
88/89	*	*	*	*	*	*

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES. * 7-9-18L

表 B-168

かんきつ類：アムニオン・フルーツの生産推移

年度	栽培面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
1980/81	16.6	150	10,638
81/82	16.6	148	11,224
82/83	16.3	147	11,484
83/84	16.0	145	11,508
84/85	14.2	174	13,275
85/86	13.7	178	14,887
86/87	12.7	174	15,165
87/88	11.3	176	17,867
88/89	10.0	155	16,815
89/90	10.7	135	*

出所: INDICADOR

* 7-9-89

表 B-169

かんきつ類：アムニオン・フルーツの別生産状況

1,000t

年度	サルナシ	エンブレックス	コリエンテス	ソクマン	アムニオン	その他
1980/81	28.0	38.0	23.4	24.0	6.1	30.5
81/82	35.0	35.0	22.0	23.7	7.0	25.3
82/83	37.0	48.2	13.1	22.4	2.2	24.1
83/84	36.0	41.7	11.0	23.6	5.4	27.3
84/85	39.9	48.8	18.0	23.9	7.1	34.3
85/86	42.0	48.8	20.3	23.9	7.9	33.1
86/87	41.0	46.2	25.7	20.8	6.0	31.3
87/88	47.2	42.3	25.7	22.0	7.0	29.8
88/89	*	*	*	*	*	*

出所: BOLSA DE CEREALES DE B. AIRES.

* 7-9-89

表 B-170

かんきつ：別国輸出実績(重量)

1,000t

国別	1985	1986	1987	1988	1989
オランダ	67	61	68	65	85
フランス	33	31	37	38	34
カナダ	4	5	5	6	10
ソ連	20	0	5	14	11
アムニオン	2	3	7	10	7
ポロランド	0	0	4	2	4
イタリア	2	2	4	4	2
サウジアラビア	3	3	1	2	1
その他	12	2	6	1	2
計	143	107	137	164	163

出所: INDEC

表 B-171

かんきつ：別国輸出実績(全額)

1,000t

国別	1985	1986	1987	1988	1989
オランダ	17,405	18,143	19,305	18,612	21,108
フランス	8,403	9,068	9,526	9,752	7,677
カナダ	985	1,927	1,701	2,047	2,212
ソ連	5,496	0	1,211	3,608	2,449
アムニオン	520	734	1,891	2,371	1,303
ポロランド	0	6	1,021	948	845
イタリア	579	691	1,148	1,131	768
サウジアラビア	900	657	433	487	222
その他	2,746	763	1,562	5,251	1,014
計	37,234	32,287	37,798	42,225	38,726

出所: INDEC

2.5. 野菜類

2.5.1. ジャガイモ

表 B-172 ジャガイモ：生産推移

年度別	栽培面積 1,000ha					生産量 1,000t				
	早播	遅早播	遅播	遅遅播	計	早播	遅早播	遅播	遅遅播	計
1980/81	9	10	29	24	132	97	63	1,857	250	2,247
81/82	6	10	69	19	104	80	114	1,420	203	1,817
82/83	7	8	28	16	159	85	114	1,595	220	2,013
83/84	7	10	26	22	115	110	133	1,600	263	2,106
84/85	6	12	69	20	107	115	191	1,613	325	2,244
85/86	7	13	71	21	112	116	128	1,454	299	2,058
86/87	6	11	74	19	109	116	165	1,488	325	2,104
87/88	8	8	72	19	112	141	123	2,214	375	2,859
88/89	6	10	72	16	105	97	157	1,663	248	2,209

出所: TENDENCIA

アルゼンチンにおけるジャガイモの栽培は年間4回(早播, 遅早播, 遅播, 遅遅播)に分けて行われており, 遅播が量的に多い。栽培面積は70年代に140千ヘクタールに達していたが80年代は規模を縮小しており, かつ複登りの生産が主流。栽培面積は100千ヘクタール, 生産量は87/88年に得た2,859千ヘクタールを最高としている。

国内の栽培地帯は 1) ブエノス・アイレス州南部, 2) リオ・デ・ラ・プラタ地域 3) ノーエ地方(サン・ファン州, メンテナ州の大半, リオ・ハ州の一部を含む地方)に分かれているが中でもブエノス・アイレス州南部の BACCARCE, GEN. PUEYREDON, GEN. ALVARADO & TANDIL 地域がもっとも大きな栽培地帯となっている。

2.5.2 トマト

表 B-173 トマト：生産推移

年度	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 t/ha
1980/81	23.4	18.9	372.0	19.7
81/82	29.8	27.4	572.7	20.9
82/83	31.7	31.0	610.9	19.7
83/84	30.6	26.8	560.6	20.9
84/85	38.9	36.7	760.0	20.7
85/86	38.7	38.2	836.5	21.9
86/87	31.5	30.6	677.7	22.1
87/88	27.4	26.2	653.5	24.9
88/89	*	*	*	*

出所: S.E.A.O. * 1989年推定

栽培地帯は全国的に普及しており, 他の作物に比べると一地域集中傾向は低い。87/88年を例にとると国内最大の生産地帯となっているブエノス・アイレス州でも単収生産量は22.5t/ha程度

度であり、全国11州で生産が行われている。

食卓用トマトとケチャップの原料となる工業用トマトを区別して統計している。アエノス・アイリス州やサンタ・エリザベス州など大消費都市の近い地域では食卓用トマトが主体となっており、東部のメントーサ、リオネグロ州などではケチャップ加工の原料とシメナトが栽培が多くを占めている。

表 B-174 トマト：州別生産状況(87/88農年)

州別	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 t/ha
アエノス・アイリス	4.5	180.0	40.0
メントーサ	2.5	141.0	18.7
リオネグロ	3.0	75.3	24.8
サンタ・フェ	1.7	56.2	32.5
サルタ	1.8	52.2	29.6
フフイ	1.2	31.6	27.0
サンフラン	1.5	22.0	17.5
コルトバ	0.6	15.5	25.0
コリエニテス	0.6	14.0	22.7
カタマルカ	0.5	2.8	17.3
その他	3.3	53.3	14.7
計	26.2	653.5	24.9

出所: S.E.A.G.

2.5.3. エンどう豆 (ARVEJA)

表 B-175 エンどう豆：乾燥用エンどう豆生産推移

年度	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 kg/ha
1980/81	15.6	14.4	14.5	1006
81/82	8.6	8.5	8.8	1029
82/83	8.6	8.3	12.0	1567
83/84	8.9	7.8	7.6	981
84/85	10.4	10.3	12.9	1225
85/86	6.6	6.6	7.3	1106
86/87	*	*	*	*
87/88	16.0	16.0	26.1	1631
88/89	*	*	*	*

出所: S.E.A.G.

* 7-9-18L

表 B-176 エンどう豆(青エンどう豆)生産推移

年度	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 kg/ha
1980/81	11.3	11.0	35.6	3226
81/82	8.9	8.9	27.8	3124
82/83	9.2	8.8	28.7	3245
83/84	9.8	6.9	24.1	3488
84/85	10.4	6.7	22.5	2322
85/86	9.8	9.8	23.3	2322
86/87	*	*	*	*
87/88	2.8	2.7	22.6	2735
88/89	*	*	*	*

* 7-9-18L

えんどう豆は、青えんどうとして青物市場に出荷するものと、これを乾燥させて乾燥豆として穀物市場に出荷するものとの二種の形態がある。栽培面積は両者ほぼ同等の10千ヘクタール前後、生産重量は、青えんどうが、25千トン前後、乾燥えんどうはその半分程度である。国内の生産地帯は、いづれにかかわらず、ブリス・アイルランドがもっとも大きく、同州のほか乾燥えんどうでは、サンタ・フェ、ソクマン、メントーサ、青えんどうでは、フワイ、サンタ・フェ、メントーサ州を主要産地としている。

乾燥えんどうは、野菜類の中では数少ない輸出品の1つで、毎年輸出されている。70年代には、40千トン以上の輸出を記録したこともあったが、80年代に入ってから、輸出先市場もほとんどブラジル、メキシコに限定されて、輸出量も多い年で6千トン弱、少ない年には1千トン以下に落ちている。

表 B-177 えんどう豆の国別輸出実績 千トン

国 別	1985	1986	1987	1988
ブリス・アイル	5,896	514	3,276	5,312
オランダ	-	-	-	288
コロンビア	36	-	-	-
ソルブア	34	-	50	2
その他	4	54	-	145
計	5,969	568	3,326	5,745

出所: J.N.G.

2.5.4. 玉ねぎ

表 B-178 玉ねぎ: 生産推移

年 度	栽培面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単 収 / kg/ha
1980/81	12	173	17,140
81/82	15	237	17,188
82/83	15	273	18,623
83/84	15	297	17,953
84/85	*	327	19,912
85/86	16	323	19,922
86/87	18	357	20,070
87/88	*	*	*
88/89	*	*	*

出所: S.E.A.G.

* データなし

表 B-179 玉ねぎ: 州別生産状況 (87/88)

州 別	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単 収 / kg/ha
ブリス・アイル	4.0	129.0	29,318
メントーサ	4.0	79.7	19,925
サン・ファン	3.1	68.1	21,968
コルドバ	0.4	10.0	25,000

リオネグロ	0.4	7.5	23,750
カタマルカ	0.3	7.0	21,333
チルチ	0.4	5.6	14,000
その他	0.6	5.9	-
計	13.6	314.8	23,147

出所: S.E.A.G.

2.5.5. ポロト豆

表 B-180 ポロト豆: 生産推移

年度	栽培面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 t/ha
1980/81	221.8	224.0	1.060
81/82	235.5	254.0	1.106
82/83	228.6	212.5	1.023
83/84	177.1	151.6	991
84/85	193.2	192.3	1036
85/86	193.2	192.3	1036
86/87	240.0	134.2	840
87/88	170.9	172.3	1008
88/89	*	*	*

出所: TENDENCIA * 9-12

表 B-181 ポロト豆: 州別生産状況 (87/88)

州別	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 t/ha
チルチ	115.0	113.0	983
カタルカ	24.5	27.8	1,136
ウスマン	10.2	12.3	1,139
ママイ	11.0	9.9	900
コルトバ	3.1	3.9	1,266
ミオナス	4.9	3.5	724
メントチ	1.6	1.8	1,125
その他	-	0.1	-
計	170.9	172.3	1,008

出所: SEAG

表 B-182 ポロト豆: 国別輸出実績 1,000t

国別	1985	1986	1987	1988
オランダ	-	18.7	22.2	30.1
ブラジル	4.0	50.9	23.4	25.5
スペイン	4.6	12.3	14.9	21.2
イタリー	17.4	19.8	17.8	14.7
キューバ	37.3	20.3	23.4	8.0
アンゴラ	12.0	0.2	1.1	8.2
イスラエル	1.9	3.5	3.2	7.1
ベネズエラ	0.3	0.2	0.1	6.3
フランス	7.5	10.0	6.1	5.1
ベルギー	3.9	3.5	4.7	3.4
その他	105.9	89.6	22.5	24.2
計	199.8	228.7	149.4	154.8

出所: JNG.

2.6 牧畜部門

2.6.1 牛

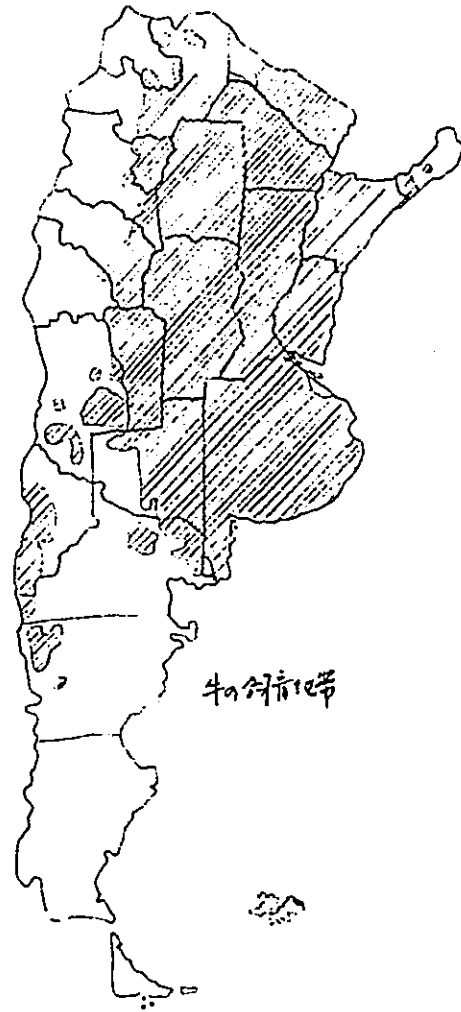
アルゼンチンの牛飼育頭数は 50 百万頭を越え、上回る規模を維持している。この 10 年間の推移を見ると 81 年の 54.2 百万頭より 90 年の 50.5 百万頭に減少している。この間、牛肉の輸出は減少傾向にある。この間、飼育数に対する屠殺数の割合は 83 年の 21%、84 年の 20%、85 年の 21%、86 年の 21%、87 年の 21% に近い高い比率で続いている。この中に含まれる乳牛の割合は、今後、飼育数減少に伴って増えるものがある。この数年間、月間の屠殺数は約 100 万頭、屠殺後の平均重量は 210 kg、年間牛肉生産量は約 260 万トンで一定している。

国内市場における需要は 全般的に購買力の低下から減少しており、1 人年間の牛肉消費量は、80 年代前半の 87.6 kg より 80 年末には 66.3 kg に落ちたと推定されている。このように国内需要の減退に伴って牛肉の屠殺率が高く維持されたことから国内市場では供給過剰の状態が続き価格を下げている。1960 年を 100 とした価格指数で見ると 87 年に 114 に達したあと、下降を続け 89 年には 72 に下落しており、80 年でも 82、83 年と共に、もっとも価格水準の低い状態にある。

国内市場における吸収力の減退から海外市場への販売が求められているが EC 及びシムラグアのストック減少に伴って外国市場の継続した需要から輸出は増加しており、89 年に関し 30 万トン、667 千トンの輸出を行っている。

国内の屠殺工場は内管理庁の認可した工場が全国に 123、このうち 23 工場がブエノスアイレス州内にある。これに続いてサンタフェに 23、コルドバに 12、エントレ・リオスに 5、メンドーサに 4、ツウテンに 3 の分布である。

世界の牛肉市場については日本を中心とする消費の増加により、中東域にのみ供給不足が生じている。



向ともに見られている。この世界市場の需要は、特に牛肉の需要の増加が顕著である。牛肉の需要は、牛肉の需要の増加が顕著である。牛肉の需要は、牛肉の需要の増加が顕著である。牛肉の需要は、牛肉の需要の増加が顕著である。

表 B-123 アルゼンチンの牛生産に関するデータ (A)

年 度	飼育頭数 100万頭	屠殺頭数 100万頭	乳の比率 (%)	屠殺牛の平均重量 (kg)	牛肉生産量 1,000t
1981	54.2	14.6	44	201	2,937
82	52.6	12.4	42	202	2,551
83	53.8	11.4	36	214	2,390
84	54.6	12.3	43	208	2,558
85	54.9	12.6	46	201	2,750
86	53.7	12.8	45	205	2,870
87	52.3	12.7	43	208	2,700
88	52.0	12.2	39	213	2,635
89	51.0	12.5	44	212	2,638
90*	50.3	12.5	41	211	2,643

出所: J.M.C * 推定値。

表 B-124 アルゼンチンの牛生産に関するデータ (B)

年 度	屠殺牛の仕向け比率 (%)		仔牛の価格指数 1960=100	輸出平均価格 USD/t	1人年間消費量 (kg)
	輸出向	国内市場向			
1981	18	82	20	1,523	85
82	20	80	107	1,177	70
83	17	83	101	1,162	67
84	10	90	96	1,208	77
85	10	90	66	1,115	82
86	9	91	102	1,320	85
87	11	89	114	1,420	77
88	10	90	91	1,380	73
89	14	86	91	1,387	72
90	19	81	72	*	*

出所: J.M.C * データなし

表 B-125 アルゼンチンにおける肉の消費量 (牛肉)

期 間	輸 出	国内消費量	計
1950/59年度	418,980	1,605,932	2,024,913
60/69 "	580,250	1,779,236	2,359,486
70/79 "	552,500	1,973,265	2,525,765
80/89 "	367,364	2,302,303	2,669,667

表 B-186

牛肉の輸出実績(重量)

国 別	1985	86	87	88	89
西 独	27	27	31	34	37
米 国	40	41	41	42	42
英 国	0	4	13	21	28
フランス	22	24	24	24	24
イタリ-	11	12	15	14	19
イスラエル	13	11	10	8	15
オランダ	7	7	7	7	10
ス イ ス	3	3	4	4	4
英 領(TP-T)	0	0	0	10	9
ス ペ イ ン	5	5	5	4	4
ポルトリコ	5	3	3	3	3
ハ ル -	10	24	19	15	9
カ ホ ン	4	3	4	4	5
チ リ -	4	3	1	2	3
ハ ル ギ -	1	0	1	1	1
その他	42	22	20	45	43
計	204	220	218	243	299

表 B-187

牛肉の輸出実績(金額)

国 別	1985	86	87	88	89
西 独	79,921	121,229	172,262	195,742	176,446
米 国	101,265	54,566	128,287	111,934	115,035
英 国	0	7,512	12,112	39,731	37,218
フランス	14,651	46,047	22,890	21,854	47,066
イタリ-	15,682	19,506	-1,677	26,777	35,170
イスラエル	17,247	14,334	19,770	11,122	24,666
オランダ	11,652	11,983	12,495	19,274	24,560
ス イ ス	6,580	7,168	14,009	11,720	14,576
英 領(TP-T)	0	2,787	6,710	11,209	11,334
ス ペ イ ン	3,301	7,713	14,833	5,677	7,678
ポルトリコ	5,120	3,780	7,229	1,707	5,174
ハ ル -	6,453	18,817	14,724	8,905	4,518
カ ホ ン	2,621	2,473	3,768	4,078	4,504
チ リ -	3,487	3,184	1,591	2,425	4,443
ハ ル ギ -	2,602	0	1,711	2,125	3,247
その他	59,374	93,920	46,646	75,511	80,723
計	329,974	417,411	551,734	550,039	627,048

出所: INDICADORES

表 B-188

牛: 価格動向

年 度	右牛価格指数 1960=100	輸出平均価格 US\$/C	小児販売: 1トン kgあたり	kgあたり 重量 (kg)
1981	78	1,541	28.9	5.73
82	99	1,192	20.7	8.31
83	100	1,164	17.5	6.09
84	96	1,228	20.7	6.03
85	66	1,122	24.5	4.56
86	94	1,328	18.5	7.77
87	115	1,555	12.5	9.74
88	91	1,367	27.5	6.22
89	91	1,417	22.6	6.28
90	74	1,605	5.0	6.72

出所: INDICADORES

2.62 羊

羊の飼育は、1970年代前半にピークを記録し、その後、行方不明の増加に伴って、飼育頭数が減少し、現在は、1970年代前半の水準に回復している。飼育は、地方（チリケン、リホネカチ、サツカカス州の東部、メントーサ州の一部）に約30百万頭と推定される。国内飼育数の40%は集中する。これに反し、パコパコ地方の飼育は、前世紀の80%のシェアを30%程度に落している。

国内で飼育されている品種は CORRIEULE, LINOLH, MERINO AUSTRIANO, ROMERO, MARSY 等である。

羊は、肉と羊毛の二つの用途を持つ。肉は国内市場で消費され、羊毛は輸出が大半である。中でも羊毛は、特に重要であり、世界市場（イギリス、ソ連、インドネシア、中国、世界市場の生産国）に輸出されている。輸出先は、イギリス、中国、インドネシア、ソ連、オランダ、中国、インドネシア等である。

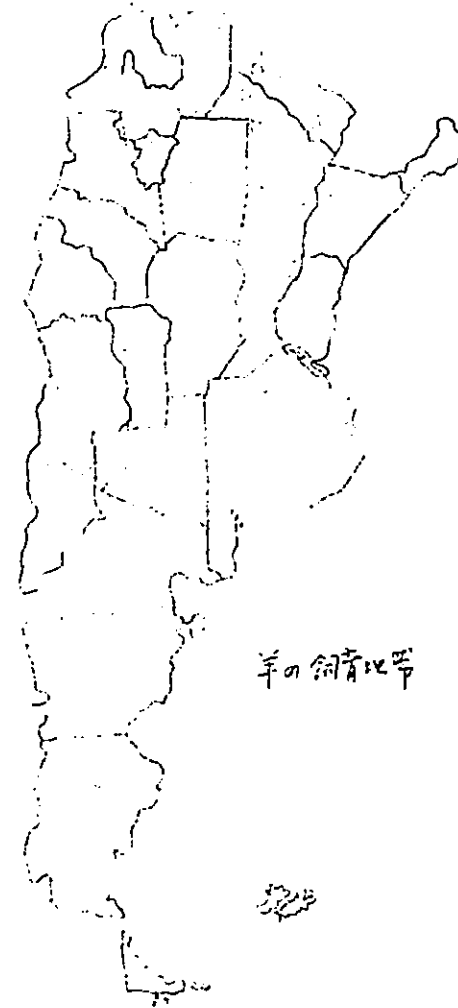


表 B-129 羊：羊肉に関するデータ

年度	飼育頭数 (100万頭)	LINIER取引数 (1,000頭)	平均価格 (1,000A)	指数 (1970=100)
1981	36.8	441.7	94.2	80
82	36.1	249.8	139.2	112
83	35.5	154.3	124.9	142
84	34.6	197.7	100.0	135
85	34.0	131.4	131.8	111
86	31.7	157.7	139.3	114
87	29.7	100.4	152.7	143
88	30.0	62.8	143.2	98
89	5/2	36.2	158.8	87
90	3/2	15.4	74.5	41

出所: JMG

5/2 7-9-86

表 5-170 年：1981-1990

年度	生産量 (1,000t)	国内消費量 (1,000t)	輸出品 (1,000t)	ストック (1,000t)	他格 (1,000t)
1981	155	22	125	65	13.2
82	150	27	122	86	10.1
83	150	35	120	81	19.1
84	137	32	106	80	16.3
85	140	36	118	66	11.8
86	138	34	111	58	14.9
87	145	27	113	64	26.5
88	152	26	94	105	29.4
89	139	23	96	125	13.1
90	135	23	5/2	5/2	5/2

出所：J.N.G. 5/2 7-9-136

24%

1/10-

表 5-171 年：1981-1990

年度	消費増減 (100万t)	省減率 (%)	削減率 (%)	平均削減率 (%)	削減率 (%)	削減率 (%)
1981	5.2	253.6	1337	0.45	73	5.94
82	4.1	2027.9	1103	6.53	107	9.11
83	3.7	1726.1	880	2.16	117	7.78
84	3.6	1744.5	872	2.11	133	9.18
85	4.1	1120.5	656	5.00	81	7.01
86	4.4	1662.1	603	7.72	104	11.55
87	4.9	1767.8	730	5.52	77	5.87
88	4.1	1921.6	707	4.92	77	6.58
89	5/2	1526.1	512	5.95	111	2.50
90	5/2	1421.4	326	5.27	109	11.13

出所：J.N.G. 5/2 7-9-136

1) 概

表 5-192 1981-1990 生産削減

年度	削減			削減率 (%)	削減率 (%)	削減率 (%)
	削減	削減	削減			
1981	18.6	15.0	190.5	3.1	2.0	0.18
82	19.2	16.6	206.1	4.6	2.6	0.19
83	20.2	17.2	194.2	5.6	2.9	0.20
84	24.2	17.4	208.8	6.5	3.1	0.22
85	20.6	14.8	198.4	7.1	3.5	0.22
86	22.2	14.0	227.4	7.2	3.8	0.22
87	23.1	15.1	250.1	7.9	3.9	0.25
88	22.6	14.6	242.7	7.2	3.7	0.20
89*	19.5	13.1	206.0	6.3	3.2	0.21
90*	18.3	12.2	193.0	6.0	3.0	0.19

出所：S.E.A.G. *推定値

表 5-12 鶏類及び卵の生産と消費

年度	鶏 (kg)			卵 (kg)	合計 (kg)	卵 1人当り消費量
	ブロイラー	シイタケ	計			
81	11.9	1.1	13.0	1.2	14.2	145
82	12.2	2.0	14.9	0.9	15.8	154
83	12.0	2.2	14.8	1.1	15.9	159
84	12.5	3.1	15.6	1.3	16.9	164
85	11.6	2.7	14.3	1.3	15.6	166
86	13.2	2.7	15.7	1.4	17.1	170
87	14.8	1.4	16.2	1.2	17.4	173
88	13.9	1.8	15.7	1.2	16.9	170
89*	12.1	1.3	13.4	0.9	14.3	159
90*	11.4	1.3	12.6	0.8	13.4	155

出所: S.F.A.O. * 推定値

国内の養鶏部門は、最近数年間、いちじくしい成長を遂げた部門で盛んに投資が行われている部門である。又、先進国で用いられている高層の飼育設備を、投資の増加も養鶏活動の生産性を高めてきた。

国内の養鶏農家は全般に小型の農家が多く、主にアエノス・アリス、エドレリオス、サクス・コルトハ等、気象条件が養鶏活動に適している消費市場に近い地帯に集中している。

肉鶏の生産活動と平行して産卵鶏の飼育も盛んであり、この数年間飼育技術の改良により急速な成長を示し、90年時点で年間800万羽の生産を行い1人当り110個の消費が可能としている。

国内消費については、この数年間一般消費者の購買力の低下と牛肉価格が鶏肉に比べて割安であったことから鶏肉消費は下降しているが、これは卵産出量の増加による25-30%に増加しているといわれる。肉鶏の生産量は、350万羽、1人当りの消費量は、15kgを越えている。

2.7 林業概況

アルゼンチンは北緯30度の南緯30度の間にあり、南緯半島等、大抵は北緯30度の間にあり、森林地帯は北緯の北緯半島地帯に限定される。天然の森林資源は乏しいが、植林面では、土壌、湿度、日照時間、適当な薪炭材の採取が、北緯の北緯半島地帯に比べて、この間に10-15年で成採が可能となる各地に對し、地質があることと植林活動に有利な条件を備えており、ハクラーツ材の生産量は他國の平均3.5割に對し2.5割を得ることか出来るといわれている。他國に對して不利な点としては、生命地帯、南緯地帯や輸出港までの距離が甚だしく、その輸送コストがかさむこと、他國に對し植林活動に對する投資能力が劣らることか判らる。

表 3-194 木林の輸出入 1000ト

年次	輸出	輸入	収支残
1981	113.7	543.3	- 429.6
82	114.1	279.1	- 165.0
83	88.1	250.7	- 162.6
84	87.3	205.5	- 118.2
85	98.7	132.7	- 34.0
86	101.4	212.0	- 110.6
87	135.0	232.3	- 97.3
88	221.8	192.2	29.6
89	253.3	131.2	122.1

出所: INDEC

表 3-195 国内の植林状況(1981) 1,000ha

州 別	ユーカリ	松 類	その他	計
ミエオース	6.0	181.2	-	187.2
コリエステス	61.1	43.3	-	104.4
エタリオス(テリグロ)	0.1	0.5	100.6	101.2
ブエノスアイレス	60.1	14.5	19.5	94.1
エタリオス(テリグロ外)	59.4	12.6	-	72.0
コルドバ	5.0	20.0	1.0	26.0
リオネグロ	-	2.7	26.1	28.8
メントーサ	-	-	22.5	22.5
サンタフェ	6.0	19.0	-	25.0
フフイ	10.6	2.5	-	13.1
ネウケン	-	5.1	5.3	10.4
その他	4.5	2.2	23.4	30.1
全国	192.8	321.1	203.4	717.3

出所: ANUÁRIO ESTADÍSTICO 1986

製紙工業界の行った調査によると、このように条件がよい2,010年までに195万ヘクタール(植林の適性を勘定すれば315万ヘクタール)の植林が可能であるとされている。

最近、植林活動が盛んになり、1985年、植林に対する特別融資制度が設けられた以降で、以後1985年から90年の植林が盛んになると云。

海外市場における、トルセンタン産木材の需要は、年々増加しており、今後とも増加見通しである。80年代の大半は輸入（特にパシフィック国産）が中心で、80年代のピークとなる限り、対外依存から脱している。

NUMERO FUNDADO 1981	BOLSA DE CEREALES DE BUENOS AIRES
ANUARIO 1988/89	COMISA NACIONAL DE GRANOS
INDICADORES ECONOMICOS	BANCO CENTRAL DE LA REPUBLICA ARGENTINA
INDICADORES	SOCIEDADE IUSPEL ARGENTINA
SINTESE INFORMATIVA ECONOMICA	BANCO DE LA PROVINCIA DE BUENOS AIRES
ANUARIO ESTADISTICO 1986	INSTITUTO NACIONAL DE ESTADISTICA Y CENSOS
ANUARIO - 90	TENDENCIAS ECONOMICAS
AGRO MERCADO	ESTUDIO VOLLERT WILKEN Y ASOC.
PLAN NACIONAL DE DESARROLLO 1987-1991	PRESIDENCIA DE LA NACION
アムセンタン業経懇話会	国際協力事業団、アムセンタン事務所

1991年 3月

報告書作成

INK CONSULTORIA ECONOMICA LTDA.

SÃO PAULO, BRASIL.

